

ノトス尤請負保證金ハ本人ノ都合ニヨリ金額ニ相當スル無記名公債證書(別ニ告示スル)ヲ代用  
 スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三號書式ノ證書ヲ添付スヘシ  
 第八條 入札保證金ハ開札ノ後一番札ヲ除キ其他ハ直チニ還付ス時宜ニヨリ三番札迄ノ保證金ヲ  
 止メ置キ落札人確定ノ後還付スルコトアルヘシ  
 落札人ノ入札保證金ハ請負保證金ト引換(請負人ノ都合ニヨリ請負保證金ト引換ヘスルモ妨ケナシ)還付シ其請負保證金ハ  
 工事竣功検査済ノ後還付スヘシ  
 第九條 入札人開札ノ後其入札ヲ取消シ又ハ落札ノ違ヲ受ケ其請負ヲ辭シ若クハ期限内ニ請書及  
 ヒ保證金ヲ差出サ、ルトキハ落札ヲ取消シ入札保證金ハ違約金トシテ縣ノ所得トスヘシ  
 第十條 請負金ノ内渡ハ一月一回若クハ二回工事ノ出來形ヲ検査シ其金額ニ對スル八分以内ト  
 シ其殘額ハ竣工検査済ノ後下付スヘシ但金額五拾圓未滿ノ請負ニ對シテハ内渡金ヲ爲サ、ルモ  
 ノトス  
 第十一條 請負人工事ノ着手ヲ懈リ又ハ主務官吏ノ指揮ニ從ハス若クハ工事緩慢ニシテ期限内ニ  
 其事業ヲ果スコト能ハスト認定スル場合ニ於テハ直チニ請負ヲ解キ保證金ハ違約金トシテ縣ノ  
 所得トシ請負下渡殘金アルモ此場合ニ於テハ下付セサルモノトス但シ出來形ヲ認定シ其八分以  
 内ノ金額ヲ下付スルコトアルヘシ  
 第十二條 工事ノ順序ハ主務官吏ノ指揮ヲ受ケ工事ニ要スル材料ハ總テ検査済ニアラサレハ使用  
 スルヲ許サス  
 第十三條 竣工検査ニ際シ仕樣書ニ違フトキハ改築ヲ命ス若シ改築セサルトキハ第十一條ニ依リ  
 處分スヘシ

改築ヲ命シタル工事若シ請負期限内ニ竣功セサルトキハ第十四條ニヨリ延期ヲ許可スルコトア  
 ルヘシ但此場合ニ於テ検査ノ爲メニ要シタル日數ハ期限ニ算入セサルモノトス  
 第十四條 竣工日限ノ延期ヲ乞フ者アルトキハ一日ニ付請負金高百分ノ一ニ相當スル金額ヲ違約  
 金トシ請負金下渡ノトキ之ヲ扣除シ縣ノ所得トスヘシ但延期日數ハ通シテ竣工日限日數ノ五分  
 ノ一ヲ超ヘサルモノトス  
 延期ヲ許可シタル後尙其期限内ニ於テ竣工スルコト能ハスト認定スルトキハ第十一條ニ依リ處  
 分スヘシ但此場合ニ於テハ本條ノ違約金ヲ控除スル限ニ在ラス  
 第十五條 天災其他意外ノ事ニ因リ竣工期限ノ延期ヲ乞フトキハ相當ノ延期ヲ許可スルコトアル  
 ヘシ但此場合ニ於テハ第十四條ノ違約金ヲ控除スル限ニ在ラス  
 第十六條 縣廳ノ都合ニヨリ工事請負ヲ取消シ又ハ中止或ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ但此場合  
 ニ於テハ如何ナル事由アリト雖トモ損害ヲ要求スルコトヲ得ス  
 工事請負ノ取消ヲ命シタルトキハ主務官吏ニ於テ出來形及ヒ其工場ニ現在スル材料ヲ検査シ請  
 負内譯書ニ依リ積算シテ代金ヲ定メ請負保證金ト共ニ下付スヘシ  
 工事計書ノ變更ニヨリ請負金額ニ増減ヲ生スルトキハ請負内譯書ニ依リ金額ヲ算定シ其増減ニ  
 對スル請書及ヒ内譯書ノミヲ徵シ請負保證金ハ増減ノ有無ヲ問ハス其證據置クモノトス  
 第十七條 工事着手ノ前後ヲ問ハス請負人自己ノ便宜ニ依リ其請負ヲ辭スルトキハ第十一條ニ依  
 リ處分ス  
 第十八條 工事施行ノ爲メ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ請負人總テ賠償ノ責ニ任スヘシ  
 第十九條 請負保證金ヲ縣ノ所得トスル場合ニ於テ公債證書ヲ代用シアルトキハ之ヲ公賣シ剩餘

アレハ還付シ不足アレハ追徴スヘシ

第二十條 工事請負中災害ノ爲メニ被リタル損失ハ總テ請負人ノ負擔トス但非常天災ニ罹リタルトキハ實地ヲ検査シ請負金半額以上ノ損失アリト認定スル場合ニ限り其損失金額ノ五分以内ヲ補助スルコトアルヘシ

第二十一條 工事實施ニ際シ計畫ノ變更ニアラスシテ内譯書ノ土石其他ノ員數等増減申出ツルトモ請負金額ハ増減セサルモノトス

第二十二條 請負人ハ日々現場ニ出テ工事ヲ擔當スヘシ若シ止ムヲ得サル事故アツテ自カラ出場シ能ハサルトキハ相當ノ代理人ヲ定メ委任狀寫ヲ添ヘ届出シヘシ但縣廳ニ於テ代理人ヲ不適當ト認定スルトキハ何時ニテモ差換ヲ命スヘシ若シ差換ヘサルトキハ第十一條ニ依リ處分スヘシ

第二十三條 工事施行ノ方法危險ニ涉リ或ハ他ニ障害ヲ及ホスヘキモノト認定スルトキハ時宜ニ依リ其方法ヲ變換セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ其工費ヲ増スコトアルモ請負人ハ之ヲ請求スルヲ得ス

第二十四條 工事施行中既定ノ測標ヲ動かカスヘカラス止ムヲ得サル場合アルトキハ主務官吏ノ指揮ヲ受ケヘシ若シ其手續ヲナサズ漫ニ測標ヲ動かストキハ第十一條ニ依リ處分スヘシ

第二十五條 請負人ヨリ竣工日限ノ延期及ヒ工費下渡金等ノ請求ハ總テ主務官吏ヲ經由シテ縣知事ニ差出スヘシ

第二十六條 工事ノ都合ニヨリ特ニ命令書ヲ發シテ請負ハシムルコトアルヘシ(命令書ヲ發スルト其旨ヲ此場合ニ於テ命令書ニ記載ナキ事件ハ本則ニ從フヘキモノトス)

第二十七條 本則第五條第六條第十一條第十四條第二十條第二十二條及ヒ第二十三條ニ記載スル

認定ニ對シテハ如何ナル事由アリト雖モ請負人ニ於テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 第十一條ニヨリ處分ヲ受ケタル者ハ滿一ケ年間本縣土木工事請負入札ニ加ハルコトヲ許サス

第二十九條 書式第一號ヨリ第三號ニ至ル文字ハ楷行二体ノ内ヲ以テシ且數其他調査上必要ナル文字ヲ改竄シ又ハ貼紙ヲナストキハ必ラス之レニ捺印スヘシ

(第一號書式)

記

何郡何町村字何々  
一何々工事

此請負金、、、、也

右御縣土木工事請負規則仕様書及ヒ現場熟覽ノ上入札候也

何府縣何郡何町村何番地(何會社或ハ何組)

族 籍

入札人

氏

名 印

年月日

長野縣知事氏名宛

トノ部 土木

(第二號書式)

土木工事請負御請書

何那何町村何工事

一金何圓

請負高

一金何圓

保證高

前記金額ヲ以テ何々工事請負被命候ニ付都テ御縣土木工事請負規則(及ヒ命令書)ヲ遵守シ  
來ル何日ヨリ着手シ日數幾日間卸何月何日ヲ期シ別冊仕樣内譯書之通無相違竣功可致候若  
シ受負人工事ニ堪ヘス其他不都合有之候節ハ保證人其實ニ任シ一切引受毫モ御差支無之様  
處辨可仕候萬一違背仕候節ハ土木工事受負規則ニ依リ御處分相成聊異議無之依テ御請書差  
上置候也

年月日

原籍

請負人 氏

名印

全

保證人 氏

名印

長野縣知事氏名宛

(第三號書式)

證書

一何公債證書何圓

號番

何枚

(種類ノ異ナル毎ニ列記ス)

右ハ今般何郡町(村)何工事拙者(何郡何村何番地何某)へ請負被命此請負保證金何圓ノ代用  
トシテ書而ノ公債證書差出候處確實也然ル上ハ御規則ニ依リ請負保證金御引上ノ御處分相  
成候節ハ前記公債證書公賣被成下度因テ委任狀相添證書差上置候也

年月日

原籍

公債證書所有人

氏

名印

全

請負人

氏

名印

全

保證人

氏

名印

長野縣知事氏名宛

○長野縣告示第三十九號  
本年本縣告示第三十八號土木工事請負規則第七條請負保證金ニ代用スル無記名公債證書ノ價額ハ  
明治二十三年本縣告示第百二十八號ノ規定ニ據ル  
長野縣知事 淺田徳則  
明治二十五年三月廿八日

○長野縣告示第七十五號  
一 上高井郡 自野村大字高梨 里道延長千六十間  
一 下伊那郡 自須坂町 里道延長千五百八十二間四步  
一 下高井郡 平穩村 里道延長二十三間  
一 東筑摩郡 松本村 里道延長百四十間  
右縣會ノ決議ヲ經テ縣道ニ變換ス  
長野縣知事 淺田徳則  
明治二十五年八月十一日

○長野縣告示第七十九號  
本縣土工條規第一條ニ揭クル河川沿岸ノ町村又ハ組耕地等ニ居住スル地主三分ノ二以上ノ希望ニ  
ヨリ右河川ニ屬スル治水堤防工事ヲ受負ハントスルモノハ本縣土木工事地元受負規則ニ依リ豫メ  
工事受負ニ關スル一切ノ行爲ヲ委任シタル總代人一名ヲ互選シ所轄郡長ノ認可ヲ受クヘシ但總代  
人ニ變更アルハ亦同シ  
長野縣知事 淺田徳則  
明治二十五年八月二十日

○長野縣告示第八十號  
本縣土木工事地元請負規則別冊ノ通相定ム但明治十九年成第二十六號告示中工業地元請負規則ハ  
廢止ス  
長野縣知事 淺田徳則  
明治二十五年八月二十日

土木工事地元請負規則  
第一條 土木工事中治水堤防ニ屬スル工事ハ其利害ニ關係アリト認ムル町村又ハ組耕地人民ノ出  
願ニ依リ地元請負ヲ命スルコトアルヘシ  
第二條 地元請負人ハ明治二十五年告示第七十九號ニ依リ撰定シタル總代人ニ限ルヘシ  
第三條 地元請負ヲ爲サントスルモノハ縣知事ノ指定シタル期限内ニ出願スヘシ  
但其期限後出願ニ係ルモノハ之ヲ採用セズ  
第四條 地元請負人ハ更ニ他人ヲシテ工事ノ請負ヲ爲サシムルコトヲ許サズ若シ之ニ背クモノハ直  
ニ請負ヲ解キ保證金ハ違約金トシテ縣ノ所得トシ請負下渡殘金アルモ此場合ニ於テハ下附セサ  
ルモノトス  
第五條 總代人ハ設計仕樣書ニ就キ請負金見積書ニ一位代價ヲ記シタル内譯書ヲ出スヘシ  
第六條 請負ヲ命セラレタルトキハ五日以内ニ第一號書式ノ請書及内譯書ニ印鑑紙二葉ヲ添ヘ請  
負保證金ト共ニ差出スヘシ若シ期限ヲ過キ請書及保證金ヲ出サハル時ハ地元請負ヲ取消スヘシ  
第七條 請負保證金ハ請負金高ノ壹割トス

請負保證金ハ本縣爲換方預リ切符ニ納金證書ヲ添ヘ差出スヘキモノトス尤本人ノ都合ニヨリ金額ニ相當スル無記名公債證書明治廿三年本縣告示第百廿八號ノ假紙ニヨルヲ代用スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二號書式ノ證書ヲ添付スヘシ

請負保證金ハ工事竣工検査済ノ後還付スヘシ

第八條 明治二十五年本縣告示第三十八號土木工事請負規則第十條ヨリ第二十七條ニ至ル迄第二十六條中劃注ヲ除ク及第二十九條ハ本規則ニモ適用ス

第壹號書式

土木工事地元請負御請書

何那何町村何工事

請負高

一金何圓

前記金額ヲ以テ何々工事地元受負被命候ニ付郡ヲ御縣土木工事地元受負規則(及ヒ命令書)ヲ遵守シ來ル何日ヨリ着手シ日數幾日間即何月何日ヲ期シ別冊仕様内譯書ノ通り無相違竣工可致候萬一違背仕候節ハ土木工事地元請負規則ニ依リ御處分相成聊カ異議無之依テ御請書差上置候也

年月日

長野縣知事氏名宛

原籍  
請負人 氏 名 印

第二號書式

證書

番號 何 枚

一何公債證書何圓

(種類ノ異ナル毎ニ列記ス)

右ハ今般何那何町(村)何工事拙者(何那何町何番地何某)へ受負被命此受負保證金何圓ノ代用トシテ書面ノ公債證書差出候處確實也然ル上ハ御規則ニ依リ請負保證金御引上ノ御處分相成候節ハ前記公債證書公賣被成下度依テ委任狀添證書差上置候也

原籍 公債證書所有人

年月日

全 氏 名 印  
受負人 氏 名 印

長野縣知事氏名宛

○長野縣告示第百十五號

土木監督署ニ於テ富士、天龍川流域河川調査ノ爲メ測量ヲ爲スニ方リ民有地へ立入ル事可有之旨土地收用法第七條第一項ニ依リ主務大臣ヨリ通知アリ

明治二十五年十一月十七日

長野縣知事 淺田 德則

土木 部

渡津

○甲第一號  
人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖ヒ制服着用之節ニ限リ其貸錢請求不相成候條此旨布達候事

長野縣令大野誠代理  
長野縣少書記官 鳥山重信

明治十五年一月四日

○甲第四十二號

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配特ニ人少ルチ配達スル時限リ貸錢請求不相成候條此旨布達候事

長野縣令 大野 誠

明治十五年三月二十四日

○甲第七十一號

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配ノ際特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ配達スル時ニ限リ貸錢請求不相成旨明治十五年三月甲第四拾貳號ヲ以テ布達置候處左ノ如キ印鑑所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成候條此旨布達候事

長野縣令木梨精一郎代理  
長野縣大書記官 鳥山重信

明治十八年六月二十九日

此印ハ會テ關邊局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル印

二寸五分

第 號

何 國  
何 地  
何 郵便局脚夫  
何 之 誰

○ 明治何年何月何日

何 國	何 地
何 郵便局	

ヨシハヤ

○縣令第八十四號

人民私費ヲ以テ開設セル道路橋梁又ハ渡船場ニ於テ自今鐵道近衛充員及後備軍召集ノ際令狀所持ノ者ニ對シ貸錢請求スルヲ得ヌ

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十年七月九日

○長野縣令第三十號

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等郵便配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治十八年甲第七十一號ヲ以テ布達置候處左ノ雛形ノ印鑑携帯ノ者モ同様貸錢請求相成テヌ

長野縣知事 淺田德則

明治二十四年七月十六日

トノ部 渡津

貳寸五分

第 號

何國

○何地郵便電信電信局集配人

何ノ誰

明治年月日

○何地電信取扱所配達人

何ノ誰

明治年月日

○何地郵便電信電信局集配人

何ノ誰

○何地電信取扱所配達人

何ノ誰

○乙第百五十一號

管下各地霖雨出水ノ爲メ落橋渡舟ニ際シ不當ノ賃錢ヲ請求シ行人ノ迷惑ヲ醸シ候間ヒ有之不都合ノ義ニ付右様ノ義決シテ不相成候條嚴重取締致スヘシ此旨相達候事

郡 役 所  
戸 長 役 場

長野縣令木梨精一郎代理  
長野縣大書記官 烏山重信

明治十八年七月九日

○乙第四十二號

道路橋梁渡津ニ於テ警部巡查及看守長看守押丁等制服着用之節並ニ護送ノ囚徒ハ自他府縣ノ差別ナク都テ賃錢請求不相成候條該營業者ヘ示達スヘシ此旨相達候事

長野縣令木梨精一郎代理  
長野縣大書記官 烏山重信

明治十九年三月十五日

○丙第十五號

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊隊伍ヲ組ミ行進之節ハ其賃錢請求不相成候條兼而許可有之架橋渡船願人共ヘ無漏可相達此旨相達候事

郡 役 所  
戸 長 役 場  
長野縣令 榎崎寛直

明治十三年四月十四日

廿年五月六日  
縣令第六  
十三號ヲ以テ  
改正

○カノ部

學務

○甲第五十七號  
師範學校ノ卒業者ニシテ教職ニ從事スル者ハ其服務ノ狀況ヲ記載シ毎年六月十二月ノ兩度該學校  
ニ報告ス可シ  
但既廢ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ同府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノ在  
リシ地方所屬府縣立師範學校ニ報告ス可シ

右布達候事

明治十九年四月十三日

長野縣令

木梨精一郎

○縣令第十一號

明治十九年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第十條第十一條ニ基キ師範學校生徒薦學規  
則左ノ通相定ム

長野縣知事

木梨精一郎

明治二十年一月廿五日

尋常師範學校生徒薦學規則

- 第一條 薦學生徒ハ後來其郡小學校ニ從事セントスル志望アルモノトス
- 第二條 生徒ハ其郡下在籍ノ者ニ限ル
- 第三條 生徒志願者ハ尋常師範學校生徒募集期日十五日前マテニ條末書式ニ依リ願書ヲ郡役所ヘ

カノ部 學務



廿四年三月  
廿日縣令第  
七十二號ニテ  
ノ通改正

出スヘシ

第四條 保證人ハ其郡下ニ本籍ヲ定メ現ニ志願者居住ノ町村内ニ居住スル戸主タルヘシ  
但郡長ニ於テ保證人ヲ不十分ト認ルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ  
第五條 郡長ハ志願者ノ資性品行等及保證人ノ適否ヲ檢察シ適當ト認ムルトキハ尋常師範學校募  
集規則第六條ノ書式ニヨリ薦書ヲ志願者ニ交付スヘシ  
第六條 志願者郡長ノ薦書ヲ得タルトキハ成規ノ入學願書ニ之ヲ添ヘ尋常師範學校ニ出スヘシ  
第七條 薦學生徒ノ員數ハ募集ノ都度之ヲ定ム

願書式

某儀御郡内小學校教員志願ニ付御薦書ヲ以テ本縣尋常師範學校ヘ入學致度尤某ノ身上ニ關スル  
事件ハ保證人ニ於テ一切引受ヘシ候間別紙履歷書相添此段相願候也

何郡何町村何番地居住誰方同居

華士族平民

戸主誰長男弟等

志願者 姓

何郡何町村何番地居住

華士族平民

保證人 姓

名印

幾年幾月

名印

前書之通相違無之且保證人適當ト認メ候ニ付與印候也

年月日

年月日

何郡何町村戸長 姓

名印

○縣令第三十四號

本縣小學校教科用圖書別表ノ通相定メ本年四月一日ヨリ實施ス

長野縣知事 木梨精一郎

履歷書ハ尋常師範學校生徒募集規則第六條ノ式ニヨルヘシ

尋常小學校教科用圖書表

學科	圖書名	卷冊記號	出版年月	著譯編者	出版者
讀	讀書入門	全一冊	明治十九年八月三十日	文部省編輯局	文部省編輯局
	讀書入門掛圖	全一級	明治二十年一月二十日	文部省編輯局	文部省編輯局
	尋常小學讀本	自一至七冊	明治二十年四月廿九日	文部省編輯局	文部省編輯局
唱	小學唱歌集	全三冊	明治十四年十一月ヨリ	文部省音樂取調掛	文部省編輯局
	小學唱歌掛圖	全三級	明治十五年四月ヨリ	文部省音樂取調掛	文部省編輯局
算	訂小學算算書	自一至四冊	明治二十年三月二日	靜岡縣士族	東京日本橋區通旅籠町十一番地 東京府平民 小林八郎

カノ部 學務

三百三十三

三百三十二

廿二年四月  
二十日  
十九日  
以下  
加テ

地	算	習	讀	國	習	國
小學地理書	高等小學算術	習字未定	高等小學讀本	小學習語帖	習字帖	小學珠算新書
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
明治二十年十一月五日訂正	明治二十年九月十日	明治二十年三月二日	明治二十年十二月廿八日	明治十九年九月	明治二十二年一月三十一日	明治二十年三月十五日訂正
白井縣士族	東京府平民	靜岡縣士族	東京府平民	文部省	會津教育會	宮城縣士族
東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	文部省	東京府平民	東京府平民

三百三十四

廿二年八月  
二十日  
十九日  
以下  
加テ

唱	國	理	歴	全	地	新撰地理小志	小學地理書
唱歌	普通算術	新撰理科書	正日本小史	學校用信濃	學校用信濃	新撰地理小志	小學地理書
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
明治十九年九月出版	明治十九年七月廿四日出版	明治二十年六月一日	明治二十年七月十日訂正	明治二十年三月十日	明治二十年三月十日	明治十九年九月廿五日版	明治二十一年二月訂正
文部省	長野縣平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	山形縣士族	東京府平民
東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民	東京府平民

カノ部 學務

三百三十五

高等小學校ノ部讀書圖書及ヒ信濃地理ノ用書ハ各校ニ於テ一書ヲ擇ヒ用ユヘシ  
但小學習書帖ヲ用ユル學校ニ於テハ用器備ハ書學楷梯ヲ用ユヘシ

○長野縣令第五十五號

尋常中學校職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ  
但明治二十年縣令第七號ヲ廢止ス

明治廿四年十二月廿四日

長野縣知事 淺田德則

尋常中學校職務規程

- 第一條 學校長ハ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス
- 第二條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル
- 第三條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク
- 第四條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事並ニ生徒ノ取締ヲ掌ル
- 第五條 書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

○長野縣令第二號

文部大臣ノ指揮ニ依リ明治二十三年十月法律第八十九號地方學事通則並同年勅令第二百十五號小學校令ヲ本年四月一日ヨリ本縣内ニ施行ス  
但小學校令第四章小學校ノ設置ニ關スル事項ハ本年三月一日以後豫メ準備ノ手續ヲ爲スコトヲ得

明治二十五年一月二十六日

長野縣知事 淺田德則

○長野縣令第七號

明治二十四年十一月文部省令第十九號第二十條小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ基キ其細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十五年二月五日

長野縣知事 淺田德則

小學校教員檢定等ニ關スル細則

- 第一條 小學校教員ノ甲種檢定ハ其出願者アル毎ニ之ヲ執行スヘシ  
小學校正教員ノ乙種檢定ハ毎年五月一日ヨリ(日曜日ナレ)本縣尋常師範學校内ニ試驗場ヲ開キ之ヲ執行スヘシ  
小學校准教員ノ乙種檢定ハ上水内郡長野町東筑摩郡松本町ノ二ヶ所ニ開キ期日並試驗場ハ其都度告知スヘシ
- 第二條 檢定願書ハ履歷書並ニ体格書ヲ添ヘ郡長ヲ經由シテ縣知事ヘ差出スヘシ  
甲種檢定願書ハ隨時差出スヘシ乙種檢定願書ハ其年四月十日マテニ差出シ置キ前條第二項第三項ノ期日午前八時試驗ニ出頭スヘシ
- 第三條 尋常小學校本科准教員ノ試驗科目及其程度ハ左ノ如シ  
但裁縫ハ女子ニ限ル又教育中ノ實地授業ハ時宜ニヨリ受験人ヲ以テ生徒ニ代ヘ授業ヲ爲サシムルコトアルヘシ

修身 修身ノ要旨

カノ部 學務

本年八月八日  
縣令第五十四號  
ヲ以テ  
身ヲ改メ

本年八月八日  
日縣令第五  
十號ヲ以テ  
倫理ヲ修正  
身ト改メ

教育ノ大意、教授法、實地授業  
 國語 讀方漢字交リ文、作文日用書類記事  
 算術 珠算加減乗除、筆算加減乗除  
 地理 日本及外國地理ノ要略  
 歴史 日本歴史中重要ナル事柄  
 習字 楷書、行書、草書  
 裁縫 通常衣服ノ裁方縫方

第四條 高等小學校本科男准教員ノ試験科目及其程度ハ左ノ如シ  
 但教育中ノ實地授業ハ時宜ニヨリ受験人ヲ以テ生徒ニ代ヘ授業ヲ爲リシムルコトアルヘシ

修身 人倫ノ要旨  
 教育 德育體育ノ理、教授ノ原理、  
 國語 學校管理ノ方法、實地授業  
 讀方和文、作文漢字交リノ記事論說  
 漢文 讀方、講義  
 數學 算術（珠算加減乗除ヲ含ム）代數初步、幾何大意  
 簿記 單記  
 地理 日本及外國地理ノ大意、地文ノ大意  
 歴史 日本歴史ノ大意  
 博物 生理、動物、植物、礦物ノ大意  
 物理 力、流体、熱、光、音、電、磁學ノ大意

本年八月八日  
日縣令第五  
十號ヲ以テ  
倫理ヲ修正  
身ト改メ

化學 主要ナル金屬、非金屬元素ノ性質効用製法  
 習字 楷書行書草書  
 圖畫 自在畫、用器畫ノ大意  
 體操 普通體操

第五條 高等小學校本科女准教員ノ試験科目及其程度ハ左ノ如シ  
 但教育中ノ實地授業ハ時宜ニヨリ受験人ヲ以テ生徒ニ代ヘ授業ヒシムルコトアルヘシ

修身 人倫ノ要旨  
 教育 德育體育ノ理、教授ノ原理、  
 國語 學校管理ノ方法、實地授業  
 讀方和文漢字交リ文、作文日用書類記事  
 數學 算術（珠算加減乗除ヲ含ム）幾何ノ大意  
 地理 日本及外國地理ノ大意  
 歴史 日本歴史ノ大意  
 理科 博物、生理、物理、化學ノ大意  
 家事 衣食住ニ關スル事項ノ大意、  
 育児作法ニ關スル事項ノ大意、通常衣服ノ裁方縫方  
 習字 楷書行書  
 圖畫 自在畫

第六條 高等小學校專科准教員ノ試験科目及其程度左ノ如シ  
 但何レノ科目ニ就テモ授業法ヲ試験ス又外國語ハ當分英語ニ限ル

圖畫 自在畫、用器畫、何レ法透視畫ノ大意

カノ部 學務

音樂 單音唱歌、複音唱歌、樂器用法  
 體操 普通體操、兵式體操  
 家事 衣食住ニ關スル事項育兒作法ニ關スル事項  
 手工 縫製、通帯衣服ノ裁方織方  
 農業 土壌ノ成分、肥料ノ用法、農具使用ノ法、其他耕種  
 商業 裁培、養蠶、養魚等ニ關スル事項ノ大意  
 外國語 讀方、譯讀、習字、書取、會話、文法

第七條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目中當分圖畫音樂ノ二科ヲ欠ク  
 第八條 高等小學校本科正教員ノ試験科目中當分男子ニハ音樂ノ一科女子ニハ體操ノ一科ヲ欠ク  
 第九條 専科正教員ノ試験ハ先ツ讀書習字算術ノ學力ヲ檢定シタル上ニアラサレハ之ヲ行ハサルモノトス  
 但本文讀書習字算術ノ學力ハ第三條尋常小學校本科准教員ノ程度ニ依ル  
 第十條 専科准教員ニ就テハ別ニ讀書習字算術ニ關スル學力ノ試験ヲ行ハス受験學科答案中ニ就キ其學力ヲ檢定スヘシ  
 第十一條 學力ノ試験ハ各學科共ニ百點ヲ以テ定點トシ其六十點以上ヲ得タル者ニ就テ之ヲ檢定ス  
 但二學科目以内ニ限リ六十點ニ滿タサルモ總約點六十以上ヲ得タルモノハ檢定ノ部ニ加フルコトアルヘシ  
 第十二條 正教員ノ檢定ヲ請フモノハ金壹圓准教員ノ檢定ヲ請フモノハ金五十錢ヲ手數料トシテ

出願ノ際納ムヘシ  
 第十三條 正教員ノ免許狀ヲ受クル者ハ金五拾錢准教員ノ免許狀ヲ受クル者ハ金貳拾五錢ヲ免許  
 受領ノ際手數料トシテ納ムヘシ  
 第十四條 第十二條第十三條ノ手數料ハ何等ノ事情アルニ關ハラズ既收ノ後ハ之ヲ還付セズ  
 第十五條 本縣尋常師範學校生徒卒業ノ際ニ限リ別ニ出願ヲ要セス該學校長ノ申立ニヨリ檢定ヲ行フヘシ  
 但本條ノ場合ニハ第十二條第十三條ノ手數料ヲ納ムルコトヲ要セズ  
 第十六條 准教員ノ免許狀ハ滿五ヶ年間長野縣管内ニ於テ有効ノモノトス  
 第十七條 准教員ノ免許狀書式ハ左ノ如シ  
 高等及尋常小學校ニ通スルモノ  
 小學校准教員免許狀

(何科目々々々々)

族籍 氏 名

生年月日

右ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ五ヶ年間長野縣管内ニ於テ小學校本科(専科)准教員タルコトヲ免許ス

年月日

番 號

長野縣

尋常小學校ニ限ルモノ

小學校准教員免許狀

族籍 氏名

生年月

右ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ五ヶ年間長野縣管内ニ於テ尋常小學校准教員タルコトヲ免許ス

年月日

長野縣

番號

第十八條 檢定願書式ハ左ノ如シ

小學校正(准)教員免許試驗願

某儀御管内小學校教員志願ニ付學力等御試驗ノ上小學校本科正(准)教員尋常小學校本科正(准)教員(小學校何科目ノ一科又ハ何々數科目ノ專科正教員) 免許狀御授與相成度手数料金何程並履歷書体格書相添此段相願候也

住所何郡何町村

族籍

氏

名印

年月日

長野縣知事氏名宛

前書出願ニ付本人品行上取調候處不都合ノ廉無之依テ證明候也

何町村長

氏

名印

小學校教員免許狀授與願

某儀御管内小學校教員志願ニ付別紙履歷書等御認定ノ上何々免許狀御授與相成度手数料金何程相添此段相願候也

住所何郡何町村

族籍

氏

名印

年月日

長野縣知事氏名宛

町村長證明前ニ同シ

履歷書式

履歷書

本籍何國何郡何町村何番地  
寄留地何々

族籍(誰子女)

氏

名印

生年月

學業

一 學業證書寫

一 何々職務

カノ部 學務

- 一 何々
- 一 賞罰
- 一 何々

体格検査書

- 一 体格
- 一 體質
- 一 身幹
- 一 体重
- 一 視力
- 一 瘡
- 右之通候也

年月日

族籍

氏

生年月名

住所醫師

氏

名印

○長野縣令第八號  
 明治二十四年六月文部省令第四號小學校祝日大祭日儀式規程第八條ニ基キ其次第ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治廿五年二月五日

長野縣知事 淺田徳則

小學校祝日大祭日儀式次第

- 第一條 紀元節 天長節 元始祭 神嘗祭及新嘗祭ノ儀式ハ左ノ次第ニ據ルヘシ  
 但未ダ 御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ第四款第十款第十一款ヲ省ク
- 一 生徒ノ父母親戚及町村内ノ參觀人着席
- 二 生徒一同着席
- 三 町村長學校職員其他參列員着席
- 四 學校長若クハ首席教員  
 陛下ノ 御影ヲ奉開ス 此間一同起立
- 五 一同最敬禮  
 學校長若クハ首席教員一同ニ代リ左ノ祝詞ヲ陳フ  
 謹テ天皇陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉ル  
 謹テ皇后陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉ル
- 六 唱歌 (君が代)一同起立合唱ス
- 七 學校長若クハ教員 勸語ヲ奉讀ス 此間一同起立
- 八 學校長若クハ教員小學校祝日大祭日儀式規程第一條第三款ニヨリ演說ス

カノ部 學務

- 九 唱歌(第四條ニ據ル)一同起立合唱ス
- 十 一同最敬禮
- 十一 學校長若クハ首席教員  
陛下ノ 御影ヲ奉閉ス 此間一同起立
- 十二 一同退席
- 第二條 孝明天皇祭 春季皇靈祭 神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ儀式ハ左ノ次第ニ據ルヘシ  
一 生徒ノ父母親戚及町村内ノ參觀人着席  
二 生徒一同着席  
三 町村長學校職員其他參列員着席  
四 學校長教員小學校祝口大祭日儀式規程第一條第三款ニヨリテ演說ス  
五 唱歌(第四條ニ據ル)一同起立合唱ス  
六 一同退席
- 第三條 一月一日ノ儀式ハ左ノ次第ニヨルヘシ  
但シ未ダ 御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ第四款第八款第九款ヲ省ク  
一 生徒ノ父母親戚及町村内ノ參觀人着席  
二 生徒一同着席  
三 町村長學校職員其他參列員着席  
四 學校長若クハ首席教員  
陛下ノ 御影ヲ奉閉ス 此間一同起立

- 五 一同最敬禮  
學校長若クハ首席教員一同ニ代リ左ノ祝詞ヲ陳フ  
謹テ天皇陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉ル  
隨テ皇后陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉ル
  - 六 唱歌(君が代)一同起立合唱ス
  - 七 唱歌(第四條ニ據ル)一同起立合唱ス
  - 八 一同最敬禮
  - 九 學校長若クハ首席教員  
陛下ノ 御影ヲ奉閉ス 此間一同起立
  - 十 一同退席
  - 第四條 前各條ノ歌詞及樂譜ハ左ノ如シ
- |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 新 | 神 | 元 | 天 | 紀 | 若 |
| 嘗 | 嘗 | 始 | 長 | 元 | 元 |
| 祭 | 祭 | 祭 | 節 | 節 | 節 |
| 東 | 東 | 東 | 東 | 東 | 東 |
| 文 | 文 | 文 | 文 | 文 | 文 |
| 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 |
| 省 | 省 | 省 | 省 | 省 | 省 |
| 音 | 音 | 音 | 音 | 音 | 音 |
| 樂 | 樂 | 樂 | 樂 | 樂 | 樂 |
| 取 | 取 | 取 | 取 | 取 | 取 |
| 調 | 調 | 調 | 調 | 調 | 調 |
| 掛 | 掛 | 掛 | 掛 | 掛 | 掛 |
| 編 | 編 | 編 | 編 | 編 | 編 |
| 纂 | 纂 | 纂 | 纂 | 纂 | 纂 |
| 小 | 小 | 小 | 小 | 小 | 小 |
| 唱 | 唱 | 唱 | 唱 | 唱 | 唱 |
| 歌 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 |
| 集 | 集 | 集 | 集 | 集 | 集 |
| 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 |
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 編 | 編 | 編 | 編 | 編 | 編 |
| 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 |
| 瑞 | 瑞 | 瑞 | 瑞 | 瑞 | 瑞 |
| 穗 | 穗 | 穗 | 穗 | 穗 | 穗 |
| の | の | の | の | の | の |
| 歌 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 |

カノ部 學務

三四十七



孝明天皇祭 文部省音樂取調掛編纂小學唱歌集第三編中  
 春季皇靈祭 文部省音樂取調掛編纂小學唱歌集第二編中  
 神武天皇祭 文部省音樂取調掛編纂小學唱歌集第二編中  
 秋季皇靈祭 文部省音樂取調掛編纂小學唱歌集第二編中  
 一月一日 東京音樂學校編纂中等唱歌集中  
 東京音樂學校編纂中等唱歌集中

治る御代の歌  
 榮ゆく御代の歌  
 天津日嗣の歌  
 榮ゆく御代の歌  
 君が代の歌  
 君が代の初春の歌

第五條 最敬禮ノ式ハ帽ヲ脱ッ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂レ手ヲ膝ニ當テ敬意ヲ表スルモノトス  
 但女子洋服着用ノ節ハ脱帽ノ限リニ在ラス

第六條 町村長學校職員其他參列員ハ禮服又ハ袴羽織ヲ着スヘシ

第七條 生徒及參觀人ニハ可成禮服羽織袴又ハ洋服ヲ着セシムヘシ

第八條 式場ハ清潔ニシテ靜肅ナルヲ要ス

第九條 第一條第六款第九款第二條第五款第三條第六款第七款ハ唱歌ヲ教授セサル學校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得

○長野縣令第九號

明治廿四年十一月文部省令第十四號小學校教科用圖書審査ニ關スル規則ニ基キ其細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治廿五年二月五日

小學校教科用圖書審査ニ關スル細則

長野縣知事 淺田德則

第一條 小學校教科用圖書ノ審査委員ハ小學校教科用圖書ノ新定若クハ更定ヲ要スルトキニ於テ其都度之ヲ命スヘシ

第二條 審査委員ノ會場ハ縣廳内ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 審査會ノ期限ハ五十日ヲ超過スヘカラス

第四條 審査會ハ委員半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第五條 議決ハ過半數ニ依リ可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第六條 審査會ニハ一科若クハ數科ニ限リ該學科ニ通曉スルモノヲシテ特ニ之レニ參與セシムルコトアルヘシ

但議決ノ數ニ加ハルヲ得ス

第六條 審査會ノ書記ハ縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 審査委員中一里以外ニ在ルモノニハ車馬賃一里貳拾錢涼車賃一哩拾錢滞在手當一日壹圓

第八條 審査委員長ヨリ審査ノ顛末ヲ具申スルトキハ左ノ各款ニ依ルヘシ

一 開閉會ノ年月日及會議ノ日數

二 議事ノ顛末

三 審査決定ノ教科書ニ係ル意見

四 前各款ノ外左表ヲ製シ添付スヘシ

探定教科用圖書表

尋常小學校ノ部

何ヶ年學期

カノ部 學務

廿五年二月  
十日訓令第  
廿號小學校  
設備心得案

學科名		圖書名	卷冊記號	出版年月	定價	價	著譯者氏名	發行者氏名

高等小學校ノ部 何ヶ年學期

三百五十一

○長野縣令第十號  
明治廿三年十月勅令第二百十五號小學校令第十九條ニ基キ小學校設備規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
明治廿五年二月五日 長野縣知事 淺田德則

小學校設備規則

第一條 校地ハ道徳上並衛生上ニ害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ撰フヘシ  
第二條 校舍ハ學校ノ種類學級ノ編制兒童ノ數等ニ應ジ之ニ必須ナル教室教員室等ヲ備フヘシ  
土地ノ情況ニ依リ便宜學校長若クハ教員ノ住宅ヲ設クヘシ  
便宜ノ地ニ相當ノ建物アルトキハ之ヲ校舍ニ充用スヘシ  
校舍ノ建築ハ主トシテ學校經濟ニ注意シ授業上管理上衛生上等ノ便ヲ圖リ務メテ外觀ノ虛飾ヲ去リ質朴堅牢ニシテ土地ノ民度ニ適合シタルモノタルヘシ  
第三條 校具ハ學校ノ種類學級ノ編制兒童ノ數等ニ應ジ之ニ必須ナルモノヲ備フヘシ

第四條 休操場ハ危險ノ虞ナキ場所ヲ撰フヘシ

○長野縣令第十一號  
明治二十四年十一月文部省令第十六號第四條ニ基キ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ノ代人ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
明治二十五年二月五日 長野縣知事 淺田德則

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ノ代人ニ關スル規則

第一條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ヲ一時他ノ町村ニ住居セシメ該町村ノ尋常小學校ニ就學セシメントスルトキハ該町村住民中ニ就テ代人ヲ立テ該町村長ニ届出ツヘシ  
學齡兒童ヲ保護スヘキ者一時他ノ市町村ニ住居シ又ハ行商等ノ爲メ其義務ヲ行フニ不便ナルトキハ町村住民中ニ就キ代人ヲ立テ町村長ニ届出ツヘシ  
町村長ニ於テ其代人ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムヘシ  
第二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者貧窮其他ノ事情ニ依リ其兒童ヲ尋常小學校ニ就學セシムルニ困難ナル場合ニ於テ之ニ代リテ該兒童ヲ保護セントスル者アルトキハ町村長ノ許可ヲ得テ之ヲ代ハトナスヘシ  
第三條 第一條第二條ノ代人ハ該兒童保護者ト同一ノ義務アルモノトス

○長野縣令第十二號  
明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第二十三條ニ基キ小學校ニ出席スルコトヲ許サハル兒

カノ部 學務

三百五十一

童ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十五年二月五日

長野縣知事 淺田 徳則

小學校ニ出席スルコトヲ許サ、ル兒童ニ關スル規則

第一條 一家中ニ虎列刺、痘瘡、發疹、登革、赤痢、實布の里亞病者アルトキハ其兒童ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

第二條 前條ノ疾病者若クハ水痘、麻疹、流行性感冒、百日咳、流行性眼病、疥癬、其他ノ流行病ニ罹リ傳染ノ恐レアル兒童若クハ癩病、脫疽等汚穢近クヘカラサル疾病ニ罹ル兒童ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

第三條 凶暴ニシテ他人ニ危害ヲ加ヘ若クハ不良ノ行爲アル兒童ニシテ訓誡ヲ加フルモ尙改メサルトキハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

第四條 不具若クハ發育不充分ナルカ爲メ規程ノ課業ニ堪ヘサル兒童ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

第五條 出席兒童ニシテ前各條ニ觸ル、者アルトキハ學校長若クハ首席教員ハ町村長ニ協議ノ上退席ヲ命ジ之ヲ該兒童保護者ニ告知スヘシ  
前項ニ掲クル者其病癒ヘ又ハ行爲改悛ニ至リ又ハ發育ノ度課程ニ堪ユルニ至ルトキ學校長若クハ首席教員ニ於テ更ニ出席ヲ許シタルトキハ之ヲ町村長ニ報告スヘシ

○長野縣令第十三號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第二十四條ニ基キ文部大臣ノ許可ヲ受ケ學齡兒童就學

及家庭教育ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十五年二月五日

長野縣知事 淺田 徳則

學齡兒童就學及家庭教育ニ關スル規則

第一條 毎年三月三十一日迄ニ學齡ニ達スヘキ兒童アルトキハ其保護者ニ於テ本人ノ氏族籍誕生ノ年月日及就學セシムルコト能ハサル事由ヲ詳ニシ猶豫(期限ハ一ケ年以内トス)又ツヘシ

第二條 前條ニ該當スル兒童ニシテ就學セシムルコト能ハサルトキハ兒童保護者ニ於テ本人ノ氏族籍誕生ノ年月日及就學セシムルコト能ハサル事由ヲ詳ニシ猶豫(期限ハ一ケ年以内トス)又ハ免除願ヲ前條ノ期日マテニ町村長ニ差出スヘシ

第三條 就學猶豫又ハ免除相當ト認ムヘキモノハ概略左ノ如シ

但猶豫第一第二免除第三ハ醫師ノ證明書ヲ要ス

猶豫

- 一 疾病ニ罹リ學年ノ始メヨリ二ヶ月以内ニ治癒ノ目的ナキ者
  - 二 身軀ノ發育不全ナル者
  - 三 已ムヲ得サル事故ノ爲メ學年ノ始メヨリ二ヶ月以内ニ就學セシメ難キ者
- 免除
- 一 貧窮ニシテ兒童ヲ就學セシムルハ一家ノ生活ニ差支アル者
  - 二 兒童ノ通學上著シキ不便アル者
  - 三 癱疾不具ノ者

カノ部 學務

二十五年七月十一日  
令第一五號  
以、學務  
綱要  
定メラル

第四條 町村長ハ第二條ノ申立ヲ相當ト認メ之レテ猶豫シ又ハ免除セントスルトキハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 就學猶豫又ハ免除ノ許可ヲ得タルモノト雖モ就學セシムルコトヲ得ヘキ場合ニ至リタルトキハ兒童保護者ニ於テ其就學セシムヘキ小學校ヲ記載シ町村長ニ申出ツヘシ

第六條 就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノニシテ滿期ノ後直ニ就學セシメントスル者ハ兒童保護者ヨリ其就學セシムヘキ小學校ヲ記載シ町村長ニ申出ツヘク又引續キ就學セシムルコト能ハサル者ハ第二條ノ手續ニヨリ更ニ猶豫願ヲ出スヘシ

第七條 兒童就學ノ後未タ尋常小學校ヲ卒業シテ一ケ年以上就學セシムルコト能ハサル場合アルトキハ兒童保護者ハ第二條ノ手續キニヨリ猶豫願ヲ出スヘシ

第八條 學齡兒童ハ町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ入レス家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルトキハ總テ町村長ノ監督ニ屬シ其兒童ハ該町村尋常小學校ニ於ケル試験ト同等ノ試験ヲ受ケシムヘシ

第九條 前條ノ場合ニ於テ町村長ハ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルニ足ルヘキ相當ノ事由アリ其教授者モ尋常小學校教員免許狀ヲ有スル者若クハ之レニ相當スル學力ヲ有スルト認ムル者ニ限リ許可スヘシ

第十條 家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルトキハ總テ町村長ノ監督ニ屬シ其兒童ハ該町村尋常小學校ニ於ケル試験ト同等ノ試験ヲ受ケシムヘシ

第十一條 町村長ハ學齡調査簿ヲ製シ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一 學齡兒童ノ住所氏名年月

廿五年七月十一日  
令第一五號  
以、學務  
綱要  
定メラル

二 學齡兒童ハ保護者ノ住所氏名職業

三 就學ノ場所

四 就學及尋常小學校ノ教科(三年)ヲ卒業シタル年月日

五 就學ノ猶豫又ハ免除ノ事由及年月日

六 就學ニ關スル督促ノ摘要

七 小學校令第二十三條ニヨリ欠席一學年ニ及フ者アルトキハ其事由

八 小學校令第三十一條第一項及第二項ノ事情アルカ爲メ就學セシムルコト能ハサル者ハ其事由

第十二條 町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於テハ學籍簿ヲ製シ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一 兒童ノ住所氏名生年月

二 兒童保護者ノ住所氏名職業

三 入學退學及卒業ノ年月日

四 修業ノ經歷

第十三條 町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於テハ出席簿ヲ製シテ兒童ノ出席欠席等ヲ記入シ左ノ取扱ヲナスヘシ

一 相當ノ事由ナクシテ出席セサルコト五日以上ニ及フ者アルトキハ其保護者ニ對シ督促ヲナスヘシ

二 督促二回ニ及フモ尙其効ナキトキハ之ヲ町村長ニ報告スヘシ

第十四條 町村長ハ前條第二ノ報告アルトキハ兒童ノ保護者ニ督促シテ其兒童ヲ出席セシムヘシ

第十五條 前條ノ督促ニ應セサル者アルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ具申スヘシ

第十六條 郡長ハ町村長ヨリ前條ノ具申アルトキハ兒童ノ保護者ニ對シ更ニ説諭ヲ加フヘシ

第十七條 町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於テハ學年ノ終リニ左ノ事件ヲ町村長ニ報告スヘシ

一 其年卒業シタル兒童ノ住所氏名

二 兒童修業ノ成績

三 小學校令第二十三條ニ該當スルカ爲メ欠席一學年ニ及ヒタル兒童ノ住所氏名

第十八條 町村長ハ學齡兒童ニ就キ學年ノ始メヨリ三月以内ニ左ノ事項ヲ郡長ニ報告スヘシ

一 前學年マテニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ卒業リタル兒童ノ數

二 町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於ケル兒童ノ現數

三 家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ現數

四 新學年ニ於テ初メテ就學シタル兒童ノ數

五 新學年ニ於テ就學ヲ猶豫シタル兒童ノ數

六 前學年マテニ就學ヲ免除シタル兒童ノ數

七 前學年ニ於テ臨時ニ町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ入學シタル兒童ノ數

第十九條 就學ニ關スル町村長ノ事務取扱ハ學務委員ヲシテ之ヲ補助セシムヘシ

第二十條 町村長ハ毎學年新ニ就學スヘキ兒童ノ名簿ヲ製シ其年二月末日迄ニ該小學校ニ通牒スヘシ

廿五年七月十一日  
以テ定メラレシ分

學齡兒童就學及家庭教育ニ關スル規則第十一條ニヨル學齡調査簿様式

編入番號	住所 族籍	兒童姓名	學齡		就學 不 就學 歲 別	住所 兒童保護者姓名 職業
			ニ入ル年 月	ヲ終ル年 月		
					六歲	
					七歲	
					八歲	
					九歲	
					十歲	
					十一歲	
					十二歲	
					十三歲	

備考 就學不就學區別ノ欄ニハ學齡兒童就學及家庭教育ニ關スル規則第十一條ニ依リ第三(就學ノ場所)第四(就學及尋常小學校ノ教科)第三(卒業リタル年月日)第五(就學ノ猶豫又ハ免除ノ理由及年月日)第六(就學ニ關スル督促ノ摘要)第七(小學校令第二十三條ニヨリ欠席一學年ニ及フモノアルトキハ其事由)第八(小學校令第三十一條第一項及第二項ノ事情アルカ爲メ就學セシムル不能ハサルモノハ其事由)ノ事項ヲ當該ノ欄ニ記入スヘシ

正五年七月一日  
第十一號  
以下  
レレ分

學齡兒童就學及家庭教育ニ關スル規則第十二條ニヨル學籍簿様式

備考	編入番號	住所 氏名 生年月日		修業ノ經歷				卒業	退學	退學	住所
		年	月	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	年月日	年月日	理由	兒童保護者姓名 職業

備考  
修業ノ經歷ノ欄ニハ各年別ニ入校前ノ教育ニ關スル事項及修業學習ノ年月等ヲ記入スヘシ但補習科設置ノ學校又ハ高等科設置ノ學校ニ於テハ適宜ノ欄ヲ設ケテ其修業ノ經歷ヲ記入スルモ妨ナシ

正五年二月  
十五日  
第十一號

○長野縣令第十四號  
明治廿三年十月勅令第二百十五號小學校令第四十四條ニ基キ文部大臣ノ許可ヲ受ケ町村立小學校授業料規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
明治廿五年二月五日  
長野縣知事 淺田徳則

町村立小學校授業料規則

第一條 授業料ハ左ノ範圍ニ於テ町村長其額ヲ定メ郡長ヲ經由シテ縣知事ニ届出テ並町村内ニ公告スヘシ

以後其額ヲ變更スルトキ亦同シ

- 一 高等小學校 一ヶ月一名 金 三十圓以上  
六十圓以下
- 一 尋常小學校 一ヶ月一名 金 三圓以下

第二條 學校基本財産ヨリ生スル收入若クハ寄付金等ヲ以テ經費ヲ支辨シ得ル學校ニシテ前條範圍ノ金額ヲ徵收スルヲ要セス別ニ低額ノ授業料ヲ定メントストキ又ハ全ク徵收スルヲ要セザルトキハ町村長ハ其事由ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 一家ノ兒童數名同時ニ同校ニ就學スルトキハ金額最も多キ一名ノ外授業料ヲ半額マテ減スルコトヲ得

第四條 授業料ハ毎月之ヲ徵收スヘシ

但町村ノ情況ニ依リ年分數回ニ徵收期ヲ定ムルモ妨ケナシ

第五條 授業料ハ出席ノ有無ニ關ハラズ月割ヲ以テ全額ヲ徵收スルモノトス

但病氣其他止ム事得レ事故ニ依リ欠席全月ニ涉ルモノハ其月ニ限り免除スルコトヲ得

カノ部 學務

第六條 物品若クハ勞力ヲ以テ授業料ニ代納スルコトヲ許ス場合ニ於テハ豫メ時價ニ依リ其金額ヲ算定スヘシ

第七條 町村長ニ於テ就學兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナルカ爲メ授業料ノ金額若クハ一部ヲ免除シタルモノアルトキハ其人員並金額ヲ翌年五月一日限り郡長ヲ經由シテ縣知事ニ報告スヘシ

○長野縣令第十五號

明治廿五年二月五日 本縣令第十四號町村立小學校授業料規則ハ代用私立小學校ニ適用ス

明治廿五年二月五日

長野縣知事 淺田徳則

○長野縣令第十六號

明治廿四年十一月 文部省令第十八號第六條ニ基キ私立小學校設立者ノ資格ヲ定ムルコト左項ノ如シ

明治廿五年二月五日

長野縣知事 淺田徳則

本縣内ニ於テ公民權ヲ有スル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルコトナキ者

○長野縣令第十七號

明治二十四年十一月 文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則第十二條ニ

基キ其細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治廿五年二月十日

長野縣知事 淺田徳則

第一條 小學校長及教員任用解職其他進退ニ關スル規則  
町村立小學校教員ノ任用ヲ要スルトキハ町村長ニ於テ一名ニ付三名以下ノ候補者ヲ薦舉スヘシ

第二條 町村立小學校長ノ任命ヲ要スルトキハ正教員中ニ就キ町村長之ヲ具申スヘシ

第三條 町村立小學校ニ於テ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ者ヲ得ルコト能ハサル時ハ町村長ニ於テ二年以内ノ期限ヲ定メ一時教授スル准教員ノ任用ヲ具申スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ現ニ就職セル准教員中ニ就キ一時教授セシメントスルトキハ其旨ヲ具シテ許可ヲ請フヘシ

第四條 町村立小學校教員ノ給料ニ増額ヲ要スルトキハ町村長ニ於テ其事由ヲ具申スヘシ

第五條 町村立小學校教員ノ轉任ヲ要スルトキハ双方ノ町村長連署具申スヘシ  
前項ニ依リ正教員ヲ准教員トシ又ハ給料ヲ減少スヘキ場合ニ於テハ本人ヨリ異存ナキ旨ノ書面ヲ徴シ之ヲ添付スヘシ若シ本人ニ於テ異存アルモ事情止ムヲ得サルトキハ其旨ヲ具申スヘシ

第六條 町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當シ町村長ニ於テ休職セサルヲ得サルモノト認メタルトキハ其事由ヲ具申スヘシ

一 傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルコト二ヶ月以上ニ及フトキ

二 學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ

第七條 町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當シ町村長ニ於テ退職セサルヲ得サルモノト認メタル

ルトキハ其事由ヲ具申スヘシ  
 但傷痰及疾病ニハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ  
 一 正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出タルトキ  
 二 傷痰ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ  
 三 休職ノ期限滿ツルモ休職ヲ命ジタル事由消滅セサルトキ  
 四 休職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ休職者ノ復職スルトキ  
 第八條 町村立小學校准教員左ノ事項ニ該當シ町村長ニ於テ退職セサルヲ得サルモノト認メタルトキハ其事由ヲ具申スヘシ  
 但傷痰又ハ疾病ニハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ  
 一 正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出タルトキ  
 二 傷痰ヲ受ケ若シクハ疾病ニ罹リ永ク其職務ニ堪ヘサルトキ  
 三 學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ  
 第九條 私立小學校設立者ニ於テ學校長及教員ノ任用ヲ開申スルトキハ本人ノ履歷書ヲ添フヘシ  
 又解職ヲ開申スルトキハ其事由ヲ記載スヘシ  
 第十條 第一條乃至第八條ニ關スル書面ハ左ノ書式ニ依リ親展ヲ以テ差出スヘシ

訓導(准訓導)薦擧書

月俸何圓

何免許狀

氏名

月俸何圓

何免許狀

氏名

右何名ノ内何名(右ノ者)前記ノ月俸ヲ以テ何々學校訓導(准訓導)ニ御任命相

成度履歷書相添ヘ薦擧候也

長野縣知事氏名宛

郡長與書

何町村長

氏

名印

履歷書

本籍

何國郡町村番地

族籍

寄留地

何郡町村番地

氏名

何年何月生

一何々

學業

一何々

一何々

職務

カノ部 學務



一何々  
賞 罰  
一何々  
右之通候也

學校長任命具申書

何々學校訓導

氏 名

右何々學校長ニ兼任被命度此段具申候也

年 月 日

何町村長

氏 名 印

長野縣知事氏名宛  
郡長與書

一時教授スル准訓導薦書

何免許狀

氏 名

月俸何圓

、、、、

、、、、

月俸何圓

、、、、

、、、、

右何名ノ内何名(右ノ者)何々ニ付一時教授ノ爲メ前記ノ月俸ヲ以テ何年

月 日迄何々學校准訓導ニ御任命相成度履歷書相添ヘ薦舉候也

年 月 日

何町村長

氏 名 印

長野縣知事氏名宛  
郡長與書

准訓導ヲ以テ一時教授セシムヘキ義ニ付具申書

何學校准訓導 氏 名

何々ニ付何年月日ヲ限り右何某ヲ以テ訓導ニ代リ教授擔任爲致度候間御許可相成度此段具申候也

年 月 日

何町村長

氏 名 印

長野縣知事氏名宛  
郡長與書

訓導(准訓導)増給具申書

何學校訓導(准訓導)

氏 名

右是迄月俸何圓ニ有之候處何、、、、ニ付何圓ニ増額仕度此段具申候也

年 月 日

何町村長

氏 名 印

カノ部 學務

長野縣知事氏名宛  
郡長與書

訓導(准訓導)轉任具申書

何學校訓導(准訓導)

氏名

右月俸何圓ヲ以テ更ニ何々學校訓導(准訓導)ニ御任命相成度此段具申候也

年月日

何町村長 氏名

名印

長野縣知事氏名宛  
郡長與書

何々具申書

何學校訓導(准訓導)

氏名

右之者何々ニ付別紙ノ通辭表差出〔候ニ付退職被命度〕(候得共何々ニ付尙勤  
續致居候様致度)(何々)  
右何學校ノ義是迄何々ニ有之候處今般何々ヲ以テ何々ニ變更相成何々ニ付前

記ノ訓導(准訓導)(休職退職)相成度(休職中月俸金何圓給與致度)(何々)

右ノ者何々ニ付別紙診斷書之通傷減ヲ受テ(疾病ニ罹リ)何月何日以來出校不  
致教授上差支候間休職(退職)被命度(休職中月俸何々)(到底回復無覺束何々  
ニ付退職被命度)

右ノ者何々ニ付何年月休職被命候處今以テ何々ニ付何々退職被命度

右ノ者訓導何某何々ノ故ヲ以テ休職中現職被命候處何某復職ニ付退職(更ニ  
何々)被命度此段具申候也

年月日

何町村長

氏

名印

長野縣知事氏名宛  
郡長與書

○長野縣令第十八號  
明治廿四年十一月文部省令第二十一號小學校長及教員職務及服務規則ニ基キ其細則ヲ定ムルコト左  
ノ如シ

明治廿五年二月十日

小學校長及教員職務及服務細則

長野縣知事 淺田德則

カノ部 學務

第一條 學校長ハ校務ヲ整理シ教員ヲ監督シ町村教育ノ良否ニ至テハ常ニ其責ニ任シ懇切ニ其職務ヲ盡スヘシ

第二條 學校長ヲ置カサル學校ニ於テハ其主席教員單級學校ニ於テハ其教員前條ノ責ニ任スヘシ

第三條 正教員ハ學校長ノ指揮ニ從ヒ准教員(補助教員)ハ學校長及正教員ノ指揮ニ從ヒ兒童ヲ教育スルハ勿論其他教授ノ準備ヲ爲シ校具ヲ整理シ教育ノ成績ヲ調査スル等ノ事務ヲ取扱フヘシ

第四條 補習科ノ設ケアル學校ノ教員ハ正教科ノ教授ニ差支ナキ限りハ學校長ノ指揮ヲ受ケ其教授ノ依囑ニ應スヘシ

第五條 學校長教員新任轉任トモ辭令書受領ノ日ヨリ五日以内ニ赴任スヘシ

第六條 教員ハ教授準備ノ爲メ授業時間前必ス參校スヘシ

第七條 教員ハ學年末ノ休業日ニ於テハ學年中ノ事務ヲ整理シ毎土曜日授業ノ終リニ於テハ一週日間ノ事務ヲ整理スヘシ

第八條 學校長教員私事ノ爲メ他行セントスルトキハ左項ニ依ルヘシ  
但病氣療養ノ爲メ許可ヲ請フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

- 一 日數七日以内ハ町村長ノ承諾ヲ得ヘシ
- 二 日數八日以上ニシテハ郡長ノ許可ヲ受ケヘシ
- 三 學校休業中ノ旅行ハ其事由ヲ記シ郡長ニ届出ツヘシ
- 四 休職中ノ者ハ旅行先ヲ記シ郡長ニ届出ツヘシ

○長野縣令第十九號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第八十一條ニ依リ區長及其代理者ノ國ノ教育事務補助ノ件並第八十三條及第八十七條第二項ニ依リ區ノ學務委員ノ國ノ教育事務補助ノ件左之通規定ス

明治廿五年二月十日

長野縣知事 淺田德則

- 一 町村ノ區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ
- 二 町村内ノ區ノ學務委員ハ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長並其代理者ヲ補助スヘシ
- 三 町村學校組合内ノ區ノ學務委員ハ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助スヘシ

○長野縣令第二十號

從來町村組合ノ設置ニ係ル小學校ニシテ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行期日ニ際シ廢止スルモノ又ハ同令施行期日後一時存續シタルモノニシテ其財產處分ヲ要スルモノハ從來ノ組合會ニ於テ之ヲ議決シ一切ノ事務引繼方ハ廢止後一ヶ月以内ニ之ヲ結了シ郡長ヲ經由シテ届出ツヘシ

但本文ニ依リ難キモノハ事實ヲ具シ開申スヘシ

明治廿五年二月十日

長野縣知事 淺田德則

○長野縣令第二十一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第六十條ニ基キ文部大臣ノ許可ヲ受ケ町村立小學校教

カノ部 學務

員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治廿五年三月五日  
 長野縣知事 淺田徳則  
 町村立小學校教員ノ給料額旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給規則  
 第一條 町村立小學校教員ノ給料額ハ左ノ標準ノ範圍内ニ於テ町村長其額ヲ定メ郡長ヲ經由シテ  
 縣知事ニ具申スヘキモノトス

訓 導

等 級	一 級	二 級	三 級	四 級	五 級
月 給	五拾圓以下 四拾六圓以上	四拾五圓以下 三拾六圓以上	三拾五圓以下 貳拾六圓以上	貳拾五圓以下 拾六圓以上	拾五圓以下 五圓以上

等 級	一 級	二 級
月 給	貳拾五圓以下 拾三圓以上	拾貳圓以下 三圓以上

第二條 町村立小學校教員最初就職スルトキハ正教員ハ其五級俸准教員ハ其二級俸ヲ支給スルモ  
 ノトス  
 但本條ニ依リ難キ場合アルトキハ具申ノ際其事由ヲ詳記スヘシ

第三條 土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ町村立小學校教員ノ給料ニ換給スルトキ換給ノ歩合ハ給料ノ  
 三分ノ一以内タルヘシ

第四條 町村立小學校教員ノ給料ハ現給在職一ヶ年ヲ經ルニ非ラサレハ増額スルコトヲ得ス  
 第五條 訓導給ノ最上額ヲ受テ功績顯著ナル者ハ第一條標準ノ範圍ニ拘ハラズ特ニ月給六十圓マ  
 テ支給スルコトヲ得

第六條 町村立小學校教員同一ノ學校ニ在勤スルトキハ滿五年毎ニ通常給ノ外別ニ其十分ノ一ノ  
 年功増俸ヲ支給スルモノトス  
 但本條ニ依リ難キ場合アルトキハ町村長ニ於テ其事由ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ  
 受クヘシ

第七條 町村立小學校教員ノ給料ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ日割ヲ以テ之ヲ支給スヘシ

第八條 町村立小學校教員轉任ノ時ハ其給料ハ第十二條ノ支給日ニ拘ハラズ發令ノ當日マテ前任  
 ノ學校ヨリ支給ス

第九條 町村立小學校教員退職職懲戒免職若クハ死亡ノ時ハ當月分ノ給料全額ヲ支給ス  
 第十條 町村立小學校教員病氣ノ爲メ引續キ出勤セサルコト三十日ヲ踰ユルモノハ三十一日目ヨ  
 リ日割ヲ以テ給料ノ半額ヲ減ス

但職務ノ爲メ傷痍ヲ受テ又ハ疾病ニ罹ルモノハ此限ニ在ラス

第十一條 町村立小學校教員私事ノ故障ニ依リ引續キ出勤セサルコト十五日ヲ踰ユルモノハ十六  
 日目ヨリ日割ヲ以テ給料ノ半額ヲ減シ三十日ヲ踰ユルモノハ三十一日目ヨリ全ク支給セズ

第十二條 町村立小學校教員ノ給料ハ毎月末日ニ支給スルモノトス  
 但休日ニ當ルトキハ探リ上ケトス

第十三條 町村立小學校教員退職ノモノ學校ノ都合ニ依リ殘務調理ノ爲メ其翌月ニ涉ルトキハ日

例ヲ以テ調理終了ノ日マテ從前ノ給料ヲ支給スルモノトス  
 第十四條 第十條ノ場合ト第十一條ノ場合ト相續キテ起ルトキ第十條ニ始マリ第十一條ニ終レハ其間通算シテ十六日ヨリ減給シ第十一條ニ始マリ第十條ニ終レハ其間通算シテ三十一日目ヨリ減給ス

但第十一條ノ期限ヲ過キ已ニ減給ノモノ第十條ニ移ルモ本給ニ復セズ

第十五條 休暇(定期冬期) 忌引ノ場合ト第十條若クハ第十一條ノ場合ト連續スルトキハ其休暇忌引ノ日數ヲ扣除ス

第十六條 第十條第十一條ノ期限ヲ過キ已ニ減給ノモノノ休暇忌引ニ連續シ其休暇忌引後直ニ出勤スルモノハ其休暇忌引ノ日ヨリ本給ヲ支給スルモノトシ休暇忌引ヲ過キ尙出勤セサルトキハ減給ノ額ヲ支給ス

第十七條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

第十八條 町村立小學校正教員休職中ハ給料ヲ支給セサルヲ常例トス

但職務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルニ因リ休職ヲ命ゼタルモノハ最初三ヶ月間ハ俸給全額其後ハ半額ヲ給スヘク其他ノ事情ニ依リ支給ヲ要スルトキハ町村長ニ於テ第一條標準ノ範圍ニ拘ハラズ其額ヲ定メテ之ヲ具申スヘキモノトス

第十九條 町村立小學校教員ノ旅費日當額ハ左ノ標準ノ範圍内ニ於テ町村長其額ヲ定メ郡長ヲ經由シテ豫メ縣知事ノ認可ヲ受クヘキモノトス  
 但准教員ハ三等以下トス

種別	等級	一	二	三	四	等
汽車賃	一哩毎ニ	四錢	三錢	三錢	二錢	
汽船賃	一海里毎ニ	五錢	四錢	四錢	三錢	
車馬賃	一里毎ニ	十錢	八錢	七錢	五錢	
日當	一日毎ニ	七十錢	六十錢	五十錢	四十錢	

第二十條 町村立小學校教員職務上旅行スルトキハ順路ノ路程及日數ニ從ヒ規定ノ旅費日當ヲ給スヘシ

第二十一條 汽車賃ハ汽車旅行汽船賃ハ汽船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ宿泊料及其他ノ旅費ニ充ツル爲メ之ヲ支給スヘキモノトス

第二十二條 汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ

第二十三條 汽車賃汽船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ  
 但一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第二十四條 日當ハ陸路六里未滿汽車十哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス

但職務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第二十五條 新任ニ任命セラレトキ及轉任セラレトキノ旅行ハ其新任相當ノ旅費日當ヲ支給ス

カノ部 學務

但聘任ノ旅費ハ後ニ就職スル學校ヨリ支給スルモノトス  
 第二十六條 職務旅行中歸省其他私事ノ爲メ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ  
 第二十七條 職務旅行中休職退職又ハ死亡シタルモノハ前任相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費日當ヲ支給スヘシ  
 第二十八條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルニハ汽車旅行ハ一日二百圓諸汽船旅行ハ一日百海里諸陸路旅行ハ一日十二里計トス  
 第二十九條 町村立小學校教員執務時間ノ外ニ於テ補習科ノ教授ヲ擔任スルカ爲メ支給スル報酬ハ月給三分ノ一以內ナルヘシ  
 第三十條 特ニ勤勞アルモノハ給料年額十二分ノ一以內ノ慰勞金ヲ給スルコトヲ得  
 第三十一條 宿直財料等ノ支給方法ハ各町村ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ

○長野縣令第廿二號

明治廿四年十一月文部省令第十八號幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ニ關スル規則第十二條ニ依リ其設置廢止ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治廿五年三月五日

長野縣知事 淺田徳則

幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校設置廢止規則  
 第一條 町村立幼稚園ヲ設置セントスルトキハ其町村ニ於テ私立幼稚園ヲ設置セントスルトキハ

廿五年三月五日即令第三十號

其設立者ニ於テ左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 名稱
  - 二 位置
  - 三 町村又ハ組合町村名並戸數(町村立ニ限ル)
  - 四 幼兒概數
  - 五 敷地建物ノ圖面及所有區別
  - 六 保育規程
  - 七 保育用圖書器具
  - 八 入園退園休業日保育料等ノ諸規則
  - 九 經費收入支出ノ概算
  - 十 保解履歷
  - 十一 園主履歷(私立ニ限ル)
- 第二條 町村立圖書館ヲ設置セントスルトキハ其町村ニ於テ私立圖書館ヲ設置セントスルトキハ其設立者ニ於テ左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 名稱
  - 二 位置
  - 三 町村又ハ組合町村名並戸數(町村立ニ限ル)
  - 四 敷地建物ノ圖面及所有區別
  - 五 圖書ノ種類部數

カノ部 學務

- 六 閉館閉館休業日観覧料等ノ規則
  - 七 經費收入支出ノ概算
  - 八 館主履歴 (私立ニ限ル)
- 第三條 町村立盲啞學校ヲ設置セントスルトキハ其町村ニ於テ私立盲啞學校ヲ設置セントスルトキハ其設立者ニ於テ左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 名稱
  - 二 位置
  - 三 町村又ハ組合町村名並戸數(町村立ニ限ル)
  - 四 敷地建物ノ圖面及所有區別
  - 五 教則
  - 六 教科用圖書器具
  - 七 入學退學休業日授業料其他ノ諸規則
  - 八 教員履歴
  - 九 校主履歴 (私立ニ限ル)
- 第四條 町村立各種學校ヲ設置セントスルトキハ其町村ニ於テ私立各種學校ヲ設置セントスルトキハ其設立者ニ於テ左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 設置ノ目的
  - 二 名稱
  - 三 位置

- 四 生徒概數
  - 五 町村又ハ組合町村並戸數(町村立ニ限ル)
  - 六 敷地建物ノ圖面及所有區別
  - 七 教則
  - 八 試業法
  - 九 教科用圖書器具
  - 十 入學<sup>年齡</sup>規定ノ退學休業日授業料其他ノ諸規則
  - 十一 經費收入支出ノ概算
  - 十二 教員履歴
  - 十三 校主履歴 (私立ニ限ル)
- 第五條 私立小學校ヲ設置セントスルトキハ其設立者ニ於テ左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 名稱
  - 二 位置
  - 三 生徒概數
  - 四 敷地建物ノ圖面並所有區別
  - 五 授業料其他ノ諸規則
  - 六 經費收入支出ノ概算
  - 七 教員履歴

八 校主履歷

- 第六條 幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校設置ノ後前各條ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ町村長若クハ設立者ヨリ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 町村立幼稚園圖書館盲啞學校各種學校ヲ廢止セントスルトキハ其町村ヨリ事由及資產處分方ヲ具シ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 私立幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校ヲ廢止セントスルトキハ其設立者ヨリ郡長ヲ經由シテ縣知事ニ開申スヘシ
- 但代用私立小學校ノ廢止ハ其代用ヲ解除セテ又ハ解除ノ許可ヲ得タル後本文ノ手續ヲナスヘシ
- 第九條 幼稚園圖書館盲啞學校各種學校ノ祝日大祭口儀式次第ハ明治廿五年ニ縣令第八號ヲ適用ス
- 第十條 幼稚園保母盲啞學校及各種學校長及教員ノ任用解職ニ關シテハ明治廿五年ニ縣令第十七號ヲ適用ス
- 第十一條 町村立幼稚園圖書館盲啞學校各種學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ明治廿五年ニ縣令第廿一號ヲ適用ス

○長野縣令第廿八號

明治廿三年十月勅令第二百十五號小學校令第十二條及明治二十四年十一月文部省令第十三號小學校ノ每週教授時間ノ制限第四條ニ基キ文部大臣ノ許可ヲ得テ小學校教則並每週教授時間ヲ定ムルコト左ノ如シ

教則用  
三月十八日  
縣令第廿九號

明治二十五年三月十八日

長野縣知事 淺田徳則

小學校教則並每週教授時間

- 第一條 小學校ニ於テハ小學校令第壹條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ  
徳性ノ涵養ハ教育上最モ意ヲ用フヘキナリ故ニ何レノ教科目ニ於テモ道德教育國民教育ニ關連スル事項ハ殊ニ留意シテ教授センコトヲ要ス  
知識技能ハ確實ニシテ實用ニ適センコトヲ要ス故ニ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反復練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ  
各教科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ瞭ルコトナク互ニ相連絡シテ補益センコトヲ要ス
- 第二條 修身ハ教育ニ關スル 勸諭ノ旨趣ニ基キ兒童ノ良心ヲ啓培シテ其徳性ヲ涵養シ人道實踐ノ方法ヲ授クルヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ニ於テハ孝悌友愛仁慈信實禮敬義勇恭儉等實踐ノ方法ヲ授ケ殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養ハントコトヲ務メ又國家ニ對スル義務ノ大要ヲ指示シ兼テ社會ノ制裁廉耻ノ重ンスヘキコトヲ知ラシメ兒童ヲ誘キテ風俗品位ノ純正ニ趨カンコトニ注意スヘシ  
高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ陶冶ノ功ヲ堅固ナラシメンコトヲ務ムヘシ  
女兒ニ在リテハ殊ニ貞淑ノ美德ヲ養ハントコトニ注意スヘシ  
修身ヲ授クルニハ近易ノ俚諺及嘉言善行等ヲ例證シテ勸戒ヲ示シ教員自身ヲ兒童ノ模範トナリ兒童ヲシテ浸潤薫染セシメンコトヲ要ス  
修身ノ教授時間ハ成ルヘク授業ノ始メニ置クヘシ  
學校長若クハ首席教員ハ時々全校兒童ヲ集メテ修身ノ綱領ヲ訓示シ以テ修身教授ノ方針ヲ一致

カノ部 學務



ニセソコトヲ務ムヘシ

第三條 讀書及作文ハ普通ノ言語並日常須知ノ文字文句文章ノ讀ミ方綴リ方及意義ヲ知ラシメ適當ナル言語及字句ヲ用ヒテ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ近易適切ナル事物ニ就キ平易ニ映話シ其言語ヲ練習シテ假名ノ讀ミ方書キ方綴リ方ヲ知ラシメ次ニ假名ノ短文及近易ナル漢字交リノ短文ヲ授ケ漸ク進ミテハ讀書作文ノ教授時間ヲ別チ讀書ハ假名文及近易ナル漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ假名文近易ナル漢字交リ文日用書類等ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ讀書ハ普通ノ漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ漢字交リ文及日用書類ヲ授ケヘシ讀書作文ヲ授ケル際單語短句短文等ヲ書取ラシメ若クハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ熟セシムヘシ

讀書ハ殊ニ復習ヲ重シ修身上適切ナル歌詞及文章ハ兒童ノ能力ニ應シテ之ヲ暗記セシメ又讀方講義ニ於テ音聲ヲ明確ニシ言語ヲ雅正ニスルノ習慣ヲ養ハントヲ務ムヘシ

作文ハ讀書又ハ其他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ行文平易ニシテ旨趣明瞭ナラシメントヲ要ス

言語ハ他ノ教科目ノ教授ニ於テモ常ニ注意シテ練習セシメントヲ要ス

第四條 習字ハ通常ノ文字ノ書キ方ヲ知ラシメ運筆ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ニ於テハ片假名及平假名近易ナル漢字交リノ短句通常ノ人名苗字物名地名等ノ日用文字及日用書類ヲ習ハシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ事項ヲ擴メ更ニ日常適切ノ文字ヲ増シ又日用書類ヲ習ハシムヘシ

漢字ノ書休ハ尋常小學校ニ於テハ行書トシ高等小學校ニ於テハ楷書行書草書トス

習字ヲ授ケル際殊ニ姿勢ヲ整ヘ執筆及運筆ヲ正シクシ字行ハ整正ヲ尙ヒ運筆ハ字形ノ稍整フヲ待テ漸ク速ナラシメントヲ要ス他ノ教科目ノ教授ニ於テ文字ヲ書カシムルトキモ亦常ニ其字形及字行ヲ正クセシメントヲ要ス

第五條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ兼テ思想ヲ精密ニシ傍テ生業上有益ナル知識ヲ與フルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ修業年限三ケ年ナルトキハ第二學年マテハ筆算ヲ用ヒ第三學年ニ於テ珠算ヲ併用スヘク修業年限四ケ年ナルトキハ第三學年マテハ筆算ヲ用ヒ第四學年ニ於テ珠算ヲ併用スヘシ

「算算ハ初メハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及加減乗除ヲ授ケ漸ク數ノ範圍ヲ擴メテ万以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル加減乗除及通常ノ小數ノ計ヘ方ヲ授ケヘシ」初年ヨリ漸ク度量衡貨幣及時刻ノ制ヲ授ケ之ヲ日常ノ事物ニ應用シテ其計算ニ習熟セシムヘシ

「球算ハ加減乗除ヲ教授シ其運算法ニ練習セシムヘシ」

高等小學校ニ於テハ筆算ヲ用ヒ初メハ度量衡貨幣及時刻ノ計算ヲ練習セシメ漸ク進ミテハ簡易ナル比例問題ト通常ノ分數小數トヲ併セ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍複雑ナル比例問題及日常適切ノ百分算ヲ授ケ土地ノ情況ニ依リテハ開平開立及簡易ナル求積若クハ日用簿記ノ概略ヲ授ケ又尋常小學校ニ於テ學ヒタル珠算ヲ復習セシムヘシ

算術ヲ授ケルニハ理會精密ニ運算習熟シテ應用自在ナラシメントヲ務メ又常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ運算ノ方法及理由ヲ説明セシメ殊ニ暗算ニ熟達セシメントヲ要ス

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項ヲ適用シ又ハ土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ノモ  
ノヲ撰フヘシ

第六條 日本地理及外國地理ハ日本ノ地理及外國地理ノ大要ヲ授ケテ人民ノ生活ニ關スル重要ナ  
ル事項ヲ理會セシメ兼テ愛國ノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本地理ヲ加フルトキハ郷土ノ地形方位等兒童ノ日常目撃セル事物ニ就キ  
テ端緒ヲ開キ漸ク進ミテ本邦ノ地形氣候著名ノ都會人民ノ生業等ノ概畧ヲ授ケ更ニ地球ノ形  
狀水陸ノ別其他重要ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ日本地理ハ前項ニ準シテ稍詳ニ之ヲ授ケ更ニ地球ノ運動晝夜四季ノ原由ヲ  
理會セシメ外國地理ハ大洋五帶ノ別各大洲ノ地形氣候產物人種及支那朝鮮其他本邦トノ  
關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ概略ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應ジ既ニ授ケタル日本地理ヲ  
復習シテ稍詳ニ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ授ケ兼テ簡易ナル經濟上ノ關係ヲ理會セ  
シムヘシ

地理ヲ授クルニハ實地ノ觀察ニ基キ又地球儀地圖寫眞等ヲ示シ兒童ノ熟知セル事物ニ依リ比較  
類推セシメテ確實ナル知識ヲ得シメ又常ニ歷史上ノ事實ニ連絡セシメンコトヲ要ス

第七條 日本歷史ハ本邦國體ノ大要ヲ知ラシメテ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本歷史ヲ加フルトキハ郷土ニ關スル史蹟ヨリ始メ漸ク建國ノ體制 皇統  
ノ無窮

歷代天皇ノ 盛業忠貞賢哲ノ事蹟國民ノ武勇文化ノ由來等ノ概略ヲ授ケテ國初ヨリ現時ニ至  
ルマテノ事歴ノ大要ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シテ稍詳ニ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ授クヘシ

日本歷史ヲ授クルニハ成ルヘク圖畫等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシム人物ノ  
言行等ニ就キテハ之ヲ修身ニ於テ授ケタル格言等ニ照シテ正邪是非ヲ辨別セシメンコトヲ要ス

第八條 理科ハ通常ノ天然物及現象ノ觀察ヲ精密ニシ其相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セ  
シメ兼テ天然物ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

最初ハ主トシテ學校所在ノ地方ニ於ケル植物動物礦物及自然ノ現象ニ就キテ兒童ノ目撃シ得ル  
事實ヲ授ケ就中重要ナル植物動物ノ形狀構造及生活發育ノ狀態ヲ觀察セシメテ其大要ヲ理會セ  
シメ又學校ノ修業年限ニ應ジ更ニ植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係通常ノ物理上化學上ノ現  
象、通常兒童ノ目撃シ得ル器械ノ構造作用等ヲ理會セシメ兼テ人身ノ生理及衛生ノ大要ヲ授  
クヘシ

理科ニ於テハ務メテ農業工業其他人民ノ生活上ニ適切ナル事項ヲ授ケ殊ニ植物動物等ヲ授クル  
際之ヲ以テ製スル重要ナル人工物ノ製法効用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授クルニハ實地ノ觀察ニ基キ若クハ標本模型圖畫等ヲ示シ又ハ簡單ナル試驗ヲ施シ明瞭  
ニ理會セシメンコトヲ要ス

第九條 圖畫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ形体ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ養ヒ兼テ意匠ヲ練  
リ形体ノ美ヲ辨知セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ直線曲線及其單形ヨリ始メ時々直線曲線ニ基キタル諸  
形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシメ漸ク進ミテハ簡單ナル形体ヲ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シテ漸ク進ミテハ諸般ノ形体ニ移リ實物若クハ手本ニ就キテ

畫カシメ又時々自己ノ工夫ヲ以テ圖案セシメ兼テ簡易ナル用器畫ヲ授クヘシ  
圖書ヲ授クルニハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル物体及兒童ノ日常目擊セル物体中ニ就キテ之ヲ畫  
カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尚フノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス  
毛筆畫鉛筆畫ノ撰定ハ各小學校ノ適宜タルヘシ

第十條 唱歌ハ耳及發聲器ヲ練習シテ容易キ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ音樂ノ美ヲ辨知セシ  
メ徳性ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ通常講表ヲ用ヒスシテ容易キ單音唱歌ヲ授クヘシ  
高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク講表ヲ用ヒテ單音唱歌ヲ授クヘシ

唱歌ヲ授クルニハ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシメンコトヲ務メ且時々歌詞ノ大意ヲ説キ示サン  
コトヲ要ス

第十一條 体操ハ身体ノ成長ヲ均齊ニシテ健康ナラシメ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規  
律ヲ守ルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ最初適宜ノ遊戯ヲナサシメ漸ク普通体操ヲ加ヘ男兒ニハ便宜兵式体操ノ一  
部ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ男兒ニハ主トシテ兵式体操ヲ授ケ女兒ニハ普通体操若クハ遊戯ヲ授クヘ  
シ

土地ノ情况ニ依リテハ体操ノ教授時間ノ一部若クハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲナサ  
シメ又夏季ニ於テハ便宜水泳ヲ授クヘシ  
体操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ要ス

第十二條 裁縫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ衣服ノ縫方及裁方ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ運針法ヨリ始メテ簡易ナル衣服ノ縫方ヲ授ク又便宜通  
常ノ衣服ノ縫ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク通常ノ衣服ノ縫方裁方ヲ授クヘシ  
裁縫ノ品類ハ日常所用ノモノヲ撰ビ之ヲ授クル際用具ノ種類衣類ノ保存方及洗濯方等ヲ教示シ

常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス

第十三條 手工ハ眼及手ヲ練習シテ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ養ヒ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ長ス  
ルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙粘粘土麥藁等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ  
高等小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙粘土木竹銅線鉄葉鉛等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ  
授クヘシ

手工ノ品類ハ成ルヘク有用ナルモノヲ撰ビ之ヲ授クル際其材料及用具ノ種類等ヲ教示シ常ニ節  
約利用ノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス

第十四條 高等小學校ノ教科ニ幾何ノ初歩ヲ加フルトキハ簡易ナル線角面体ノ性質及種類ヲ知ラ  
シメ尙進ミテハ三角形ノ同形類形及勾股弦ノ關係等ヲ理會セシムヘシ

幾何ノ初歩ヲ授クルニハ先ツ器具家屋地形等ヲ觀察セシメ更ニ其模型若クハ圖ヲ示シ兒童ヲシ  
テ之ヲ齎キ其尺度又ハ角度ヲ測定比較シテ其性質關係ヲ知ラシメ專ラ實驗ニ依リテ證明シ又既  
ニ授ケタル事項ヲ應用シ諸種ノ線形等ヲ構成シテ其度量ヲ計算セシメ之ヲ實地ニ應用スルノ能  
ヲ養ハンコトヲ要ス

第十五條 高等小學校ノ教科ニ外國語ヲ加フルハ將來ノ生活上其智識ヲ要スル兒童ノ多キ場合ニ限ルモノトシ讀方、譯解、習字、書取、會話、文法及作文ヲ授ケ外國語ヲ以テ簡易ナル會話及通信等ヲナスコトヲ得シムヘシ

外國語ヲ授クルニハ常ニ其發音及文法ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒテ譯解セシムコトヲ要ス

第十六條 高等小學校ノ教科ニ農業ヲ加フルトキハ地理理科等ノ教授ニ連絡シテ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ關シ土地ノ情況ニ緊切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授ケ便宜之ヲ實習セシメテ農業ノ趣味ヲ長シ兼テ節約利用、勤儉儲蓄ノ習慣ヲ養ハントトシテ要ス

第十七條 高等小學校ノ教科ニ商業ヲ加フルトキハ算術、地理等ノ教授ニ連絡シテ商店、會社、賣買、金融、運送、保險等ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ撰ヒ習慣及法令等ニ基キテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿記ヲ授ケヘシ

第十八條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トナ一校ニ併セ置クトキハ兩教科ヲ連絡セシムンカ爲メ便宜各教科目教授ノ程度ヲ斟酌スルコトヲ得此場合ニ於テハ各教科目教授ノ程度ヲ定メ町村立小學校ハ町村長ニ於テ私立小學校ハ設立者ニ於テ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第十九條 小學校長若クハ首席教員ハ本則ニ從ヒ其小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十條 尋常小學校及高等小學校ノ教科課程及每週教授時間ハ別表(補習科ニ係ルハ分ク除ク)定ムル所ニ依ルヘシ  
土地ノ情況ニ依リ尋常小學校ニ於テ日本地理、日本歴史、國畫、唱歌、手工、裁縫ノ一科目若クハ數科目

ヲ加ヘントスルトキハ其教授時間ハ便宜讀書以下ノ諸科目ノ中ニ就キテ每週四時以內ヲ減シ若クハ每週教授時間ニ三時以內ヲ加ヘテ之ニ充テ高等小學校ニ於テ幾何ノ初步、外國語、農業、商業、手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘントスルトキハ其教授時間ハ便宜讀書以下ノ諸科目ノ中ニ就キテ每週四時以內ヲ減シ若クハ每週教授時間ニ六時以內ヲ加ヘテ之ニ充テ適宜課程ヲ作り郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第二十一條 尋常小學校及高等小學校ノ毎日教授時間ハ午前七時ヨリ午後四時マテノ間ニ於テ日ノ長短其他土地ノ情況ニヨリ適宜之ヲ定ムヘシ但全校ノ兒童ヲ午前午後ノ二部ニ區分シテ教授スル場合ニ於テハ本文ノ時限ニ拘ハラズ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 小學校長若クハ首席教員ハ學年ノ始メニ於テ每週各教科目教授時間配當表ヲ製シ成ルヘク學年ノ終リマテ之ヲ變更スヘカラス

第二十三條 小學校ニ於テ兒童ノ學業ヲ試驗スルハ専ラ學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スルヲ以テ目的トスヘシ

第二十四條 試驗ハ一學年內ヲ適宜四期ニ分テ每期ノ終リニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十五條 試驗ノ定點ハ各教科目ノ評點四分ノ一以上其平均點二分ノ一以上ヲ得タルモノヲ以テ第二十六條 試驗ニ於テ各教科目ノ評點四分ノ一以上其平均點二分ノ一以上ヲ得タルモノヲ以テ規程ノ課程ニ習熟セリト認定スルニ足ルモノトス

第二十七條 修業及卒業ハ學年ノ終リニ於テ執行スル試驗ノ評點及平素ノ行狀學力ヲ斟酌シテ之ヲ認定スヘシ但數學年ノ兒童ヲ合シテ一學級ニ編制シタル場合ニ於テハ其學級ニ該當スル學年ノ終リ單級ノ學校ニ於テハ修業年限ノ終リニ於ケル試驗ノ評點ニ依リテ之ヲ斟酌スヘシ

第二十八條 學年相當ノ年齢ヲ超過セル兒童ニシテ學業及行狀優等ノモノハ學年ノ終リニ至ラサルモ臨時成績ヲ考ヘ卒業若クハ修業ヲ認定スルコトヲ得

第二十九條 卒業ヲ認定シタルトキハ卒業證書ヲ授與スヘシ  
同學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合及數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合ニ於テ其學級ニ該當スル學年ノ課程ヲ修了セリト認定シタルトキハ修業證書ヲ授與スヘシ  
數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合及單級ノ學校ニ於テ一ケ年間課業ヲ學習シタルモノニハ學習證書ヲ授與スヘシ

第三十條 補習科ハ尋常小學校若クハ高等小學校ニ於テ兒童ノ既ニ學習シタル事項ヲ練習補充シ殊ニ之ヲ實地ニ應用スルノ法ヲ授ケテ處世ニ資セシムルヲ以テ要旨トス  
補習科ノ程度ハ尋常小學校若クハ高等小學校ノ教科ノ程度ヲ標準トシ兼テ人民ノ生活上必須ナル事項ヲ加ヘ授ケンコトヲ要ス  
補習科ニ於テ授ケル事項ハ總テ實際ノ業務ト密接ノ關係ヲ有スルモノナルヘシ故ニ農工商等其地方ノ生業ニ最モ適切ナルモノヲ撰ヒテ之ヲ授ケヘシ

第三十一條 尋常小學校ニ於テ別表(補習科ニ)ニ依リ補習科ヲ附シトキハ町村立小學校ハ町村長ニ於テ私立小學校ハ設立者ニ於テ郡長ヲ經由シテ縣知事ニ届出ツヘシ  
前項ニ依ラサル尋常小學校補習科及高等小學校補習科ヲ附シトキハ其教科課程表ヲ製シ町村立小學校ハ町村長ニ於テ私立小學校ハ設立者ニ於テ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ  
補習科ノ教授時間ハ成ルヘク實際ノ業務ニ從事スル者ノ便ヲ圖リ夜間休業日又ハ其他通常ノ教授時間外ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十二條 補習科ノ試験ハ第二十三條乃至第二十七條ノ規定ニ準シ便宜之ヲ執行スヘシ

第三十三條 補習科ヲ修了シタルトキハ補習證書ヲ授與スヘシ

第三十四條 卒業證書修業證書學習證書並補習證書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ但用紙ハ大奉書四ツ切トス

卒業證書式 (何々學年)ハ數學年ノ兒童  
ノ一列ヲ示シタルモノナリ

卒業證書

番 號 卒業證書

族籍戶主(誰男女弟妹等)

校 印 氏 名 生年月日

尋常(高等)小學校何々何々年ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

年 月 日

長野縣何何何町(私)立何小學校長(副) 氏 名 印

修業證書

族籍戶主(誰男女弟妹等)

校 印 氏 名 生年月日

尋常(高等)小學校第何學年(何々學年)ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

年 月 日

長野縣何何何町(私)立何小學校

學習證書式 此證書ハ一學年ノ課程ヲ修メシタルコトヲ證明スルモノニアラス

補習證書式

學習證書

族籍戶主(誰男女弟妹等) 氏名 生年月日

本校 印校

本學年間ノ課業ヲ學習セシコトヲ證ス

年月日

長野縣何郡何村(私)立何小學校

補習證書

番號 族籍戶主(誰男女弟妹等) 氏名 生年月日

本校 印校

尋常(高等)小學校何々年ノ補習科ヲ修了セシコトヲ證ス

年月日

長野縣何郡何村(私)立何小學校長(助督)氏名印

尋常小學校教科課程表

科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		補習科	
	時間	教每	時間	教每	時間	教每	時間	教每	時間	教每
修身	三	三	三	三	三	三	三	三	二	二
讀書	九	七	七	七	七	七	七	七	五	五
作文	九	二	二	三	三	三	三	三	二	二
習字	四	四	四	五	五	五	五	五	二	二
算術	五	五	五	六	六	六	三	三	二	二
地理									二	二
歷史									二	二
理科									二	二
體育									二	二
音樂									二	二
美術									二	二

カノ部 學務

體操	三	遊	三	普通體操	三	遊	三	普通體操	三
計	二四		二四		二七		二七		一八
									一八

一本表ハ修業年限四ヶ年ノ多級ノ學校ノ教科課程表ニシテ修業年限三ヶ年ノ多級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル各學年ノ課程ニ準シ之ヲ修了セシムヘキモノトス

一修業年限三ヶ年ノ學校ニ於テハ第三學年ノ算術ノ時間ヲ折半シテ珠算加減乗除ノ運算法ヲ授クヘシ

一本則第十一條ニ依リ兵式體操ノ一部ヲ授クルトキハ第四學年ニ於テ之ヲ授クヘシ

一甲乙兩學年ノ兒童ヲ合シテ編制シタル學級ニ於テハ二ヶ年間ニ之ニ該當スル學年ノ課程ヲ修メシムヘシ

一單級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル課程ニ準シ之ヲ修了セシムヘシ

一兒童入學ノ初メニ於テハ便宜本表ノ時間ヲ十八時マテニ減スルコトヲ得

一本表示ス所ノ一時間中ニハ十分乃至十五分ノ休憩時間ヲ含ムモノトス但第一學年第二學年ニ於テハ他學級ノ教授ニ妨ケナキ限リハ休憩時間ヲ二十分トナスコトヲ得

一修業年限三ヶ年ノ學校ニ於ケル補習科ノ算術ハ尋常小學校第四學年ノ課程ヲ以テ其第一學年ノ課程トシ補習科第一學年ノ課程ヲ以テ其第二學年ノ課程トス

高等小學校教科課程表

學年	科目	教時		修身	讀書	作文	習字	算術	日本地理	日本歴史	外國地理
		時間	分								
第一學年	人道實踐ノ方法	二		二	漢字交リ文	漢字交リ文 日用書類	男三 女二 日用文字 日用書類	五	日本地理ノ大要 日本歴史ノ大要 日本地理ノ大要	日本歴史ノ大要 日本歴史ノ大要	日本歴史ノ大要
第二學年	人道實踐ノ方法	二		二	漢字交リ文	漢字交リ文 日用書類	男三 女二 日用文字 日用書類	五	日本地理ノ大要 日本地理ノ大要	日本歴史ノ大要 日本歴史ノ大要	日本歴史ノ大要
第三學年	人道實踐ノ方法	二		二	漢字交リ文	漢字交リ文 日用書類	男三 女二 日用文字 日用書類	五	外國地理ノ大要 外國地理ノ大要	日本歴史ノ大要 日本歴史ノ大要	日本歴史ノ大要
第四學年	人道實踐ノ方法	二		二	漢字交リ文	漢字交リ文 日用書類	男三 女二 日用文字 日用書類	五	日本地理ノ大要 日本地理ノ大要	日本歴史ノ大要 日本歴史ノ大要	日本歴史ノ大要

カノ部 學務

科目	現象		唱歌	體操		計
	男	女		男	女	
一	現象	現象	一	男三 兵式体操普通体操 女二 普通体操若クハ遊戯	三〇	一本表ハ修業年限四ヶ年ノ多級ノ學校ノ教科課程表ニシテ修業年限二ヶ年若クハ三ヶ年ノ多級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル各學年ノ課程ニ準シ之ヲ修了セシムヘキモノトス 一修業年限二ヶ年ノ學校ニ於テハ其第二學年ニ外國地理ノ大要ヲ加ヘ修業年限三ヶ年ノ學校ニ於テハ其第三學年ニ日本地理ノ補習ヲ加フヘキモノトス又修業年限ノ長短ニ應ジ教授上自ラ精粗ノ差アルヘシト雖モ各教科目ノ教授ヲ修了セシムヘキモノトス
二	直線及曲線ノ單形 簡單ナル形體	簡單ナル形體	一	男三 兵式体操普通体操 女二 普通体操若クハ遊戯	三〇	
三	植物動物礦物及自然ノ現象	植物動物礦物及自然ノ現象	一	男三 兵式体操普通体操 女二 普通体操若クハ遊戯	三〇	
四	植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係 生理學ノ大要	植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係 生理學ノ大要	一	男三 兵式体操普通体操 女二 普通体操若クハ遊戯	三〇	
五	植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係 生理學ノ大要	植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係 生理學ノ大要	一	男三 兵式体操普通体操 女二 普通体操若クハ遊戯	三〇	

三百九十四

一土地ノ情況ニ依リ算術中ニ開平開立及簡易ナル求積若クハ日用簿記ノ概略ヲ加フルトキハ  
 第四學年ニ於テ之ヲ授クヘシ又珠算ノ復習ヲ爲サシムルトキハ適宜各學年ノ間ニ於テスヘ  
 一甲乙兩學年ノ兒童ヲ合シテ編制シタル學級ニ於テハ二ヶ年間ニ之ニ該當スル學年ノ課程ヲ  
 修メシムヘシ  
 一單級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル學年ノ課程ニ準シ之ヲ修了セシムヘシ  
 一本表示ス所ノ一時間中ニハ十分ノ休憩時間ヲ含ムモノトス

○長野縣令第二十九號

明治二十五年三月二十八號ヲ以テ小學校教則並每週教授時間相定候ニ付テハ小學校學年ノ始  
 終、休業日、入學退學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治二十五年三月十八日  
 長野縣知事 淺田徳則

小學校學年ノ始終、休業日、入學退學ニ關スル規程

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル  
 第二條 休業日ヲ分チテ定時休業臨時休業トス臨時休業ヲナサントスルトキ又ハ定時休業ヲ繰替  
 ヘントスルトキハ町村立小學校ハ町村長ニ於テ私立小學校ハ設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘ  
 シ  
 定時休業  
 一 祝日 大祭日

カノ部 學務



日曜日  
 一 夏季休業 自八月五日 至八月廿五日  
 一 冬季休業 自十一月十日 至一月十日  
 一 學年末 三日間  
 一 學校所在地ノ國幣縣鄉村社祭日  
 臨時休業  
 一 農事繁忙ノ時期ニ於テ土地ノ情況ニ依リ一學年内三週日以内  
 一 土地ノ情況ニ依リ夏季休業前後各十日間毎日休業時間中二時以内  
 一 右ノ外休業ヲ要スルトキ  
 第三條 兒童ノ入學ハ每學年ノ始メニ於テスヘシ但都合ニ依リ臨時入學セシムルコトアルヘシ  
 第四條 臨時入學ハ兒童ノ學力年齡ニ依リ相當ノ學級ニ編入スヘシ  
 第五條 兒童入學ノトキハ其保護者ヨリ兒童ノ族籍氏名生年月等ヲ記載シタル書面ヲ其學校ニ差  
 出スヘシ  
 第六條 兒童修業中退學セントスルトキハ其保護者ヨリ事由ヲ記載シタル書面ヲ其學校ニ差出  
 スヘシ  
 ○番外  
 郡 役 所  
 學 務 委 員

廿五年一月廿七日訓令 第九號

從來學校等ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候處其行為ノ遊興弄戯ニ屬スルモノ并ニ言  
 論ノ猥褻詭激ニ涉ルモノハ教育上妨害少ナカラサル備ニ付學校ヲ以右ニ充用セシメサルハ勿論取  
 締向不都合無之様可致此旨相達候事  
 明治十五年一月十七日  
 長野縣令 大野 誠

○乙第二百五十三號  
 郡 役 所  
 學 務 委 員  
 小 學 校 訓 導

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其心身ノ發育ヲ害スルコト不  
 候條右幼兒ハ學校生徒ト爲ス可ラス尤現ニ在學ノ幼兒ハ逐テ保育方法相達候マテ學校内ニ於テ適  
 宜保育ヲ爲スヘシ此旨相達候事  
 明治十七年十二月廿五日  
 長野縣令 木梨精一郎

○乙第二十號  
 郡 役 所  
 戶 長 役 場  
 學 務 委 員  
 公立私立學校生徒ニシテ多衆集合シ騷暴危險若クハ奇異ノ行為有之候テハ教育上不都合候條右様

カノ部 學務 三百九十七

ノ儀無之様取締可致若シ右様ノ舉動有之ニ於テハ其情狀ニ因リ生徒ハ勿論學校長教員等相當ノ處分ニ及ヒ私立學校ハ停止ス此旨相違候事

但運動等ノ爲メ集合スル時ハ教員ヲシテ監視取締ヲナシムヘシ

明治十八年二月六日

長野縣令 木梨精一郎

○丙第十八號

長野縣師範學校

長野縣中學校

長野縣醫學學校

徵兵取調ニ關シ生徒へ在學證明書ヲ交附スルトキハ左ノ書式ニ據ルヘシ此旨相違候事

明治十八年一月廿一日

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥山重信

書式用紙内山野紙

證明書

年 月 日	姓 名	年 齡	族 籍
右ハ本校何學科第何級修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾個年ノ課程ヲ卒ヘタル者ナリ依テ之ヲ證明ス	姓	年 齡	族 籍
長野縣立何學校長	姓	年 齡	族 籍

○丁第二十一號

郡 役 所

小學校教員心得今般別冊ノ通被相定候ニ付郡内各小學校教員へ壹部ツ、交付方可取計此旨相違候事

長野縣令代理

長野縣少書記官 鳥山重信

明治十四年七月八日

小學校教員心得

小學校教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其任タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學校教員其人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニ

アラスンハ何ニ由テカ尊

王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者宜ク深ク此意ヲ體スヘキナリ因テ其恪守實踐スヘキ要款ヲ左ニ掲示ス苟モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スルコト勿レ

明治十四年六月

文部 卿 福岡孝弟

一人ヲ導キテ善長ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ更ニ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊

ニ道德ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ

皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重ン  
スル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常ニ己カ身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ徳性ニ薰染  
シ善行ニ感化セシメンコトヲ務ムヘシ

カノ部 學務

一 智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ才能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ姓名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンカ爲メナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ

一 身體教育ハ獨リ體操ノミニ依著スヘカラス宜ク常ニ校舍ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ

一 鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ノ懷クヘカラサルハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心上ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ發育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實効ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ偷安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスヘキ所ニアラサレハナリ

一 學校管理上ニ欠クヘカラサル快活ノ氣象ハ心神萎靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ欠クヘカラサル許多ノ勞力ハ身體孱弱ナル者ノ能ク寧耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ散鬱及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サンコトヲ務ムヘシ

一 教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲グル所ノ學科ニ通スルノミヲ以テ足レリトセス博ク教則外ノ學科ニ涉ランコトヲ要ス苟モ此ノ如クナラサレハ倏チ教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ

一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨センコトヲ務ムヘシ否ラサレハ決シテ教授ノ實効ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ルモノハ未ダ曾テ之アラサルナリ

一 師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概ネ其一樣子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タル者ハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ら其得失利病ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用センコトヲ務ムヘシ

一 人ノ心神及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通センコトヲ要スヘシ否ラサレハ假令汝々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ル、コト能ハサルナリ

一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法、務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス

一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具ナリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス

一 熟練懇切匪勉ノ三者ハ亦教育上ニ缺クヘカラサルノ美事ナリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實効ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ

一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇誠、勉勵等ノ諸徳ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス

一 生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛刻ノ失ナカラシコトヲ要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗論議ノ言論ヲナス等ノコトアルヘカラス

一八トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言チ俟タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ徳性ヲ漸養シ善行ヲ誘掖スルヲ能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至慮至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セラル、極メテ鋭敏ナレハナリ

一教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂フヘシ蓋シ品行ヲ尙クスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

○訓令第五十四號

其校教科用圖書當分別表ニ據ヘシ

長野縣知事 木梨精一郎

尋常師範學校

教科用圖書各級配當表

學科	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年
倫理	修身原論	修身原論	修身原論	修身原論
國語	語彙別記 和文讀本 初級 和文讀本 初級	語彙別記 和文讀本 初級 和文讀本 初級	語彙別記 和文讀本 初級 和文讀本 初級	語彙別記 和文讀本 初級 和文讀本 初級
漢文	孟子	孟子	孟子	孟子
英語	ウエブスター スベセリヤン 第二	ウエブスター スベセリヤン 第二	ウエブスター スベセリヤン 第二	ウエブスター スベセリヤン 第二
算學	代數 算學 算學	代數 算學 算學	代數 算學 算學	代數 算學 算學
簿記	簿記	簿記	簿記	簿記
地理	日本地理 日本地理 日本地理	日本地理 日本地理 日本地理	日本地理 日本地理 日本地理	日本地理 日本地理 日本地理
博物	普通博物 普通博物 普通博物	普通博物 普通博物 普通博物	普通博物 普通博物 普通博物	普通博物 普通博物 普通博物
物理	物理	物理	物理	物理
化學	化學	化學	化學	化學

教育	如氏教育學	如氏教育學	如氏教育學	如氏教育學
國語	土佐日記 正朝文範	土佐日記 正朝文範	土佐日記 正朝文範	土佐日記 正朝文範
漢文	孟子	孟子	孟子	孟子
英語	ウエブスター スベセリヤン 第二	ウエブスター スベセリヤン 第二	ウエブスター スベセリヤン 第二	ウエブスター スベセリヤン 第二
算學	代數 算學 算學	代數 算學 算學	代數 算學 算學	代數 算學 算學
簿記	簿記	簿記	簿記	簿記
地理	日本地理 日本地理 日本地理	日本地理 日本地理 日本地理	日本地理 日本地理 日本地理	日本地理 日本地理 日本地理
博物	普通博物 普通博物 普通博物	普通博物 普通博物 普通博物	普通博物 普通博物 普通博物	普通博物 普通博物 普通博物
物理	物理	物理	物理	物理
化學	化學	化學	化學	化學

カノ部 學務

四百三

四百二

物理化學	博物	歷史	地理	簿記	數學	英語	漢文	國語
二	二	二五	二五		一 二	五		三
總論力學物質論音學	植物總論植物學及植物生理學植物解剖學植物分類學植物生活史植物用途植物採集法植物採集法植物採集法植物採集法	日本歷史	日本地理 日本地誌		代數 算術 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法	綴字 習字 語法		日本ノ文法 支那ノ文法
二	二	二五	二五		一五	四	二	一全
光學電氣學磁學	植物總論植物學及植物生理學植物解剖學植物分類學植物生活史植物用途植物採集法植物採集法植物採集法植物採集法	日本歷史 外國歷史	日本地理 外國地誌		代數 算術 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法	讀法 文法	支那ノ文法	
二	二	二五	二五		一五	三	二全上	
金屬元素 非金屬元素	動物總論動物學及動物生理學動物解剖學植物分類學植物生活史植物用途植物採集法植物採集法植物採集法植物採集法	外國歷史	製圖法 地文概略		代數 算術 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法 珠算 命位記數法	讀法 文法 翻譯		
三	三			二		三	二全上	
金屬元素 工業上之性質	動物總論動物學及動物生理學動物解剖學植物分類學植物生活史植物用途植物採集法植物採集法植物採集法植物採集法			複單記		讀法 翻譯		
九	九	九	九	二	一〇	一五	六	四

長野縣尋常師範學科課程表

學科	時間	第一	第二	第三	第四	年	各科
倫理	一	人倫道德ノ要旨	一全上	一全上	一全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
體操	二	野外演習 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
音樂	二	新撰體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
圖畫	二	小學唱歌集 唱歌掛圖 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
習字	二	小學唱歌集 唱歌掛圖 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
家事	二	小學唱歌集 唱歌掛圖 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
手工	二	小學唱歌集 唱歌掛圖 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業
農業	二	小學唱歌集 唱歌掛圖 射的 體操 射的 體操 射的 體操 射的 體操	全上	全上	全上	四	各教授ノ原理 二八實地授業

農業	一	土ノ成分分類植物ノ成分	一	肥料ノ用法家畜ノ飼養保衛等ノ要旨	一	耕作ノ實業器具ノ用法	四	工業上ノ要略	二	工業上ノ理財	二
手工	一	木工具金工具ノ種類用法	一	全上	一	工業上ノ理財ノ要略	二	全上	二	全上	二
家事	五	衣食住金銀ノ出納等ニ係ル諸項ノ器具ノ用法各種衣服縫製等ノ實業	五	全上	四	全上	五	全上	五	全上	一九
習字	一	楷書 行書	一	行書 草書							一一
圖畫	三	自在畫	三	自在畫 用器畫	一	用器畫	二	全	二	全	一一
音樂	二	單音唱歌	二	全上	男一單音唱歌 複音唱歌 女二樂器用法	男一單音唱歌 複音唱歌 女二樂器用法	女六	全	女六	全	男七 女二二
体操	六	男六普通体操 兵式体操 女三普通体操	六	全上	六	全上	六	全上	六	全上	男二四 女二二
通計	三四		三四	全上	三四	全上	三四	三八	三四	一六四	一一

長野縣尋常師範學校教科用圖書表

圖	書	名	冊	數	著	者	名
倫理	部						

修	身	原	論	河津 祐之 譯	
論	語	庸	語	朱 彥 集 註	
中	學	庸	語	朱 彥 集 註	
大	學	部	學	朱 彥 集 註	
教育部					
譯	註	如	氏	教育學	有 賀 長 雄 譯
學	校	管	理	法	伊 澤 修 二 著
日	本	教	育	史	大 珂 通 修 二 編
巴	氏	教	育	史	平 山 成 信 譯
改	正	教	授	術	白 若 林 虎 三 毅 編 纂
國語ノ部					
辭	彙	別	記	文部省編輯寮 編 纂	
語	彙	活	語	指 掌	文部省編輯寮 編 纂

詞の八衢	本房春庭著
初學日本文典	物集高見著
和文讀本	稻垣千穎輯
和文軌範	里見義著
改本朝文範	稻垣千穎編輯
正文朝文範	松岡太願編輯
土佐日記	
漢文ノ部	
正文章軌範	謝枋得批選
唐宋八大家韻本	沈德潛評點
孟子	朱熹集註
近世小品文鈔	土谷榮編
名家	
英語ノ部	ウエブスダ

ナニヨナルリデー	至自一
小文典	アラキ
數學ノ部	
筆算摘用	神津道太郎譯
明治小學塵劫記	福田理軒著述
代數教科書	田中矢徳編輯
幾何教科書	田中矢徳編輯
幾何新論	宮川保全譯
簿記ノ部	
馬耳記簿法	小林儀秀譯
地理歴史	
改日本地誌要略	大槻修二編
新撰地理書	山田行元編述

皇朝史略	青山延干著
十八史略	曾先之編次
明治元明清史略	石村貞一編次
新刻元明清史略	西村茂樹編輯
正校萬國史略	
博物	
植物通解	矢田部良吉譯
普通植物學	丹波敬三 高橋桂松 柴田水秀 同譯
金石一覽圖	和田維四郎譯
動物通解	和川友太郎編 岩々木忠二編 佐々木忠二編
人身生理學	松山誠二纂述
博物解明圖	シヨンストン
物理化學	

四百十

物理學	版波盛三 柴田敬三 同校補
羅斯珂氏化學	茂木春太譯
農業手工	
農理學初步	久原躬弦譯
植物生育論	高野德三郎譯
農川家畜論	磯野健助譯
工 <sup>シエケ</sup> 氏 場用具論	大井秀之助譯
勸業理財學	山田要吉譯
家事	高橋是清譯
婦女家事要訓	前田寅七郎編述
必讀家經濟論	藤田久道編述
普通裁縫教授書	渡邊辰五郎編輯
習字圖書	

カノ部 學務

四百十一



小學習書帖	文部省編輯局編
用器書法并圖式	平瀬作五郎纂譯
小學幾何書法	山田昌邦譯
音樂	文部省音樂取調掛編
小學唱歌集	文部省音樂取調掛編
唱歌掛圖	瀧村小太郎譯
音樂問答	神津元譯
樂典	神津元譯
體操	文部省體操傳習所編
新體操書	陸軍省編
體操教範	陸軍省編
步兵操典	陸軍省編
普通隊列運動法	松石安治編述

射的教程	陸軍省編
野外演習軌典	陸軍省編

訓令第三十九號

其ノ校管掌ノ事務左ノ項々ハ學校長處決シ其他ハ都テ經伺ノ上施行スヘキ義ト心得ヘシ  
長野縣尋常師範學校  
長野縣知事 木梨精一郎

- 明治二十年一月廿一日
- 第二項 成規アル校務ヲ處辨スル事
  - 第三項 成規ニ據リ生徒ヲ懲戒スル事
  - 第四項 臨時雇員及ヒ小使等ヲ進退スル事
  - 第五項 成規ニ據リ職員小使等ノ俸給旅費宿直賄料及ヒ生徒ノ給費其他校費ヲ支出スル事
  - 第六項 定額金ヲ以テ薪炭油筆紙墨其他常用ノ雜品及ヒ實驗用藥品類等ヲ購求スル事
  - 第七項 生徒ノ願伺屈等ヲ處分スル事
  - 第八項 生徒取締ニ關スル細則ヲ設クル事
  - 第九項 附屬小學生徒ノ授業料ヲ徴収スル事
  - 第十項 金十圓以内ノ費額ヲ以テ圖書器具等ヲ購求シ及ヒ校舍其他ノ修繕ヲナス事
  - 第十一項 校務ニ關スル諸公文往復ノ事
  - 第十二項 賄方受負人ヲ備罷スル事

カノ部 學務

○訓令第四十號

長野縣尋常中學校

其校管掌ノ事務左ノ項々ハ學校長處決シ其他ハ都テ經伺ノ上施行スヘキ義ト心得ヘシ

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十年一月廿一日

- 第一項 成規アレ校務ヲ處辨スル事
- 第二項 成規ニ據リ生徒ヲ懲戒スル事
- 第三項 成規ニ據リ生徒授業料ヲ徴収スル事
- 第四項 臨時雇員及ヒ小使等ヲ進退スル事
- 第五項 成規ニ據リ職員小使等ノ俸給旅費宿直賄料其他校費ヲ支出スル事
- 第六項 定額金ヲ以テ薪炭油筆紙墨其他常用ノ雜品及ヒ化學藥品等ヲ購求スル事
- 第七項 金十圓以內ノ費額ヲ以テ圖書器具等ヲ購求シ及ヒ校舍其他ノ修繕ヲナス事
- 第八項 生徒ニ圖書器械ヲ貸付スル事
- 第九項 生徒ノ願伺届等ヲ處分スル事
- 第十項 生徒取締ニ關スル細則ヲ設クル事
- 第十一項 校務ニ關スル諸公文ヲ往復スル事
- 第十二項 賄方受負人ヲ傭罷スル事

○訓令第五十六號

長野縣尋常師範學校

長野縣知事 木梨精一郎

其校規則別冊之通改定ス

明治二十年一月廿五日

長野縣尋常師範學校規則

目次

- 第一章 總則
- 第二章 試業規則
- 第三章 教場規則
- 第四章 生徒編制規則
- 第五章 生徒心得
- 第六章 寄宿舎規則
- 第七章 生徒服裝概則
- 第八章 敬禮及服從規則
- 第九章 舎監職務細別
- 第十章 組長ノ職務
- 第十一章 什長ノ職務
- 第十二章 伍長ノ職務
- 第十三章 日直規則
- 第十四章 検査規則

カノ部 學務

廿四年一月十日  
第一號  
正式ノ通知

- 第十五章 外出規則
- 第十六章 食堂心得
- 第十七章 浴室心得
- 第十八章 圖書器具管理規則
- 第十九章 生徒學費支給規則
- 第二十章 生徒貸與品目
- 第二十一章 罰則

長野縣尋常師範學校規則

第一章 總則

第一條 本校生徒ノ定員ヲ二百名トシ、在學中ノ學費ハ本校ヨリ給與ス  
但定員内ニ於テ女生徒若干名ヲ養成スルコトアルヘシ

第二條 入學志願者ハ入學中家事ニ係累ナキモノタルヘシ

第三條 入學ヲ請フ者ハ身体學力等ノ試験ヲ爲スヘシ

第四條 合格ノモノハ募集ノ定員内ニ於テ試験生トシテ假ニ入學セシメ適當ト認ムルハ更ニ本入學ヲ許スヘシ

第五條 本入學ヲ許シタルハ左式ノ誓文ヲ差出スヘシ

誓文 用紙内山界紙

某儀今回御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則ニ遵ヒ師長ノ訓誨ヲ守リ只管勉勵致スヘキハ勿論卒業ノ上ハ御成規之通服務致ス可ク依テ誓文如斯候也

年月日

長野縣尋常師範學校長宛

族籍 氏 名 印

第六條 生徒ハ通學ヲ許サズ渾テ校内ニ寄宿セシム

第七條 全科卒業ノモノニハ書式第一號ノ證書各級修業ノモノニハ第二號證書ヲ授與スヘシ  
(用紙爲ノ子紙) (用紙大奉書四ツ切)

卒業證書

第 一 號

校 印

族籍 姓名

生年月

右ハ尋常師範學科ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了セルヲ以テ此卒業證書ヲ授與スル者也

年 月 日

學校長 氏 名 印

番 號

進級證書

第 二 號

校 印

族籍 第何年生

生年月

尋常師範學科第何年級へ進級セシム

年 月 日

學 校 名

番 號

カノ部 學務

廿六年十二月十六日  
令  
第十號  
以  
四月十六日  
正式  
改定  
本  
項  
加  
一  
年  
試  
業  
規  
則

第八條 入學後ハ半途退學ヲ許サス  
第九條 在學中懶惰不品行或ハ疾病等ニテ成業ノ目途ナキモノハ退學ヲ命ス  
第十條 學年及ヒ休業日左ノ如シ

- 學年 四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 孝明天皇祭 一月三十日
- 紀元節 二月十一日
- 春季皇靈祭 春分ノ日
- 神武天皇祭 四月三日
- 夏季休業 八月一日ヨリ同月卅一日迄
- 秋季皇靈祭 秋分ノ日
- 神嘗祭 十月十七日
- 天長節 十一月三日
- 新嘗祭 十一月廿三日
- 冬季休業 十二月廿六日ヨリ翌年一月十五日マテ
- 日曜日
- 學期末五日間

第二章 試業規則

第一條 試業ヲ分チテ入學試業臨時試業學期試業ノ三種トス  
第二條 試業ハ總テ點數ヲ以テ其優劣及ヒ及落ヲ判定ス各試業ノ評點各學科一百ヲ以テ定點トス

但修身科ハ實踐ヲ重スルカ故ニ平常行狀ノ良否ヲ考察シ其試業ノ點數ヲ増減スヘシ  
第三條 入學試業ハ高等小學科ノ程度ニ從ヒ其各學科ヲ試ミ平均點數六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス然レモ若シ一學科ノ得點四十ニ滿タサルハ落第トス

第四條 臨時試業ハ一學期中學科ノ進度ニ由リ六回以下四回以上適宜ニ之ヲ施行シ學業ノ進否ヲ檢スルモノトス  
第五條 學期試業ハ各學期ノ末即チ十二月ニ於テ之ヲ施行シ一學期中履修セシ學業ノ成績ヲ檢スルモノトス

第六條 學期修業點ヲ定ムルニハ各學科ニ就キ其學期中各臨時試業ノ評點ヲ合算シ得ル所ノ和ヲ其數ヲ以テ除シ之ヲ臨時試業ノ平均點トス更ニ之ニ學期試業ノ得點ヲ加ヘ二除シテ各學科ノ學期試業評點トス之ヲ合算シテ得ル所ノ和ヲ學科ノ數ヲ以テ除シ學期試業總評點トス

第七條 及落ヲ判定スルニハ各學科ノ學期試業評點數各六十以上ニ至ルモノヲ及第トス然レモ一學科タリテ臨時試業ノ平均點或ハ學期試業ノ得點四十ニ滿タサルモノハ落第トス

第八條 試業不合格ノモノハ何等ノ事由ニ係ラス再試驗ヲ受クルヲ得ス  
第九條 試驗ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ經ヘシ

第三章 教場規則

- 第一條 就業及ヒ放課ハ喇叭ヲ以テ之ヲ報ス
- 第二條 生徒教場ノ往復ハ首席ノ者之ヲ導クモノトス
- 第三條 生徒ノ席次ハ後列ヲ上位トシ前列ヲ下位トス
- 第四條 生徒受業ノ前後教師ニ對シ立禮スヘシ

カノ部 學務

但首席ノモノ之ヲ令スヘシ  
 第五條 生徒授業中教師ノ許可ヲ得スシテ席ヲ離ルヘカラス  
 第六條 書籍器械ヲ紊亂シ又ハ雜話ヲナスヘカラス  
 第七條 課業ノ所要品ハ入場ノ節必ス携帯スヘシ  
 第八條 授業時間ノ外ハ生徒猥リニ教場ニ入ルヘカラス  
 第九條 敬スヘキ人ノ來ル時生徒教師ノ命令ニヨリ立禮スヘシ

第四章 生徒編制規則

寄宿舎ハ生徒ヲシテ順長信愛威重ノ三氣質ヲ訓練養成セシムル教室外ノ教育ヲ施ス所ニシテ教育ノ過半ヲ占ムルモノトス依テ左表ニ編成ノ法ヲ設ク  
 第一 學友ハ軍人講究スル所ノ要旨ニ據リ校內ノ風紀ヲ保チ規律ヲ守リ第一ニ順長ナル氣質ヲ養ヒ服從ノ習慣ヲ成サシメ且信愛相扶持スヘキ情義ヲ知ラシムヘキモノトス  
 第二 各伍ヲ組ミ一伍ニ伍長ヲ置キ二伍ニ什長ヲ置キ二什ニ組長ヲ置クモノトス而シテ伍長什長ハ一伍ニ伍長ノ爲メニ心ヲ勞シ信愛友情ノ厚カラントテ要ス組長ハ軍隊ニ在テハ隊長ノ位置ニ居ルモノナレハ彼ノ司令官ノ一隊ヲ統督スルカ如ク其威重侵スヘカラサルモノアリテ一組ヲ保全セサルヘカラス  
 第三 三氣質ヲ養成備具セシムル爲メ生徒ヲシテ交互輪番ヲ以テ學友トナリ伍長トナリ什長トナリ組長トナラシムヘシ  
 第四 組長ハ四年生什長ハ三年生伍長ハ二年生トシ三週間輪番ヲ以テ從事セシム  
 第五 四年生三年生二年生ニシテ非番ノモノハ總テ一年生ノ部ニ編入スルモノトス

第六 時宜ニヨリテハ四年生中ヨリ合置副ヲ置キ舎監ノ職務ヲ助ケシムルヲアルヘシ

組長 24	組長 24			組長 24			四年生	三年生	二年生	一年生	學友 小別
	什長 11	什長 11	什長 11	什長 11	什長 11	什長 11	伍長	伍長	伍長	伍長	
	伍長	伍長	伍長	伍長	伍長	伍長	學友	學友	學友	學友	
	4人	5人	4人	4人	5人	4人	4人	5人	4人	5人	
	四年生	二年生	四年生	四年生	二年生	四年生	一年生	四年生	二年生	四年生	
	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	
	三年生	一年生	三年生	三年生	一年生	三年生	二年生	四年生	二年生	四年生	
	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	

カノ部 學務

舍監 200 副											
組長 24		組長 23				組長 24					
什長 11		什長 11		什長 10		什長 11		什長 11		什長 11	
伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學
友	友	友	友	友	友	友	友	友	友	友	友
五	四	五	四	四	四	五	四	五	四	五	四
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

四百二十三

組長 24											
什長 11		什長 11		什長 11		什長 11					
伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學
友	友	友	友	友	友	友	友	友	友	友	友
四	五	四	五	四	五	四	五	四	五	四	五
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

第七 甲組ヨリ乙組等ニ變換スルハ舍監ノ意見ニ據ルヘシ  
 第五章 生徒心得  
 本校生徒ハ他日人ノ師表トナルヘキモノナレハ其任タル固ヨリ重シ故ニ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘ以テ完全ノ人トナルヲ期セサルヘカラス因リテ左ニ恪守スヘキ要件ヲ指示ス居常春々服膺セテ  
 一 忠孝ハ人倫ノ大本尊王愛國ハ臣民ノ通義ナリ厚ク其旨ヲ体認スヘキヲ  
 忽忘スル勿レ

カノ部 學務 四百二十三

一長者ヲ敬シ朋友ニ信ニ卑幼ヲ慈ミ及ヒ自己ヲ重スヘキ  
 一禮儀ヲ重シ廢吐ヲ勵ミ噪妄ヲ戒メ輕浮ヲ慎ムヘキ  
 一謹密其心ヲ整理シ嚴肅其志ヲ操持シ苟モ放肆偷安ノ舉動アルヘカシサル  
 一今日修養スル所ノ德義學藝ハ皆他日兒童ノ模範トナラサルモノナシ宜シク夙夜警懼勵スヘキ  
 一常ニ身体被服居室ノ不潔ヲ戒メ眠食勞佚ヲ適度ニシ健康ヲ保テ精神ヲ快活ナラシムルヲ務ムヘキ  
 一違示スル所ノ規則ヲ遵奉確守シ凡ソ上長教師ノ命令スル所ハ之ニ恭順シテ違背スヘカラス

一學友互ニ善ヲ責メ交誼ヲ盡スヘシ苟ニ人ヲ譏議スル等ノコトアルヘカラス

第六章 寄宿舎規則

第一條 寄宿舎ヲ分チテ自修室寢室ノ二トス自修室ハ生徒受業外自ラ學術ヲ研究スル處トシ寢室ハ生徒臥褥ノ所トス

第二條 寄宿舎ニ在リテハ下條ニ定ムル條項ヲ守リ諸事舍監ノ指揮ニ從フヘシ

第三條 毎朝起床ノ號音ニテ起床シ窓戶ヲ開キ服裝ヲ正シ伍長ニ隨ヒ廊下ニ整列シテ人員檢査ヲ受クヘシ

第四條 日朝人員檢査終レハ室内ヲ掃除シ器具被服等ヲ整理シ而シテ盥嗽梳髮スヘシ

第五條 起床後日夕人員檢査迄ハ寢ニ就クヲ許サス  
 但病氣ニテ頗濟ノモノハ此限ニアラス

第六條 自修室ニ於テハ他人ノ勉強ヲ妨ケサル様注意シテ書類ハ都テ歌讀タルヘシ  
 但特ニ時間ヲ限リ音讀ヲ許スコトアルヘシ

第七條 舍内ニ在リテハ殊ニ靜肅ヲ旨トシ吟詠雜談其他喧嘩ノ舉動アルヘカラス

第八條 室内及ヒ廊下ニ於テ總テ汚穢不潔ノコトナナスヘカラス

第九條 舍内ニ在リテハ茶菓等ヲ喫食シ又ハ小説稗史ヲ讀ミ或ハ無用ノ玩具ヲ用フルヲ禁ス

第十條 舍内ニ在テハ指定シタル場所ノ外湯水ヲ飲ミ及喫烟スルヲ禁ス

第十一條 窓ヨリ諸物ヲ投棄シ又ハ物ヲ墜ラス等ノコトアルヘカラス

第十二條 銃器其他ノ諸物品ノ掃除ハ所定ノ外ニ於テナスヘカラス

第十三條 舍内ニ入ルトキハ必ス靴ノ泥ヲ靴拭ニテ叩嚙ニ掃除スヘシ

第十四條 頭髮ハ凡前頭二寸後頭一寸ヨリ長クスヘカラス

第十五條 燈火ハ他所ニ持チ行クヘカラス

第十六條 就褥ノ號音ニ依リ寢室ニ至リ必ス視衣ヲ着ケ寢ニ就クヘシ

第十七條 凡就褥後ハ窓戶ヲ開キテ夜風ヲ室内ニ入ルヘカラス

第十八條 病氣ノ爲メ欠課セントスルトキハ其都度書面ヲ以テ日直伍長ニ届ケ出ツヘシ

第十九條 來訪者アルキハ授業時間外舍監ノ許可ヲ得應接所ニ於テ面會スヘシ  
 但點燈後ハ面會スルヲ許サス

第二十條 疾病ニ罹リ飲食起臥ノ規定ヲ履ム能ハサルモノハ醫師ノ診斷ニヨリ病室ニ入ラシムル傳染病及ヒ病重キモノハ病院ニ入ラシメ或ハ下宿ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 起床就褥及ヒ散步等ノ時間ハ日ノ長短ニ由リ時々定ムル所ニ據ルヘシ

第廿二條 午飯ヲ喫シ終レハ就禱ノ準備ヲ爲シ置クヘシ  
 第廿三條 事故アリテ不在中ノ達示命令等ハ歸舍ノ際所屬伍長ニ就テ承知スヘシ  
 第廿四條 上長ノ舍内ニ來ルハ居合セタル組長什長若クハ伍長ノ指揮ニヨリ立禮スヘシ  
 第廿五條 自修室内時々設タル處ノ質問所ニ於テ所定ノ時間ニ既ニ教授ヲ受ケタル學科ニ就キ教員ニ質問スルヲ得

但質問スヘキ學科ハ時々定ムル所ニ據ルヘシ

第七章 生徒服裝規則

第一條 生徒ハ教室講堂及体操場等ニ入ルトキハ勿論校ノ内外ヲ問ハス必ズ制服ヲ着スヘシ  
 第二條 制服ヲ着シタルハ必ズ制帽及靴ヲ用ヒ眼鏡襟卷傘下駄草履等ヲ用ユルヲ禁ス而シテ妄リニホツクニテ外シ袴ノ裏ヲ露ハス等不体裁ノ服裝ヲナスヘカラス  
 但時宜ニヨリ命シテ胸部ヲ開クヲ許スコトアルヘシ  
 第三條 降雨降雪ノ時ハ外套ヲ着シ並ニ脚袴ヲ穿ツヘシ  
 第四條 袴ハ必ズ尾錠ヲ以テ腰部ニ留ムヘシ袴鈞或ハ帶ハ用ユヘカラス若シ止ムヲ得ズ帶ヲ要スルハ袴ト同色ノ物ヲ用ユヘシ  
 第五條 夏服ヲ着シタルハ必ズ帽ノ日覆ヲ用ユヘシ然レモ外套ヲ着シタルハ日覆ヲ除クヘシ  
 第六條 校外ニ出ツルハ必ズ帽ヲ戴クヘシ  
 第七條 外套ハ降雨降雪ノ外ハ特ニ許可スルニ非ラサレハ着スヘカラス  
 第八章 敬禮及服從規則  
 第一條 敬禮ハ上下尊卑ノ別ヲ正フスルモノナレハ管ニ外面ノ禮容ヲ表スルノミナラス忠實ニ恭

敬ノ意ヲ盡スチ旨トシ決シテ之ヲ亂ルコトアルヘカラス

第二條 着帽ノ節敬禮ヲ行フニハ右手ヲ舉ケ指チ地平ニナシ掌ヲ前面ニ向ケ帽底ノ右側ニ當テ敬スヘキ人ニ注目スヘシ步行中ニ在テハ凡ソ六歩前ニ止リ之ヲナスヘシ

但生徒中相逢フハ本條ニ準シ互ニ相當ノ禮ヲナスヘシ

第三條 凡テ室内ニ入ラントスルハ先ツ室外ニ於テ帽ヲ脱スヘシ

第四條 室内ニ於テ敬禮ヲ行フニハ先ツ其人ニ對シ正面直立シ体ノ上部ヲ前ニ傾クヘシ室内ニ來ルモノ己レヨリ上級ナルカ又ハ同級ナルハ其座ヲ離レ敬禮スヘシ若シ下級ナルハ其儘答禮スルモ妨ナシ

第五條 上長ニ對シ談話スルハ姿勢ヲ正フスヘシ若シ帽着スルハ之ヲ脱シ右手ニ携ヘ上長ヨリ着帽ヲ許スニ非レハ之ヲ着スヘカラス

第六條 凡ソ下タルモノハ上タルモノニ服從シ各其分限ヲ守リ以テ恭敬ヲ盡スヘシ

第七條 凡ソ下タル者上タル者ニ對シテハ諸事從順ヲ旨トスヘシ殊ニ命令ハ離テ之ヲ違奉スヘシ

限リニ其當不當ヲ論シ其主旨等ヲ質問スルヲ許サス然レモ其命令不了解ナルハ正當ノ順序ヲ經テ説明ヲ乞フハ妨ケナシ

第九章 舍監職務細則

第一條 舍監ハ部下ヲ指揮シ成規ヲ守リ親愛ヲ旨トシ風紀ヲ維持シ平常生徒ノ性質動情ヲ察シ專ラ舍内取締ノ責ニ任スルモノトス  
 第二條 舍監ハ交番ヲ以テ日直シ生徒在舍中ハ須臾モ校内ヲ離ルヘカラスモトス  
 第三條 日々各室内ヲ巡視シ給貸與品ノ手入保存及ヒ諸裝備ノ清潔等ニ至ルマテ總テ定則ニ違ハ



サル様注意シ假令些少ノ事件ト雖モ決シテ之ヲ忽略ニ附ヒズ嚴正ニ室内ノ定規ヲ守ラシムヘシ  
是等ノ事ニ就キ過失或ハ不整理ナルコトアルトハ校長或ハ幹事ヨリ質問ヲ受クルモノトス

第四條 屢々自修室ヲ巡視シ生徒ヲシテ靜肅ニ勉強セシムルコトニ注意スヘキモノトス  
第五條 毎月末ニ生徒ノ性質動情等ヲ詳記シ幹事ヲ經テ校長ニ具申スヘキモノトス

第六條 毎月適宜日曜日ノ午前日直組長ニ命シ諸物品ノ手入等都テ裝置ヲ整頓セシムヘキモノトス  
但整頓ノ旨日直組長ヨリ申出ツルトハ検査ヲナスヘシ

第七條 生徒ニ犯則者アルトハ嚴明ニ之ヲ糾シ意見ヲ附シ幹事ヲ經テ校長ノ決裁ヲ請フヘキモノトス  
第八條 什長ヨリ破損品ノ修理等ヲ申出ツルトハ詳ニ之ヲ糾シ其理由止ムヲ得サルモノハ直ニ檢

印シ若シ其破損本人ノ過失ヨリ生ゼシトハ其旨ヲ具シ幹事ヲ經テ校長ノ指揮ヲ請フヘシ  
第九條 生徒諸願何屆等職權内ニ屬スルモノハ直ニ處分シ後幹事ヲ經テ校長ニ開申スヘシ事權

外ニ屬スル分ハ先ツ幹事ニ出シ指揮ヲ乞フヘキモノトス  
第十條 急病者アル旨申報シ來ルトハ一時救急法ヲ日直組長ニ指揮シ便宜醫員ヲシテ治療ヲナサ

シムヘキモノトス  
第十一條 夜中非常ノ事アルトハ警報ヲ以テ部下ヲ召集シ臨機ノ處分ヲナシ直ニ校長及ヒ幹事  
ニ申報スヘシ

第十二條 日直ノ者ハ其日ノ合内日報表ヲ製シ翌朝幹事ヲ經テ校長ニ申報スヘシ  
第十三條 校長ノ命ニヨリ生徒給貸與品ニ關スル事務ヲ分擔スヘキモノトス

第十四條 生徒取締上ニ關シテハ事細大トナリ同僚ノ協議ヲ盡シ其處置區々ニ出テサル様最注意  
スヘキモノトス

第十章 組長ノ職務  
第一條 組長ハ合監ノ命ヲ奉シ部下一般ノ取締ニ任シ其風紀ヲ維持シ又什長伍長ヲ指揮シ生徒ノ  
行狀及物品ノ整理ヲ監視スヘシ

第二條 什長ヲ指揮シ部下生徒ヲシテ給貸與品等ノ取扱ヲ鄭重ニシ其保存ニ注意セシムヘシ  
第三條 時々合内ヲ巡視シ諸規則等ノ履行如何ニ注意シ又銃器被服其他諸物品ノ破損紛失等ニ關シ  
什長ヨリ申出ルル其事由ヲ糾シ不得已モノハ之ニ檢印シ本人ヲシテ舍監ニ出サシムヘシ

第四條 組長ハ左ノ帳簿ヲ保管スヘシ  
一 修理品請求簿  
修理品請求簿ハ被服ト銃器ト記載スヘキ場所ヲ區分スヘシ

一 部下生徒人名簿  
部下生徒人名簿ハ生徒編制法ニヨリ調製スルモノナリ

第五條 日夕人員検査ノ節ハ部下生徒ヲシテ其席次ニ就カシメ検査ノ準備ヲナサシムヘシ  
第六條 生徒中犯則者アルトハ其事由ヲ糾シ意見ヲ附シテ舍監ニ申出テ又生徒ノ願何屆等順序ヲ  
經テ什長ヨリ申出ルルハ其事情ヲ審按シ意見ヲ附シ日直組長ニ出スヘシ

第七條 毎土曜日各室大掃除ノ上諸物品整頓ノ旨什長ヨリ申出ツレハ之ヲ検査シテ舍監ニ報告ス  
ヘシ

第八條 給貸品受領ノトハ便宜什長及ヒ伍長ヲ率ヒ來リ給與掛ヨリ受取り部下ニ配付スヘシ

但毎金曜日ニハ毎週手當ノ金額ヲ各自ノ手帳ニ記入セシメ之ニ檢印ヲナシ給與掛ニ出スヘシ  
第九條 部下生徒中急病者アルキハ直チニ合監ニ申報シ指揮ヲ受ケヘシ

第十一章 什長ノ職務

第一條 什長ハ組長ノ命ヲ受ケ部下ヲシテ規則及ヒ命令ヲ遵守セシメ舍内ノ規律嚴正ナランコトヲ期ス故ニ部下ニ於テ不規則ノコトアルトキハ其責ヲ受クルモノトス

第二條 時々部下室内ヲ巡視シ規則ヲ守ラサルモノアルキハ之ヲ伍長ニ示達シ若シ用非サルモノアルトキハ一應説諭ヲ加ヘ再三ニ及フ者ハ之ヲ組長ニ申告ス又各自所用ノ銃器其他物品等ノ取扱ハ常ニ部下ヲシテ鄭重ニシ其保存ニ注意セシムヘシ

第三條 日朝人員檢査ノ節ハ部下生徒ヲシテ其席次ニ就カシメ檢査ノ準備ヲナサシムヘシ  
第四條 日朝人員檢査後ハ當番生ヲシテ寢室及ヒ自修室ヲ掃除セシムヘキモノトス

但當番生ハ組長ノ指揮ヲ受ケ部下ノ人員ニ就キ適宜順番ヲ定ムヘシ  
第五條 毎土曜日各室大掃除ノ上諸物品整理ノ旨伍長ヨリ申出ツレハ之ヲ檢査シテ組長ニ申告スヘシ

第六條 部下生徒中犯則者アルキハ之ヲ組長ニ申告シ諸事不規則ノコトアレハ之ヲ教戒スヘシ  
第七條 部下生徒所用ノ諸物品及被服等ノ毀損紛失等ニ關シ伍長ヨリ申出ルキ其理由ヲ糺シ已チ得サルモノト認ルトキハ之ニ檢印シ本人ヲシテ組長ニ出サシムヘシ

第八條 組長不在若クハ臨時ノ場合ニ在テハ組長ノ職務ヲ助クヘキモノトス  
第九條 給與物品ヲ組長ヨリ受取ルトキハ速ニ部下ニ配付スヘシ

第十二章 伍長ノ職務

第一條 伍長ハ舍中一般ノ規則ヲ遵奉シ行狀言語ヲ正フコトヲ部下ノ模範トナルヘキヲ以テ不規則ノコトアルトキハ其責ヲ受クルモノトス

第二條 部下生徒ノ不行届ヲ責ムルハ其任タリ故ニ生徒ノ規則命令ニ從順セサル者アレハ之ヲ什長ニ申告スヘシ  
第三條 日朝夕人員檢査前ニ至レハ部下生徒ヲシテ其用意ヲナサシメ合監若クハ日直組長ノ檢査ヲ受ケ若シ患者アレハ其姓名ヲ日直伍長ニ通知スヘシ

第四條 部下生徒ノ能ク規則ヲ守リ給與物品等ノ掃除ヲ清潔ニセシヤ否ヲ時々檢査シ殊ニ教場其他操練場ニ出ツルトキハ其時限ニ諸事整理セシムル様注意シ且操練場ノ後銃器ノ破損紛失等ヲキヤ否ヲ綿密ニ檢査シ若シ損失等アルトキハ之ヲ什長ニ申告スヘシ

第五條 毎土曜日ニハ學友ヲシテ悉ク室内ヲ掃除清潔ナラシメ又組長ノ命ニ據リ銃器其他諸物品ノ手入ヲナサシメ彈ヲ檢査ノ際不都合ナキ様注意スヘシ

但病氣若クハ不在者ノ銃器其他ノ諸物品ハ學友ヲシテ保存手入等ヲナサシムヘシ  
第六條 部下生徒事故アリテ不在ノモノニハ歸舍ノ際其不在中ノ違示命令等遺漏ナク知悉セシメ本人ヲシテ心得ノコトヲカサシムヘシ

第七條 什長不在者若クハ臨時ノ場合ニ在テハ什長ノ職務ヲ助クヘキモノトス  
第八條 生徒ノ願何屈等ハ其事由ヲ詳ニシ至當ト認ムルモノハ檢印シ什長ヲ經テ組長ニ出シ其不當ナルモノハ教諭説諭スヘシ

第九條 部下生徒所用ノ諸物品及被服等ノ毀損紛失等アルトキハ其事由ヲ糺シ不得已モノハ之ニ檢印シ本人ヲシテ所屬什長ニ出サシムヘシ

但正當ノ理由ナキモハ別ニ意見書ヲ作り仕長ヲ經テ組長ニ申告スヘシ

第十條 部下生徒ニ急病アルキハ直ニ日直伍長へ通知シ及ヒ所屬仕長ニ申告スヘシ

第十一條 給貸與品ヲ仕長ヨリ受取ルキハ速ニ部下生徒ニ配付スヘシ

第十二條 夜中非常ノ警報アルキハ速ニ部下生徒ヲ率ヒ整列場ニ到リ所屬仕長ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十三章 日直規則

第一條 日直ハ組長一名仕長一名及ヒ伍長二名トシ總テ毎日午前第八時ニ交代スルモノトス

第二條 日直ハ本校所定ノ徽章ヲ帶フルモノトス

第三條 日直中ハ日直室ニ於テ勤務シ私事ノ爲メニ外出スルヲ得ス

第四條 日直ハ常ニ其席ニ在テ外出生徒ノ歸校スルトキハ其時限及ヒ容儀服裝ニ注意シ若シ成規ニ違フ者アルキハ其姓名ヲ記シ之ヲ合監ニ申告スヘシ

第五條 日直交代ノ時ハ諸事遺漏ナク申繼クヘシ

第六條 日直組長ハ合監ノ命ヲ奉シ日直仕長及ヒ日直伍長ヲ指揮シ合内ノ靜謐及規律ヲ保タシメ

又達示命令ヲ傳達シ其施行上ニ關シ仕長以下ヲ督責スルモノトス

第七條 日直組長ハ左ノ帳簿ヲ管理スヘシ

一 命令簿

命令簿ハ時々ノ達示命令ヲ記載シ各組長ニ交付シ生徒一般ニ傳達セシムヘシ

一日直管理備品簿

日直管理備品簿ハ日直室其他湯呑所等ノ備付品ヲ記スヘキ場所ト修理請求スヘキ場所トヲ區別シ置キ其時々登錄スルモノナリ

一 生徒人名簿

生徒人名簿ハ本校生徒ノ編制法ニヨリ調製スルモノナリ

第八條 日直組長ハ備付諸物品ノ毀損紛失等アル時ハ速ニ合監ニ申告シ指揮ヲ請フヘシ

第九條 日直組長ハ日朝人員検査ヲナシ異狀ノ有無ヲ合監ニ申告スヘシ又諸検査ノ時ハ合監ニ隨行スヘシ

第十條 日直組長ハ生徒ヨリ差出ス諸願伺届等至當ト認ムルモノハ檢印ノ上合監ニ差出スヘシ

第十一條 日直組長ハ夜中非常ノ警報アルトキハ各組長ニ通報シ速ニ整列場所ニ至テ各組長ト共ニ部下ヲ指揮シ合監ノ命ヲ待ツヘシ

第十二條 日直組長ハ食事前ニ必ス日直仕長ト共ニ食堂ニ臨ミ食物ノ良否等ヲ視察シ之ヲ合監ニ申報スヘシ

第十三條 日直組長ハ日直仕長及ヒ日直伍長ヲ指揮シ日報表ヲ調製シ之ヲ合監ニ差出スヘシ

第十四條 日直仕長ハ事ヲ日直組長ニ承ケ左ノ帳簿ヲ管理スヘシ

一日誌

日誌ハ合内ニ發生セル事項ヲ細大トナク之ニ登錄スルモノナリ

第十五條 日直伍長ハ事ヲ日直組長及日直仕長ニ承ケ生徒ノ名刺及ヒ左ノ帳簿ヲ管理スヘシ

一 生徒名刺

生徒中外出セントシ名刺ヲ乞フ者アルキハ之ヲ渡シ歸校ノ節ハ又之ヲ請取ルヘシ

一 診察簿

診察簿ハ各伍長ヨリ申出ツル患者ノ姓名ヲ記シ日直仕長及日直組長ヲ經テ合監ニ差出スヘシ

第十四章 検査規則

第一條 人員検査

起床後直ニ行フモノヲ日朝人員検査トシ消燈前三十分ニ行フモノヲ日夕人員検査トス其法日朝人員検査ノ節ハ伍長ハ部下生徒ヲシテ寢室ノ廊下ニ整列セシメ各自ニ番號ヲ唱ヘシメ日直組長ノ検査ヲ受ケ異狀ナケレハ直チニ解散セシムヘシ又日夕人員検査ハ日直組長生徒ヲシテ自修室ノ廊下ニ整列セシメ合監巡檢ヲ來レハ其姓名ヲ呼ビ検査ヲ受ケ異狀ナケレハ解散セシム可シ但合監ニ於テ必要アリト認ムルトキハ幹事ニ申告シ指揮ニヨリ不時ニ人員検査ヲ施行スルコトアルヘシ

第二條 日常検査

日常検査ハ日直組長及ヒ日直什長ノ毎日朝食後夕食後及ヒ消燈後適宜ノ時間ニ於テ各室ヲ巡檢シ諸般ノ整理戒火及ヒ衛生ノ注意如何ヲ檢シ兼テ生徒ノ品行性質ヲ視察スルモノトス

第三條 清潔検査

清潔検査ハ毎土曜日午後合監之ヲ行フモノニシテ主トシテ室内ノ清潔物品ノ整理ヲ検査スルモノトス

第四條 細密検査

細密検査ハ毎月一回給貸與品ノ員數及ヒ保存ノ如何ヲ生徒各自ノ手牒ニ照シ合監書記之ヲ行フモノトス

第五條 武裝検査及ヒ銃器分解検査

武裝及ヒ銃器分解検査ハ時々合監ヨリ命令ヲ出シ合監立會兵式体操教員之ヲ行フモノトス

第六條 身体検査

身体検査ハ体操教員之ヲ掌リ毎年二回醫員ヲシテ生徒ノ身体ヲ細密ニ検査セシメ體質ニ依テ甲乙丙ノ三種ニ別チ以テ身体検査簿ニ登錄シ病癘又ハ身体ニ仔細アルモノハ一々之ヲ備考ニ記ス其甲乙丙ノ區別ハ十分健康ノ者ヲ甲トシ帶患健康ノモノヲ乙トシ體質強壯ナラス動モスレハ病ニ掛リ易キモノヲ丙トス但検査ノ時々活方統計表ヲ調製スヘシ

第十五章 外出規則

第一條 外出ヲ許スハ毎日放課後及日曜日大祭日祝日トス

第二條 病氣ニテ課業ヲ欠クモノハ當日ノ外出ヲ許サス

第三條 冬期及ヒ夏期休業中ハ總テ歸省セシム

第四條 外出ノ時ハ名刺ヲ日直伍長ヨリ受取り之ヲ合監ニ出シ歸舍ノ節ハ伍長ヘ返却スヘシ

第五條 散歩ノ時ハ學友同伴マルヘシ

第六條 歸校ハ定時限内マルヘシ

第七條 外出ノ節急病ニテ定時限内ニ歸校シ能ハサルモノハ最寄醫師ノ診斷ヲ受ケ歸校ノ上其診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ

第八條 父母ノ病氣ニヨリ飯省セント欲スルトキハ父兄若クハ保證人等ノ通知書ニ醫師ノ診斷書

及ヒ容体書ヲ添ヘ期日ヲ定メ願出許可ヲ請フヘシ但歸省日數ハ往復ヲ除キ一週間以内マルヘシ

第十六章 食堂心得

カノ部 學務

第一條 食事ノ號音ヲ爲スルハ各組順次食案ニ就キ順序ヲ亂スヘカラス  
 第二條 食事前後互ニ禮ヲナスヘシ  
 第三條 食事中行儀ヲ正シ靜肅ヲ旨トスヘシ  
 第四條 食事時間ハ二十分ヲ過クヘカラス  
 第五條 食物ノ美惡ヲ論シ賄方ニ直談スヘカラス

第十七章 浴室心得

第一條 入浴ハ所定ノ時間内ニ於テ各組輪番ヲ以テスヘシ期ヲ過クルモノハ入浴スルヲ得ス  
 第二條 裸躰ニテ室外ニ出ツヘカラス  
 第三條 入浴中ハ靜肅ヲ主トシ雜沓セサル様注意スヘシ

第十八章 圖書器具管理規則

第一條 圖書並ニ器具ハ教頭幹事之ヲ總管シ教員會監書記之ヲ分管スルモノトス  
 第二條 新ニ購求シタル圖書並ニ器具ハ書記之ヲ其原簿ニ登記シ番號ヲ付シ校印ヲ捺シ教頭若クハ幹事ヲ經テ校長ノ檢印ヲ受クルモノトス  
 第三條 圖書ヲ分テテ教科用參考用ノ二種トシ其教科用ニ係ルモノハ其學科受持教員之ヲ分管シ參考用ニ係ルモノハ書記之ヲ分管スルモノトス  
 第四條 教員書記其分管ノ圖書ヲ教員若クハ生徒ニ貸附スルキハ借用證ヲ取リ置クモノトス  
 第五條 貸附ノ圖書ヲ返納シ來ルキハ其圖書ヲ檢査シ汚濁欠損等不都合ナキモノハ之ヲ受領シ借用證書ヲ返付スヘシ  
 第六條 器具ヲ分テテ教授用器具(理化學器械博物標本)寄宿舍用器具(自修室寢室食)庶務用器具(休操農樂手工用具)類

(教授頭幹事教員會監書記職員小使)ノ三種トシ其教授用ニ係ルモノハ受持教員之ヲ分管シ寄宿舍用ニ係ルモノハ會監之ヲ分管シ庶務用ニ係ルモノハ書記之ヲ分管スルモノトス

第七條 教員會監書記其分管スル器具ヲ職員若クハ生徒ニ貸附スルキハ器具貸附簿ニ登記シ其使用者ニ捺印セシムルモノトス

第八條 貸附ノ器具ヲ返納シ來ルキハ其器具ノ欠損等ヲ檢査シ不都合ナキキハ貸附簿ニ朱線ヲ施シ返付ノ月日ヲ記入スヘシ

第九條 凡ソ器具ノ欠損ヲ生シタルキハ之ヲ修理シ若クハ新調スヘシト雖モ其使用者不注意或ハ不適當ノ使用ニ出テタル場合ニアリテハ其費用ヲ自償セシムルコトアルヘシ

第十條 各分管者ハ圖書並ニ器具貸附簿ヲ製シ之ヲ保管スルモノトス

第十一條 凡ソ圖書並ニ器具ハ毎年一回校長立會教頭若クハ幹事檢査スヘキモノトス

但檢査ノ期ハ校長便宜定ムルモノトス

第十九章 生徒學費支給規則

第一條 生徒ノ學費ハ左ノ五種目ヲ支辨スルモノトス

- 一 食物
- 一 被服
- 一 日用器
- 一 修理及浴湯
- 一 毎週手當

第二條 食物ハ主ヲ衛生上ニ注意シテ之ヲ賄フヘシ

第三條 被服ハ左ノ九種トシ一定ノ時限ニ於テ之ヲ給シ若シ所定ノ期限内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交附スルヲ要スルトキハ其費用ハ本人ヨリ徴収スヘシ

- 一 冬衣袴
  - 一 夏衣袴
  - 一 冬シャツ袴下
  - 一 夏シャツ袴下
  - 一 以上四種ハ入學ノ初年各二組ヲ給シ次年ヨリ各一組ヲ給ス
  - 一 外套
  - 一 靴
  - 一 脚絆
  - 一 以上二種ハ一ケ年各二足ヲ給ス
  - 一 帽子 師ノ字ノ徽章ヲ付ス
  - 一 在學中二箇ヲ給ス
  - 一 靴下
  - 一 ケ月二足ヲ給ス
- 第四條 日用品ハ左ノ六種トシ時ノ需要ニ應ジテ適宜之ヲ給スヘシ
- 一 墨
  - 一 墨汁
  - 一 紙
  - 一 半紙
  - 一 洋紙
  - 一 紙

一 筆、ペン、ペン軸、石筆  
 一 鉛筆 常用  
 一 石油  
 一 炭

第五條 修理ハ被服ノ洗濯及靴ノ修葺トス

第六條 毎週手當ハ毎土曜日ニ於テ其日在學ノ生徒一人ニ付金拾錢ヲ給ス

第七條 給與シタル被服及日用品ハ卒業シテ退學スルモノニ在テハ之ヲ返納セシムルヲ要セスト 雖モ半途退學ヲ命シタルモノハ其時ノ現在品ヲ悉皆返納セシムヘシ

第八條 夏季冬季休業中ハ生徒ニ食費及毎週手當ヲ給シ歸郷セシムヘシ

第九條 發病ノ生徒ニ療養ヲ命シタルキハ其費用ヲ給スヘシ

入學生徒被服給與表

品目	給與年月				計
	第一年 一月五月	第二年 一月五月	第三年 一月五月	第四年 一月五月	
各衣袴	滿二年	二	一	一	五
夏衣袴	滿二年	二	一	一	五
冬シャツ袴下	滿二年	二	一	一	五
夏シャツ袴下	滿二年	二	一	一	五

カノ部 學務

外套并頭巾	滿四年	一								二
帽子	滿二年	一								二
全日履	滿二年		一							二
靴	滿一年	二								八
靴	下滿一年	八	十六							十六
脚絆	滿一年	二		八	十六					十六
				二	八	十六	十六	九十六		十六
										八

第二十章 生徒貸與品目

一 男生徒ニハ左ノ諸品ヲ貸與ス

- 一 教科用圖書
- 一 圖引道具
- 一 石盤算盤
- 一 硯箱並附屬品
- 一 銃並附屬品
- 一 机
- 一 椅子
- 一 器具、鑿炭、鏡、蒲團、枕、敷布、毛布、蒲團、蚊帳

一 食器

第二十一章 罰則

第一條 生徒ノ規則命令ニ違背スルモノハ輕重ヲ量リ之ヲ罰ス

但校物及ヒ給與品等自己ノ過失ニヨリ汚損紛失スル場合ニ於テハ相當處分ノ上現品或ハ現價ヲ自償セシムルコトアルヘシ

第二條 罰ヲ分テ戒飭禁止放校ノ三トス戒飭ハ説諭譴責スルモノトシ禁止ハ外出ヲ禁シ謹慎室ニ於テ自修セシムルモノトシ放校ハ學校ヨリ放逐シ事情ニ依リ在校中ノ學資ヲ一時ニ償還セシムルコトアルモノトス

但放校ノ場合ニ於テハ縣知事ノ認可ヲ經テ處分スヘキモノトス

第三條 凡ソ罰ニ處スルモノハ所屬組長之ヲ率ヒ校長ノ面前ニ於テ舍監之カ申渡シヲナス

但本文ノ場合ニ於テハ所屬什長伍長ヲモ立會ハシムヘシ

第四條 放校ニ處セラレタルモノハ其行爲ノ情狀ニ依リ仍ホ文部省直轄官立學校各府縣公私立ノ學校ニ入學スルヲ禁セラル、コトアルヘシ

但本文入學ヲ禁セラレタルモノト雖モ謹慎悔悟ノ實蹟アルモノハ特ニ入學ヲ許可セラル、コトアルヘシ

○訓令第百三號

郡 役 所  
戶 長 役 場  
小 學 校

廿三年十一月廿六日  
令第六十六號  
九月十六日  
學年十一月十一日  
トアト下シテ  
四月ト改メ

本年一月以後町村立小學校生徒ニシテ一學年皆勤ノ者ニハ賞品ヲ附與スヘキニ付各學校ニ於テ皆勤ノ生徒アルトキハ左表ノ通取調戸長校長(校長ナキトキハ首坐調取)連署ノ上毎年四月十五日マテニ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

明治二十年二月廿二日

長野縣知事 木梨精一郎

授業日數	學校名等	級	町村	誰子女姓	名	年	月

○訓令第三百三十五號

長野縣尋常中學校

其校規則別冊ノ通相定ム

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十年三月十六日

長野縣尋常中學校規則

- 第一章 通則
- 第二章 入學規則
- 第三章 試業規則
- 第四章 放場規則

廿七年四月  
第三十五號  
以上各條  
條目ヲ以テ  
條目ヲ以テ  
上條目ヲ以テ

- 第五章 生徒心得
- 第六章 授業料収入規則
- 第七章 通學規則
- 第八章 寄宿舎規則
- 第九章 罰則
- 第十章 圖書器具管理規則
- 第十一章 銃器取扱規則
- 第十二章 食堂心得
- 第十三章 浴室心得

長野縣尋常中學校規則

- 第一章 通則
  - 第一條 本校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス
  - 第二條 生徒ノ數ハ大約三百五十名トス
  - 第三條 生徒修學ノ便ヲ計リ寄宿舎ヲ設ク
  - 第四條 生徒ノ學資ハ總テ自辨タルヘシ
  - 第五條 生徒ハ總テ成規ノ授業料ヲ収ムヘシ
  - 第六條 在學中懶惰不品行或ハ疾病等ニテ成業ノ目途ナキモノハ退學セシム
  - 第七條 學年及休業日左ノ如シ

カノ部 學務

四百四十三

四百四十二



廿二年十月  
十日  
二百五十三  
正文  
通リ

廿二年十月  
十日  
二百五十三  
項追加

一學年

一月四日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一休業日

- 日曜日
- 土曜日午後
- 孝明天皇祭 一月三十日
- 紀元節 二月十一日
- 春季皇靈祭 春分ノ日
- 神武天皇祭 四月三日
- 夏季休業 八月一日ヨリ全月
- 秋季皇靈祭 三十一日マテ
- 秋分ノ日 十月十七日
- 神嘗祭 十一月三日
- 天長節 十一月廿三日
- 新嘗祭 十一月廿三日
- 冬季休業 十二月十六日ヨリ翌
- 學期末五日間 十二月十五日マテ

第八條 本校ノ課程左表ノ如シ

但教科用圖書ハ別ニ之ヲ定ム  
第九條 毎級(級四年)卒業ノ者ニハ第一號書式證書ヲ授與シ第五年級卒業ノモノニハ第二號書式

廿一年四月  
廿七日  
第三十五號  
文號ヲ以テ第一  
號ノ通號正

廿二年十月  
十日  
二百五十三  
年號ヲ以テ第一  
號ノ通號正

證書ヲ授與ス

證書式(用紙大表四ツ切)

進級證書

第一號

何府縣族籍 姓 名 生年月

尋常中學校第何年級へ進級セシム

年月日

長野縣尋常中學校

割印 番號

(用紙鳥ノ子紙)

卒業證書

第二號

何府縣族籍 姓 名 生年月

右者尋常中學校ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了セルヲ以テ此卒業證書ヲ授與ス

年月日

長野縣尋常中學校校長姓名 印

割印 番號

第二章 入學規則

- 第一條 入學ハ毎年四月トシ人員及期日ハ其都度告示スヘシ  
但欠員アルキハ臨時入學ヲ許スヲアルヘシ
- 第二條 本校ノ生徒ニシテ一旦退學ノ后更ニ入學ヲ乞フ者アルキハ檢定ノ上之ヲ許スヲアルヘシ

カノ部 學務

第三條 本校ニ入學セント欲スルモノハ左ノ書式ニ依リ入學願書及履歷書ヲ出スヘシ

入學願書 (用紙美濃紙)

私儀御校へ入學志願ニ付御許可被下度履歷書相添へ此段願上候也

年月日

何府縣族籍(戸主ナラサレハ誰子弟等)

誰印 生年月

長野縣尋常中學校

御中

履歷書 (用紙美濃紙)

何府縣族籍(戸主ナラサレハ誰子弟等)

誰印 生年月

本籍(寄留ナレハ寄留地ヲモ詳記スヘシ)

學業

一何年何月官公私立何學校ニ入り何某ニ就キ何學科何年間修業何等級卒業等但卒業證書ヲ有スルモノハ其寫ヲ添フ可シ

賞罰

一何年何月何處ニ於テ何事ニ付キ賞ヲ受ケ若クハ何事ニ付キ罰ヲ蒙ル等右之通相違無御座候也

第四條 入學許可ヲ得タルモノハ左ノ書式ニ從ヒ入學誓約書ヲ差出スヘシ

入學誓約書 (用紙美濃紙)

私儀入學御許可相成候ニ付テハ御校則堅ク相守リ勤學可仕候依テ誓約書如此候也

年月日

何府縣族籍(戸主ナラサレハ誰子弟等)

誰印 生年月

長野縣尋常中學校長宛

前文何誰在學中一切ノ事件ハ拙者共證人ニ相立テ引受可申候也

住所

長野縣族籍

誰印 生年月

身元保證人

全 何

誰印 生年月

向後轉居改印等候節ハ速ニ御届書可差出候也

第五條 當校ノ生徒タルモノハ身元保證人トシテ丁年以上戸主ノ男子ニシテ本縣在籍ノモノニ名

ヲ要ス

第六條 身元保證人死去又ハ本縣外ニ轉居スルキハ前條ニ由リ更ニ保證人ヲ定メ誓約書ヲ出サシムヘシ

カノ部 學務

廿一年三月十日  
第十七號  
文ノ通改正

廿二年十月十日  
第二十五號  
文ノ通改正

廿二年十月十日  
第二十五號  
文ノ通改正

廿一年三月十日  
第十七號  
文ノ通改正

第三章 試業規則

- 第一條 試業ヲ分テ入學試業編入試業臨時試業定時試業ノ四種トス
- 第二條 試業點ハ一百ヲ以テ定點トスト雖E數學科ハ特ニ係數ニテ附シ二百點ヲ以テ定點トス但臨時試業及定時試業ニ於テハ各學科定點一百中試業點六十日課點四十ノ割合ヲ以テ計算ス
- 第三條 各學科試業ノ評點ハ其優劣ニ由テ之ヲ加減ス
- 但修身科ハ實踐ヲ重スルカ故ニ平素ノ行狀ヲ檢按シ其點數ヲ増減ス可シ
- 第四條 試業ニ合格セサルモノハ何等ノ理由ニ係ラス再試驗ヲ受クルヲ得ス
- 第五條 入學試業ハ各學科ノ評點平均五十以上ヲ得タルモノヲ及第トス然レ若シ各學科ニ於テ一科三十點ニ足ラサルハ落第トス
- 第六條 編入試業ハ生徒學力優等ニシテ現ニ連續二回以上試業總約點八十五以上ヲ有スルモノニ限リ每年四月初旬又ハ十月中旬ニ於テ之ヲ許可スルヲアルヘシ
- 但新ニ入學シタルモノハ入學試業平均點七十五以上ヲ得タルモノニ限リ特ニ許可スルヲアルヘシ
- 第七條 編入試業ハ其編入ヲ望ム學級以下ニ於テ履修ス可キ各學科ヲ試ミ其及落ハ第十一條ニ依リ之ヲ判定スヘシ
- 第八條 日課點ハ平常生徒學業ノ優劣及勤惰ヲ表スルモノナレハ各學科ニ就キ之ヲ取リ臨時試業及定時試業點數中ニ算入ス
- 第九條 臨時試業ハ各學科進步ノ程度ニ從ヒ半學期內二回以上之ヲ施行シ學業ノ生熟ヲ檢スルモノトス

但得點ノ多寡ニ依テ席次ヲ變換スヘシ

第十條 定時試業ヲ分テ第一定時試業第二定時試業トス第一定時試業ハ半學年ノ終即十月中旬ニ第二定時試業ハ每學年ノ終即三月中旬ニ於テ之ヲ施行シ其學年中履修セシ學業ノ成績ヲ檢定スルモノトス

第十一條 每學年ノ終ニ於テ臨時試業及定時試業ノ各學科ノ評點ヲ計算シ一學年ノ評點ヲ定メ左表ニ基キテ生徒ヲ劃階ス

學期總評點平均數	不合格之學科目數及點數	
	學科目數	最低點數
六十以上	一	四十未滿
六十以下	一	五十未滿
六十以上	二	五十以上
六十以下	二	六十未滿

及第

落第

及第

及第

該學科目臨時試業評點平均數若クハ定時試業評點數六十以上ナルトキハ及第トス但數學科ハ百二十點以上ナルトキハ及第トス(以下表中總テ之ニ依フ)

カノ部 學務

正  
本  
文  
ノ  
通  
取  
ト  
ア  
リ  
シ  
マ  
ス  
英  
數  
二  
學  
科  
下  
テ  
檢  
ト  
リ  
テ  
第  
十  
七  
號  
第  
三  
十  
一  
年  
三  
月  
廿  
七  
日  
付  
第  
一  
號  
全  
上

六十以上 一百以下	六十以上 一百以下	六十以上 一百以下	六十以上 一百以下	六十以上 一百以下	六十以上 一百以下	六十以上 一百以下	六十以上 一百以下
二	二	二	二	二	二	二	二
四十以上 五十未滿	四十以上 五十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿
六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上
及第	落第	落第	落第	落第	落第	落第	落第
二學科目共臨時試業評點平均數若クハ 定時試業評點數六十以上ナルハ及第	二學科目共臨時試業評點平均數若クハ 定時試業評點數六十以上ナルハ及第	二學科目共臨時試業評點平均數若クハ 定時試業評點數六十以上ナルハ及第	二學科目共臨時試業評點平均數若クハ 定時試業評點數六十以上ナルハ及第	三學科目共臨時試業評點平均數若クハ 定時試業評點數六十以上ナルハ及第	六十以上 六十未滿	六十以上 六十未滿	六十以上 六十未滿

四百五十

五十以上 六十未滿	五十以上 六十未滿	五十以上 六十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿
一以上	二以上	三以上	二以上	三以上	三以上	三以上	三以上
六十未滿	五十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿	四十未滿
六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上	六十以上
落第	退學	退學	退學	退學	退學	退學	退學

第十二條 半學期評點ヲ定ムルニハ先各學科ニ就キ其半學期中臨時試業ノ評點ヲ合算シ得ル處ノ和ヲ臨時試業ノ數ヲ以テ除シ之ヲ臨時試業各學科ノ平均點トシ更ニ之ニ定時試業各學科ノ評點ヲ加ヘ二除シテ各學科ノ半學期評點ヲ得之ヲ合算シ得ル所ノ和ヲ學科ノ數ト學科ノ數トノ和ヲ以テ除シ半學期總評點平均數ヲ得ルヲ法トス  
但半學期ノ終ニ於テハ半學期評點一覽表ヲ製シ之ヲ揭示スヘシ

第十三條 學期評點ヲ定ムルニハ各學科ニ就キ前半學期及後半學期評點ヲ加ヘ之ヲ二除シテ各學科ノ學期評點ヲ得之ヲ合算シテ學科ノ數ト學科ノ數トノ和ヲ以テ除シ學期總評點平均數ヲ得ルヲ法トス

第十四條 臨時試業ニ欠席シタルモノニハ其前回又ハ次回ニ於テ得ル處ノ該學科臨時試業評點二分ノ一ヲ與フヘシ

カノ部 學務

四百五十一

廿二年十月  
十日卯令第  
二百五十三  
號ヲ以テ本  
文ヲ改正ス

但臨時試業三回以上ニ及フトキハ平均點ノ二分ノ一タルヘシ  
第十五條 定時試業ニ欠席シタルモノ其欠席万已ムヲ得サル事故アリト認メタルモノニ限り半學  
期ノ定時試業ニ於テハ十月下旬若クハ十一月月上旬ニ學期末定時試業ニ於テハ三月下旬若クハ四  
月上旬ニ特ニ其試業ヲ許可スルヲアルヘシ  
第十六條 引續キ二回以上原級ニ止マルモノハ除名スヘシ  
第十七條 第十一條ニ基キ原級ニ止メ或ハ退學ヲ論ス可キ生徒ト雖モ受持教員ニ於テ其平素ノ品  
行端正ニシテ學問ニ篤志ナルカ又ハ病氣等已ムヲ得サル事故アリテ勤學ヲ妨ケタル事實ヲ證明  
スルトハ假ニ進級或ハ在學ヲ許スヲアルヘシ  
第十八條 試業ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ經テ施行スヘキモノトス

第四章 教場規則

第一條 昇校ハ授業時間十分前タル可シ  
第二條 就業ハ振鐘ヲ以テ之ヲ報シ放課ハ點鐘ヲ以テ之ヲ告クヘシ  
第三條 時間ニ後レテ昇校スルモノハ其事由ヲ事務所ニ述ヘ廻參札ヲ得テ教場ニ入り之ヲ教師ニ  
出シ席ニ就クヘシ  
第四條 上校ノ節ハ必ス洋服ヲ着スヘシ  
第五條 席順ハ後列ヲ上位トシ前列ヲ下位トス  
第六條 授業ノ間ハ殊ニ禮節ヲ修メ務メテ靜肅ニシ教師ノ許可ナクシテ席ヲ離ル可カラズ  
第七條 書籍器械ヲ紊亂シ又ハ雜話ヲナス可カラズ  
第八條 授業時間ノ外猥リニ教場ニ出入シ又ハ教場裝置ノ書籍器械ヲ使用スヘカラス

廿二年十月  
十日卯令第  
二百五十三  
號ヲ以テ本  
文ヲ改正ス

第五章 生徒心得  
生徒タルモノハ謹慎戒懼身ヲ修メ心ヲ一ニシ刻苦淬礪志ヲ學業ニ專ラニシ居常左ノ件々ヲ服膺  
恪守スヘシ  
一 忠孝ノ心ヲ存シ尊王愛國ノ志氣ヲ持スヘキ事  
一 長ヲ敬シ幼ヲ慈シ正直信義ヲ守リ親切忠恕ヲ旨トスヘキ事  
一 廉耻ヲ勵ミ節操ヲ磨キ荷モ輕躁浮薄ノ風アルヘカラサル事  
一 禮讓ヲ重シ威儀ヲ正クシ荷モ粗暴傲慢ノ舉動アルヘカラサル事  
一 凡テ師長ノ訓誨ニ恭順シ規則ノ旨趣ヲ謹守スヘキ事  
一 身体健康ナラサレハ精神活潑ナラス精神活潑ナラサレハ勤苦ニ任ヘ難シ故ニ常ニ意ヲ攝生ニ  
注キ起居ヲ時ニシ飲食運動ヲ適度ニシ身体衣服ヲ清潔ニシテ以テ外軀ノ康強氣象ノ快活ナラ  
シヲ求ムヘキ事

第六章 授業料収入規則

第一條 授業料額ハ一ヶ月金壹圓トス  
但毎年一月ハ金五十錢タルヘシ  
第二條 授業料ハ毎月二十五日收入ス  
但休日ニ當レハ順延ス  
第三條 授業料ヲ納メサルモノアルトハ身元保証人ヲシテ代納セシム  
第四條 一ヶ月中日數ノ多少ニ係ハラヌ授業料受ケタルモノハ當月授業料ノ全額ヲ收入ス  
但病氣或ハ事故ニヨリ全一ヶ月間欠席スル者ハ當月ノ授業料ヲ收入セズ

カノ部 學務

第七章 通學規則

第一條 通學生徒ハ必ス現住所ヲ届出ツヘシ  
 第二條 課業ヲ缺クハ其事由ヲ記シ事務所ヘ届出ツヘシ  
 第三條 欠席十日以上ニ及フキハ證人連署ノ上其事由ヲ詳記シ届出ツヘク又病氣ノモノハ醫師ノ  
 診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ  
 但欠席三十日以上ニ涉ルキハ本文ノ手續ヲ經更ニ届出ツヘシ  
 第四條 半學期內欠席九十日ニ及フキハ何等ノ理由ニ拘ハラズ除名スルモノトス  
 第八章 寄宿舎規則  
 第一條 入舎セント欲スル者ハ左式ノ願書ヲ出スヘシ  
 入舎願

私儀入舎仕度候ニ付御許可被下度此段奉願上候也  
 年月日  
 長野縣尋常中學校 御中  
 第何年生 誰印

前文何誰在舎中金員ノ辨償ハ勿論一切ノ事件ハ私負擔可仕候萬一退舎又ハ下宿被命候節ハ私  
 ニ於テ速ニ引取可申候依テ證書如斯候也  
 住所  
 長野縣族籍

身元保證人 何 誰印  
 全 何 誰印

第二條 寄宿舎ハ冬夏季休業中閉鎖スルモノトス  
 但寄宿舎生徒ハ始業一日前必ス歸舎スヘシ  
 第三條 入舎ノ許可ヲ得ヌルモノハ左ノ誓約書ヲ出スヘシ  
 誓約書

私儀入舎御許可相成候ニ付御舎則堅ク可相守候也  
 年月日  
 長野縣尋常中學校 御中  
 第何年生 誰印

第四條 食料ハ毎月末ニ事務所ニ納ムヘキモノトス  
 但食料ノ定價ハ時々之ヲ揭示スヘシ  
 第五條 食料ヲ延滞シ督促ヲ受ケ尙ホ納メサル者ハ退舎セシム在舎中ノ食料ハ身元保證人ヲシテ  
 之ヲ償還セシムヘシ  
 第六條 疾病事故ニテ歸宅シ又ハ下宿スル等連續六十日以上ニ及フ者ハ退舎セシムヘシ  
 第七條 晨起及就寢ハ日ノ長短ニヨリ時々之ヲ揭示スヘシ  
 第八條 室内ハ極メテ清潔ナルヲ要ス故ニ毎晨必ス寢具ヲ收メ室内ヲ掃除シ然ル後盥嗽ス可シ

第九條 寢鐘ヲ報スレハ燈火ヲ滅シ寢ニ就ク可シ

第十條 毎日散步時限ハ放課後午後第六時迄トス

但休業日ハ晨起ヨリ十曜日ハ正午ヨリ午後六時迄外出ヲ許ス

第十一條 在舎生徒ハ居常左ノ件々ヲ服膺スヘシ

一言行ヲ正クシ攝生ニ注意シ何事ニ依ラズ凡テ生徒取締ノ指示ニ從フヘキト

一舎内ハ最モ靜肅ナルヲ要ス故ニ放歌吟詩高聲ノ言語及奔走等凡テ他人ノ勤學ニ妨ケアル舉動

ヲ爲スヘカラサルト

一毎日三時間ヲ默學時間ト定メ此時間中猥リニ机席ヲ離レ又ハ談話ヲ爲スヘカラサルト

但休業日ハ此限リニ非ス

一身体ノ沐浴衣服ノ洗濯及室内ノ掃除ヲ怠ルトナク専ラ清潔ニ注意スヘキト

一小説稗史ヲ閱覽シ又ハ無用ノ玩具ヲ弄スヘカラサルト

一就寢時間後ハ必ス燈火ヲ滅スヘシト雖モ若シ止ムヲ得サル事情アルトハ生徒取締ノ差圖ヲ受

クヘキト

一居室ハ生徒取締ノ定ムル所ニ從フヘキト

一金銀衣服等ヲ賃借スヘカラサルト

一舎内ニ於テ飲食スヘカラサルト

一小使部屋並ニ廁所ニ入り又ハ私ニ小使ヲ使役スヘカラサルト

一來訪者ニハ應接所ニ於テ面會スヘシ若シ病氣等ニテ應接所ニ出ル能ハサルトハ生徒取締ノ指

圖ヲ受クヘキト

一學校ノ器物ヲ毀損シ又ハ失亡スルトアラハ速ニ生徒取締ニ届出ツヘキト

一外出ノ際ハ必ス洋服又ハ袴ヲ着シ殊ニ容儀ヲ端クシ舉止ヲ慎ムヘキト

一病氣ニテ一課タリモ欠席シタル者ハ當日外出スヘカラサルト

但病氣ニヨリ醫師ノ差圖アル者ハ此限ニアラス

一凡テ外出ノ節ハ自ラ生徒取締室ニ至リ各自其名刺ヲ出シ歸舎ノ節ハ復之ヲ請フヘキト

一臨時ニ外出セント欲スル者ハ證人若シハ父兄等ヨリ其事由ヲ詳記シタル願書ヲ出シ生徒取締

ノ差圖ヲ受クヘキト

但自宅或ハ其近傍ノ出火若クハ父母ノ篤疾等ノ事變ニ際シ本文ノ手續ヲ經ルテ能ハサルト

ハ特ニ生徒取締ノ許可ヲ受ケテ外出シ證人若クハ父兄等ヨリ其實情ヲ證明シタル書面ヲ得

テ歸舎スヘシ

一外出中急病ニ罹ルカ又ハ已ムヲ得サル事故ニテ歸舎時限ニ後ル、事アルトハ證人ヨリ其事由

ヲ詳記シタル書面ヲ得テ歸舎スヘキト

一前兩款ノ場合ニ於テ歸舎スルテ能ハサルトハ證人ヨリ其事由ヲ詳記シテ即夜十時迄ニ届出ス

可シ万一其時限迄ニ届出ツルテ能ハサルトハ通グトモ翌日午前ニ届出ツヘキト

一病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニテ歸舎若クハ下宿セント欲スル者ハ身元保證人ヨリ其事由ヲ詳

記シ出願スヘシ其期日ハ三十日ヲ超ユヘカラサルト

但期滿チテ猶歸舎スルテ能ハサルトハ更ニ追願ヲ出スヘシ

一歸宅下宿外泊等ノ者歸舎ノ節ハ發途時間ヲ記入シタル保證人ノ證明書ヲ得テ生徒取締ニ届ケ

出ツヘキト

一病氣ニテ欠課スル者ハ課業時限前病氣届テ生徒取締ニ出スヘキト  
但十日以上ニ及フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

一病氣ニテ病院又ハ醫家ニ赴キ診察ヲ乞ハント欲スルハ生徒取締ニ届出ツヘキト  
第十二條 半學期內欠席九十日ニ及フハ通學規則第四條ニ據リ處分スヘシ

第九章 罰則

第一條 生徒ノ規則命令ニ違背スルモノハ輕重ヲ量リ之ヲ罰ス

但校物及ヒ貸與品等自己ノ過失ニヨリ汚損紛失スル場合ニ於テハ相當處分ノ上現品或ハ現價  
ヲ自償セシムルヲアルヘシ

第二條 罰科ハ誡諭拘止禁外出放校ノ四トス

第三條 誡諭ハ之ヲ訓誨譴責スルモノトシ拘止ハ課業後二時間以內謹慎室ニ留ムモノトシ禁外  
出ハ學校門外ニ出ツルヲ禁スルモノトシ放校ハ學校ヨリ放逐スル者トス其拘止ハ通學生徒ニ  
限リ之ヲ科シ其禁外出ハ寄宿生徒ニ限リ之ヲ科シ其放校ハ通學生徒寄宿生徒ノ別ナク之ヲ科ス  
但放校ノ場合ニ於テハ縣知事ノ認可ヲ經テ處分スヘキモノトス

第四條 凡ソ罰ニ處スルハ校長ノ面前ニ於テ生徒取締之カ申渡チナスヘシ

第五條 放校ノ處分ヲ受ケタル者ハ官公私立ノ學校ヘ入學ヲ禁止セラル、トアルヘシ  
但謹慎悔悟ノ實蹟アルハ入學ヲ許サル、トアルヘシ

第十章 圖書器具管理規則

第一條 圖書並ニ器具ハ校長之ヲ總管シ教員書記生徒取締之ヲ分管スルモノトス

第二條 新ニ購求シタル圖書並ニ器具ハ書記之ヲ其原簿ニ登記シ番號ヲ附シ校印ヲ捺シ校長ノ檢  
印ヲ受ケルモノトス

第三條 圖書ヲ分チテ教科用參考用ノ二種トシ其教科用ニ係ルモノハ其學科受持教員之ヲ分管シ  
其參考用ニ係ルモノハ書記之ヲ分管スルモノトス

第四條 教員書記其分管ノ圖書ヲ教員若クハ生徒ニ貸附スルハ借用証ヲ取リ置クモノトス

第五條 貸附ノ圖書ヲ返納シ來ルハ其圖書ヲ檢査シ汚損欠損等不都合ナキモノハ之ヲ受領シ借  
用證書ヲ返付スヘシ

第六條 器具ヲ分チテ教授用器具(理化器或博物標本)寄宿舎用器具(校員教員生徒取締  
徒使用スル物品)ノ三種トシ其教授用ニ係ルモノハ受持教員之ヲ分管シ寄宿舎用ニ係ルモノハ生  
徒取締之ヲ分管シ其庶務用ニ係ルモノハ書記之ヲ分管スルモノトス

第七條 教員生徒取締書記其分管スル器具ヲ職員若クハ生徒ニ貸附スルハ器具貸附簿ニ登記シ  
其使用者ニ捺印セシムルモノトス

第八條 貸附ノ器具ヲ返納シ來ルハ其器具ノ欠損等ヲ檢査シ不都合ナルハ貸附簿ニ朱線ヲ施  
シ返付ノ月日ヲ記入スヘシ

第九條 凡ソ器具ノ欠損ヲ生シタルハ之ヲ修理シ若クハ新調スヘシト雖モ其使用者不注意或ハ  
不適當ノ使用ニ出タル場合ニアリテハ其費用ヲ自償セシムルヲアルヘシ

第十條 各分管者ハ圖書並ニ器具貸附簿ヲ製シ之ヲ保管スルモノトス

第十一條 凡ソ圖書並ニ器具ハ毎年一回校長立會檢査スヘキモノトス  
但檢査ノ期ハ校長便宜定ムルモノトス

第十一章 銃器取扱規則

カノ部 學務



- 第一條 銃器掛リハ步兵操練ニ使用スル銃器一切ノ取締ヲナスヘシ
- 第二條 銃器ハ校舎ノ一室若シハ倉庫等一定ノ場所ニ取廻メ銃架ヲ設ケテ之ヲ整理シ掛員ニ於テ許可シタルモノニアラサレハ猥リニ出入セシムヘカラス
- 第三條 銃器ハ步兵操練用ノ外ニ使用スルヲ得ス
- 第四條 銃器ハ毎挺受持ノ生徒(一名若クハ數名)ヲ定メ豫メ其票號ヲ付シ演習ノ都度順次ニ之ヲ該生徒ニ交付スヘシ
- 第五條 銃器ノ掃除ハ前條受持生徒ヲシテ之ヲ擔任セシメ掛員ニ於テ之ヲ監査ス  
但銃器外裝ノ掃除ハ使用ノ都度外裝分解ノ掃除ハ月一回以上機板遊底分解ノ掃除ハ年一回又ハ二回トス
- 第六條 學校長ハ平素監督ノ外一回又ハ二回期日ヲ定メテ銃器ヲ檢査スヘシ此場合ニ於テモシ銃器ニ破損アルカ又ハ鏽蝕ヲ生シアルモノアルトキハ速ニ修理脱蝕ノ手續ヲナサシムヘシ
- 第七條 銃器若シ大破ノ爲メ地方ニ於テ修理スル能ハサルキハ其狀ヲ記シ縣廳ニ照會スヘシ
- 第八條 銃器掃除ノ方法分解結合ノ順序檢査ノ手續其他注意スヘキ要件等ハ渾テ步兵操典生兵ノ部第二章第一款(自第百五十二條至第百五十九條)ヲ適用スヘシ
- 第九條 銃器ハ左式ノ番號帳ヲ製シテ之ヲ保存スヘシ

(書式)

銃器番號調

銃	名	銃	番	號	切	番	號
---	---	---	---	---	---	---	---

何	銃	號	何	號	何	號
何	銃	號	何	號	何	號
何	銃	號	何	號	何	號
何	銃	號	何	號	何	號
合	計	何	挺	何	挺	號

外ニ胴亂並ニ負革共何個添

第十二章 食堂心得

第一條 食柝ヲ聚メハ順序ニ就キ順序ヲ亂ルヘカラス

第二條 食事中談話及ヒ雜沓スヘカラス

第三條 食事時間ハ三十分ヲ過クヘカラス

第十三章 浴室心得

第一條 入浴時間ハ時々之ヲ揭示スル者トス期ヲ過クル者ハ入浴スルヲ得ス

第二條 裸体ニテ室外ニ出ツヘカラス

○訓令第三百三十六號

長野縣尋常中學校

其校教科用圖書別表ノ通假定ス

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十年三月十六日

カノ部 學務

教科用圖書表

修身之部		圖書名	卷冊記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名
國語及漢文之部	改勸善訓蒙	前後編十二冊	明治十四年十二月	箕作麟祥	東京本町二丁目十番地 柳河梅次郎	
	幼學綱要	一至七 七冊	明治十五年十二月	宮内省		
	西國立志篇	合本全一冊	明治九年十月	中村正直	東京小石川江戸川町 木平愛三	
讀書	小學讀本	一至三 三冊	明治十六年九月	内田嘉一纂述	東京日本橋區本町三丁目 原亮三郎	
	初學文範	一至三 三冊	明治十年一月	岡松麴谷	東京有樂町二丁目二番地 岡松麴谷	
	日本外史	一至廿二 二十二冊		頼蕪選		
	正文章軌範讀本	一二三三 三冊		謝枋得選		
	唐宋八大家文	一至十六 十六冊		沈德潛編次		

英語之部		圖書名	卷冊記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名
ウエブストル	綴字書	一冊			米人 ウエブストル	
	ニコーナショナル	一至五 五冊			米人 ハーンス氏	
スウイントン	本	一至五 五冊			米人 スウイントン	
作文用書 未定						
春秋左氏傳	一至卅 三十冊					
大商業史	十七冊	明治十二年十月		田口卯吉	元老院	
古商業史	一冊	明治十六年三月		金谷昭禪	東京橋區本町七番地 東京經濟雜誌社	
商業沿革史	十冊			河上謹一	文部省	

サングー	第四	一冊		米	サンダー	
ローヤル	第六	一冊		英	ネルソン	
マツコレーレ氏		一冊		英	マツコレーレ	
マツコレーレ氏		一冊		英	マツコレーレ	
ワレンハスティング氏		一冊		英	マツコレーレ	
スマイル		一冊		英	スマイル	
自 助 論		一冊		米	アラウン	
小 文 典		一冊		米	スウイントン	
スウイントン		一冊		米	スウイントン	
作 文 書		一冊		米	スウイントン	
スウイントン		二冊		米	スウイントン	
英米八家集		一冊		米	スウイントン	
クエツケンボス		一冊		米	クエツケンボス	
修 辭 書		一冊		英	クエツケンボス	
ブリングリー		三冊		英	クエツケンボス	
會 話 書		三冊		英	クエツケンボス	
アツプレトン	第五	一冊	千八百八十五年	米	クエツケンボス	
讀 本				米	クエツケンボス	
獨 語 之 部 未 定				米	クエツケンボス	

農業之部	農理學初歩	一冊		久原躬岐	文 部 省	
	農用家畜論	一冊		大内健	文 部 省	
	モルトン氏 作物論	一冊		モルトン氏		
	トーマス 菓樹栽培書	一冊		トーマス氏		
	ヘンデルソン氏 園藝書	一冊		ヘンデルソン氏		
	シヨンストン 農業化學	二冊		片山平	文 部 省	
	シヨンストン 植物生育論	一冊		片山平	文 部 省	
地理之部	日本地誌要略	一至六	六冊	明治十年六月	大槻修二編	東京淺草北富坂町卅四番地
	萬國地誌要略	一至七	七冊	明治十二年五月	片山淳吉	東京馬喰町二丁目一番地

輿地誌略	一至三	三冊	明治三年	內田正雄纂	大學南校
全	四至六	三冊	明治四年	全	文部省
全	七	一冊	明治六年	全	文部省
全	八九	二冊	明治八年	全	東京神田雄子町卅一 番地內田正義
全	十	一冊	明治十年二月	內田正義	內田正義
全	十一上	二冊	明治十年二月	西村茂樹編纂	內田正義
日本暗射圖	付號 解添	一軸	明治十年四月	飯島半十郎解	文部省
日本全圖		二軸	明治十年九月	宮本三平製	內務省 地理局出版
地球暗射圖	付號 解添		明治九年四月	久保讓治編	文部省
グーキー地文學				米人 グーキー氏著	
ギョー地文學				米人 ギョー氏著	
地文新論	附圖 一二	二冊	明治十七年八月	西村貞輝金	港堂

日本地誌提要	一	一冊	明治七年十二月	地誌課編纂	東京尾張町一丁目 報社
全	二	一冊	明治七年十二月	全	全
全	三	一冊	明治七年十二月	全	全
全	四	一冊	明治十年四月	全	全
全	五	一冊	明治十一年一月	全	全
全	六	一冊	明治十一年十月	全	全
全	七	一冊	明治十二年四月	全	全
全	八	一冊	明治十二年十二月	全	全
萬國地圖		五軸		シヨンストン氏	
歴史之部					
國史接	一至二	二冊		木村正辭編輯	
國史纂要	一至十三十三	三冊		星野恒編纂	東京日本橋區馬喰町二丁目 五番地島村利助

萬國史略	一至十一冊	明治八年十月	西村茂樹編	東京芝罘區築地一丁目一番地 西村茂樹
十八史略	一至七冊		曾先之編	
續十八史畧	一至五冊	明治九年八月	宮脇通赫編次	東京芝罘區三島町十五番地 山中市兵衛
萬國史	一至二冊		タイロル氏著	
算術之部				
算術教科書	全	明治十七年二月	田中矢德譯	東京芝罘區新錢坐町十番地 近藤眞琴
商業算術書		明治十九年	森島修太郎譯	文部省
代數之部				
代數教科書	二冊	明治十五年一月 全 十五年六月	田中矢德編	東京芝罘區新錢坐町十番地 近藤眞琴
幾何之部				
幾何教科書	三冊	明治十五年十月 明治十五年十月	田中矢德編	東京芝罘區新錢坐町十番地 近藤眞琴

三角法之部				
平三角教科書	一冊	明治十六年二月	田中矢德譯	東京芝罘區新錢坐町十番地 近藤眞琴
ロビンソン三角書	一冊		ロビンソン著	
對數表	一冊		チャーンプラー著	
博物之部				
科學入門	一冊		英人ハッセルレイ氏原著 普及合譯	
動物通解	二冊	明治十八年六月		文部省
植物通解	一冊	明治十六年二月	矢田部良吉譯	文部省
普通植物學	一冊	明治十四年九月	丹波敬三同譯	丹波敬三
金石學	一冊	明治九年十一月	和田維四郎譯	博物館
カッター生理養生論	一冊	明治十八年二月	小林義直譯	
傳染病豫防心得	一冊	明治十三年	中金正衡演解	東京芝罘區三田四丁目廿六番地 飯田平作

カノ部 學務

四百六十九

動物一覽	附心臟圖	一軸	明治十年	今田東暉	東京神田區淡路町三丁目七番地 今田東
神經一覽		一軸	明治十年	全	全
動物圖	全	五面	明治九年一月	田中芳男著	文部省
植物圖		五面	明治九年一月	小野職慈撰	文部省
動物圖	シヨNSTON氏			著	
植物圖				著	
金石圖				著	
物理日記	初篇三冊 二篇三冊	六冊	明治七年五月		文部省
物理學	上中下	三冊	明治十七年一月	飯盛挺造	丹波敬三
小物理學	スチユワー イア			英人スチユワー イア氏	
化學之部					
中學化學書	初篇 中篇	三冊	明治十六年二月 明治十六年九月	磯野徳三郎編	東京日本橋區古川町六番地 鹽島一介

四百七十

習字之部	用書未定				
圖書之部					
臨書帖	一至四	四冊	明治十七年十月一日	窪田洋平編輯	
用器書法	圖式共	六冊	明治十五年十一月	平瀬作五郎譯	東京芝區三田四國町三番地 中島傳一
學校用々器書法	幾何書 法之部	一冊	明治十五年九月	西敬著	大城北久寶寺町四丁目廿九番地 前川源七郎
全	透視書 法ノ部	一冊	明治十五年九月	全	全
全	圖式ノ部	二八	明治十五年九月	全	全
簿記之部					

カノ部 學務

四百七十一

商用簿記學	一冊	明治十五年六月	竹田等著	東京桃町三番町廿四番地
簿記例題	一冊	明治十六年六月	森島修太郎著	東京深川安六町六番地
銀行簿記例題	二冊	明治十六年五月	大藏省銀行課編	東京牛込市谷中區三番地
簿記原論	一冊	明治十七年二月	竹田等譯	東京桃町三番町廿四番地
商品之部				
經濟之部				
寶氏經濟學	五冊	明治十年九月	永田健助譯	東京牛込揚場町十八番地
商業經濟學	五冊	明治十七年三月	永田健助譯	全
餘探之部				
新撰休操書	全	明治十七年十月		東京日本橋本町三丁目

新撰休操法	全	一冊	明治十六年十二月	全
休操效範	柔軟之部	一冊	明治十七年四月	陸軍省
步兵操典	生兵ノ部	一冊	明治十五年四月	全
	中隊ノ部	二冊		

一 倫理ハ勸善訓蒙ニ因リテ其理ヲ講シ幼學綱要西國立志篇ニ據リテ其の例ヲ授ク

一 漢文ノ部唐宋八大家文ハ名文ヲ摘シテ教授ス

一 農業教科書ハ適當ノ譯書ヲキチ以テ當分耕種ハモルトンノ作物論ニ據リ菓樹栽培ハ米人トーマス氏ノ菓樹栽培書ニ據リ園藝ハヘンデルソン氏ノ園藝書ニヨリ之ヲ口授ス

一 地理ノ部第四年級日本地文及政治地理ハ適當ノ用書ヲキチ以テ外國ノ地文學ノ体裁ニ基キ地文新論日本地誌提要等ニヨリ其要領ヲ口授ス

一 歴史ノ部日本歴史ハ第一年級ニ於テハ國史按國史纂要ニ據リ沿革等ノ大略ヲ授ケ第四年級ニ於テハ國史纂要ニ據リ更ニ精密ニ其要領ヲ授ケ

一 數學ノ部幾何ハ第一年級ニ於テハ幾何教科書ニ據リ定義公理直線及直線形等平面幾何ノ概略ヲ授ケ第五年級平三角法ハ平三角教科書ニ據リ弧三角ハロヒンソン氏三角書ニ據リテ教授ス

一 博物ノ部第一年級博物示教ハ相當ノ用書ヲキチ以テ科學入門ヲ基トシ動物通解植物通解並ニ金石學等ヲ斟酌シ博物學ノ概畧ヲ授ケ又生理ノ部傳染病豫防方心得書演解ハ第二百二十七條四行目限製ノ項ヲ省キテ口授ス又植物ノ部植物通解ハ分類ノ部ヲ欠ケリ故ニ普通植物學中分類ノ部ヲ以テ之ヲ補フ

廿一年四月  
廿七日告示  
第三十五號  
ノ分

一物理ノ部第二級物理示教ハ物理日記ヲ基トシヌチユーアト氏小物理學等ヲ斟酌シテ其概畧ヲ口授ス

一化學ノ部第二級化學示教ハ中學化學書ニ據リ其概略ヲ口授ス

一商業算術ハフライアントストラットン氏合著森島修太郎譯ノ商業算術書ニヨルト唯此該譯書ハ現時全出版ニナラサルヲ以テ當分原書ニテ教授ス

一商品ハ實物ニ就テ之ヲ授ク故ニ可成現品ヲ集メ之ヲ保存シテ教授上ニ供ス可シ

一体操科用書中步兵操典中隊ノ部第一章迄ヲ授クルモノトス

一各級配當表左ノ如シ

學科課程表

級	科目	時間	備考
第一外國語	第一外國語	六	前及譯解
	國語及漢文	五	漢字交リ文及書
倫理	倫理	一	善入倫ノ大道
	倫理	一	同上
第二外國語	第二外國語	六	前及譯解
	國語及漢文	五	漢字交リ文及書
第一級	第一級	五	前級ニ同シ
	第一級	五	前級ニ同シ
第二級	第二級	五	前級ニ同シ
	第二級	五	前級ニ同シ
第三級	第三級	五	前級ニ同シ
	第三級	五	前級ニ同シ
第四級	第四級	五	前級ニ同シ
	第四級	五	前級ニ同シ
第五級	第五級	五	前級ニ同シ
	第五級	五	前級ニ同シ

級	科目	時間	備考
第一外國語	第一外國語	六	前及譯解
	國語及漢文	五	漢字交リ文及書
倫理	倫理	一	善入倫ノ大道
	倫理	一	同上
第二外國語	第二外國語	六	前及譯解
	國語及漢文	五	漢字交リ文及書
第一級	第一級	五	前級ニ同シ
	第一級	五	前級ニ同シ
第二級	第二級	五	前級ニ同シ
	第二級	五	前級ニ同シ
第三級	第三級	五	前級ニ同シ
	第三級	五	前級ニ同シ
第四級	第四級	五	前級ニ同シ
	第四級	五	前級ニ同シ
第五級	第五級	五	前級ニ同シ
	第五級	五	前級ニ同シ

カノ部 學務



計	體操	唱歌	商業	圖畫
二八	三 砲 砲 正 術 手 鈴	二		二 臨 畫
二八	三 木 球 砲 環 竿 鈴	二		二 同 上
二八	三 棍 豆 木 棒 砲 環			二 幾何 影畫 法
二八	五 步兵操典生兵第 一部第一及第二 發徒手操體操		四 簿 記	二 照鏡 畫法
二八	五 步兵操典生兵第 二部第一及第二 其復習		三 南商 法大 意	一 寫 生

○訓令第四百十四號

其校兵式休操用銃器及ヒ火藥取扱細則別紙ノ通相定メ候條自今右ニ據リ嚴密ノ取締ヲナスヘシ  
 明治二十年十二月十二日  
 長野縣知事 木梨精一郎

兵式休操用銃器火藥取扱細則

長野縣尋常師範學校  
 長野縣尋常中學校

- 第一條 兵式休操用銃器及ヒ火藥ハ正科用ノ外一切使用セシメサルハ勿論豫メ失火賊難等ニ注意シ休操教員若クハ宿直員嚴密ニ之レカ取締ヲナスヘキモノトス
- 第二條 銃器ノ保存ハ倉庫若クハ校内堅固ナル場所ニ銃器室ヲ設ケ其出納ハ休操教員之レニ任シ決シテ他人ヲシテ取扱ハシメサルモノトス
- 第三條 火災或ハ非常ノ事變ニ際シテハ燒失若クハ賊難ニ罹ラサル様臨機銃器ノ處置ヲナスヘキモノトス
- 第四條 火藥ヲ購求セントスルトキハ火藥取締規則ニ據リ所在警察署ニ照會シ其證ヲ受ケ而シテ該賣捌人ヨリ購求スヘキモノトス
- 第五條 火藥ハ使用スヘキ日ノ前日ニ於テ購求シ其量數ハ使用ノ當日悉ク支消シ可成殘餘ヲ生セシメサル様注意スヘキモノトス
- 第六條 火藥ノ保存ハ堅固ナル函ニ入レ倉庫若クハ火氣ニ遠隔セシ書籍庫等ニ入レ置キ其出納ハ休操教員之レニ任シ決シテ他人ヲシテ取扱ハシメサルモノトス
- 第七條 火災或ハ非常ノ事變ニ際シテハ保管者ニ於テ臨機火藥ノ處置ヲナスヘキモノトス但本文ノ場合ニ在テハ他日火藥ノ用ニ供スルヲ得サル等ノ處置ニ出ツルモ妨ケナキモノトス

○訓令第三百十九號

其校生徒修學旅行ノ際職員ニ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ自今日當金三十錢ヲ支給スヘシ  
 明治二十一年十二月十九日  
 長野縣知事 木梨精一郎

長野縣尋常師範學校  
 長野縣知事 木梨精一郎

○長野縣訓令第九十號

長野縣尋常師範學校

其校附屬小學校内ニ幼稚園ヲ置キ規則別冊ノ通相定ム

長野縣知事 内海忠勝

明治二十三年六月十四日

長野縣尋常師範學校附屬小學校幼稚園規則

- 第一條 本園ハ尋常師範學校女生徒ヲシテ幼兒保育ノ方法ヲ實地ニ練習セシムル所トス
- 第二條 幼兒ノ員數ハ大凡百名トス
- 第三條 幼兒ノ年齡ハ大約三年以上六年以下トス
- 第四條 幼兒ハ年齡ニヨリ分テ三組トス
- 第五條 休業日ハ附屬小學校ニ同シ
- 第六條 保育ノ課目左ノ如シ(表中數字ハ每週ノナリ)

課目	三之組	二之組	一之組
修身ノ話	二	二	三
庶物ノ話	三	二	二
積ミ方	三	三	三
板排ヘ	二	二	一

箸排ヘ	一	一	一	六	六
環排ヘ	一	一	一	一	一
畫キ方	二	一	一	一	一
紫キ方	二	一	一	一	一
縫取	一	一	一	一	一
紙剪	一	一	一	一	一
紙織	一	一	一	一	一
紙組	一	一	一	一	一
紙摺ミ	一	一	一	一	一
豆細工	一	一	一	一	一
數方	一	一	一	一	一
會集	六	六	六	六	六
唱歌	六	六	六	六	六

遊	一	一	一
遊	一	一	一
計	四〇	四五	四五

第七條 保育ノ時間ハ各課大約二十分トス  
 第八條 毎週保育ノ時數ハ一ノ組及ヒ二ノ組ハ十五時三ノ組ハ十三時二十分トシ一日時數ハ一ノ組及ヒ二ノ組ハ二時四十分三ノ組ハ二時二十分トス

但土曜日及ヒ夏冬休業前後各二週間ハ各組トモ一時四十分トシ起業時間ハ日ノ長短ニヨリ八時乃至九時三十分トス

第九條 保育ノ要旨左ノ如シ

幼稚園ハ學齡未滿ノ幼兒ヲ保育シ以テ家庭ノ教育ヲ補ヒ學校教育ノ階梯ヲ得セシムル所ナレハ幼兒ノ稟性ヲ傷ハス適宜ノ方法ニヨリ優遊和樂ノ際自ラ心身ノ發育ヲ助成スルヲ要ス  
 修身ノ話 近易ノ實例並ニ幼兒ニ適切ナル簡易ノ美談ヲ說話シ快樂中自ラ善良ノ性質習慣ヲ養ヒ兼テ日常ノ作法ヲ教フヘシ  
 庶物ノ話 幼兒ノ理解シ易キ實物或ハ圖書模型等ニヨリ事物ノ觀念ヲ得セシメ以テ觀察注意ノ良習ヲ養ヒ兼テ應答ニヨリ言語ヲ習ハシムヘシ  
 積ミ方 木片ヲ與ヘテ種々ノ形体ヲ積マシメ以テ構造ノ力ヲ養フヘシ  
 板排ヘ 彩色セル薄キ小板ヲ與ヘ種々ノ形ヲ排ヘシメ以テ審美ノ心ヲ養フヘシ  
 箸排ヘ 細キ箸ヲ與ヘ種々ノ輪廓ヲ摸シ以テ工夫ノ力ヲ養フヲ主トシ兼テ長短ノ觀念ヲ得セシムヘシ

環排ヘ 鐵或ハ真鍮ノ全環及ヒ半環ヲ與ヘ時々又箸ヲ交ヘ種々ノ形ヲ摸セシムヘシ

其目的略々箸排ヘニ同シ

畫キ方 野アル石盤上ニ縱横線ヲ以テ單形ヲ畫キ運筆ニ慣レシメ以テ圖書ノ基礎ヲ得セシムヘシ

繋キ方 彩色セル葉切ト孔ヲ穿テヨル色紙ノ切トヲ與ヘ糸ニテ之ヲ繋カシメ以テ手指ヲ練習セシムヘシ

縫取 白紙ニ孔ヲ刺シ穿テヨル紋形花草等ノ形ヲ色糸ニテ縫取ラシメ以テ運針ノ階梯ヲ得セシムヘシ

紙剪 色紙ヲ與ヘテ方形三角形等ニ剪斷シ之ヲ白紙ノ臺紙ニ貼付シ種々ノ形ヲ造ラシメ或ハ種々ノ紋形ヲ剪リ抜カシメ以テ工夫ノ力ヲ養ヒ兼テ剪刀ノ用法ヲ知ラシムヘシ

紙組 細ク裁リタル色紙ヲ經緯トナシ種々ノ模様ヲ編マシメ以テ色ノ配合ヲ知ラシムヘシ

紙摺ミ 色紙ヲ與ヘテ種々ノ形ヲ摺マシメ想像ノ力ヲ養フヘシ

豆細工 細ク削リタル竹及ヒ水ニ浸シタル豆ヲ與ヘテ接合セシメ以テ模造ノ力ヲ養フヘシ

數ヘ方 專ラ實物ニヨリ數ノ觀念ヲ起サシメ計算ノ初歩ヲ知ラシムヘシ

會集 科中ノ幼兒ヲ一室ニ集メ唱歌ヲ復習セシメ優美ノ性ヲ養成シ交誼ノ情ヲ助長シ且作法等ニ就キ時々訓誨ヲ加フヘシ

遊嬉 幼兒ニ適スルモノヲ撰ヒテ之ヲ爲サシメ以テ身体ヲ健康ニシ精神ヲ爽快ナラシムヘシ  
第十條 幼兒入園ノ期ハ豫メ廣告スヘシ  
但欠員アルトキハ臨時入園ヲ許スコトアルヘシ  
第十一條 入園ヲ望ムモノハ左式ノ書面ヲ以テ申出ツヘシ

入園願

族籍

何誰子女等

氏

名

年月日生

宿所何町村ノ内何々

右ノ者今般御校幼稚園へ入園致サセ度此段相願候也

右父兄或ハ何々

保證人

氏

名印

年月日

長野縣尋常師範學校

附屬小學校御中

第十二條 幼兒ノ學齡ニ達シ或ハ疾病事故アリテ退園セシメント欲スルトキハ保證人ヨリ其旨ヲ  
當校へ申出ツヘシ  
第十三條 疾病事故アリテ欠席スルコト一週ニ超ユルトキハ保證人ヨリ其旨當校へ届出ツヘ  
シ  
但無届欠席數月ニ涉ルトキハ退園ノ取扱チナスコトアルヘシ

第十四條 保育料ハ一月金二十五錢トス  
第十五條 保育料ハ出席ノ有無ニ拘ハラス月割ヲ以テ月額ヲ徵收スヘシ  
但當園ニ於テ休業スルコト全月ニ涉ルトキハ之ヲ徵收ヒス  
第十六條 疾病事故等ニテ欠席ニヶ月以上ニ涉ルモノ、保育料ハ二月目ヨリ徵收セス

○長野縣訓令第百八十四號

公立學校

今般教育ニ關シ

勅語ヲ下シタマヒタルニ付其謄本及ヒ文部大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク

聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ  
明治二十三年十二月廿六日

長野縣知事 内海忠勝

○長野縣訓令第百五十三號

郡 役 所  
町 村 役 場

學校へ下賜セラレタル  
天皇陛下  
皇后陛下ノ 御影並教育ニ關シ下シタマヒタル 勅語ノ謄本ハ校内一定ノ場所ヲ撰ヒ最モ尊重ニ  
奉置セシムヘシ  
明治二十四年十二月九日  
長野縣知事 淺田徳則

カノ部 學務

○長野縣訓令第九號

郡 役 所  
町 村 役 場

學校ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル儀ニ付テハ明治十五年一月十七日番外ヲ以テ相違シ置候通  
ニシテ政談演說會等ニモ假用ス可ラサルハ勿論ノ儀ニ付尙取締方注意スヘシ

明治二十五年一月廿七日

長野縣知事 淺田徳則

○長野縣訓令第十二號

郡 役 所

明治二十三年十月勅令第二百五十五號小學校令(第五十一條ヲ除ク)ニ依リ許可若クハ指揮ヲ受ケント  
スルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

明治二十五年二月三日

長野縣知事 淺田徳則

第一條 小學校令第二十六條第二項第二十九條第三十條第四項第三十二條第四十五條第三項第四  
十六條第二項第四十七條第二項ニ關スル稟申ハ其事由ヲ詳記シ甲號表乙號表(別記様式)及關係  
町村小學校組合若クハ區又ハ郡參事會ノ意見書ヲ添付スヘシ

第二條 小學校令第三十一條第一項第二項第三十四條第二項第三十七條第二項ニ關スル稟申ハ其  
事由ヲ詳記シ甲號表乙號表(別記様式)ヲ添付スヘシ

(甲號)

町村戶數人口實力表

町村名	戶數	人口	學齡兒童數	地價	諸稅	基本財產

一本表ハ乙號表ト符合ヲ要スルモノナルヲ以テ學校設置區域毎ニ欄ヲ設ケヘシ  
 一諸稅ハ地租及地租割ヲ除キ其他ノ國稅地方稅ニ係ルモノヲ合記スヘシ  
 一町村學校組合ハ一町村毎ニ判明シ得ラルヘキ様適宜内譯ニ記載スヘシ  
 一戶數人口學齡兒童ノ數及地價ハ最近ノ調査ニ據リ諸稅ハ前年度ノ總額ヲ掲ケヘシ  
 但金圓ハ單位ニ止ム

(乙號)

町村立尋常(高等)小學校表

設置區域 町村名	教科 修業年限	學校位置字	全上へ最 遠距離	分教場ノ數 及位置字	生徒概數

一設置區域内ニ數校アルトハ欄内ヲ區分シ一校毎ニ記入スヘシ  
 一他へ委託スル箇所又他ヨリ委託ヲ受クル箇所アルトハ欄内ヲ區分シテ朱書ヲ以テ填記シ双方

カノ部 學務

符合ヲ付スヘシ  
一區ニ分當スルト及町村學校組合ニシテ一町村限リ學校ヲ設置スルトモ前項ニ同シ

○長野縣訓令第十三號

郡 役 所  
町 村 役 場

町村立小學校設置ニ關スル報告ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

長野縣知事 淺田德則

明治二十五年二月五日

町村立小學校設置ニ關スル報告規定

第一條 町村立小學校ノ設置ハ開校ノ日ヨリ七日以内ニ町村長ニ於テ左ノ事項ヲ記載シ郡長ヲ經由シテ縣知事ニ報告スヘシ

- 一 名稱 何々小學校(町村名地名ニ依ル)
- 二 位置 何那何町村字何々番地
- 三 教科 尋常科又ハ高等科
- 四 修業年限 何ヶ年
- 五 生徒概數 何々男女
- 六 單級多級ノ別 (多級ハ學級數ヲ記スヘシ)
- 七 經費豫算 各費目ノ別ヲ内譯ニスヘシ
- 八 校地 (開校後所有及ハハ借地ノ別ヲ記載スヘシ)

九 校舍 (方位、形状、坪數、教室ノ數、教員室、等々詳細ノ狀況ヲ詳記シ)

十 校長教員住宅 方位坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條 町村及町村學校組合内ニ數校ノ設ケアルトキハ各校毎ニ又分教場ヲ設クルモノハ各分教場毎ニ前條ノ事項(各校經費ヲ異ニスルモ)ヲ列記スヘシ

第三條 報告ノ後其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度前各條項ニ準シ報告スヘシ

○長野縣訓令第十四號

郡 役 所  
町 村 役 場

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十一條第二項ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トナ一校ニ併セ置クトキ及第三十六條第三十七條ニ依リ町村若クハ町村學校組合ニ於テ高等小學校設置ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ郡長ヲ經由シテ稟請スヘシ

長野縣知事 淺田德則

明治二十五年二月五日

一 學校位置

尋常小學校ニ併置スルモノハ其校名

一 校舍坪數

各室ノ坪數ヲ明記セル平面圖ヲ添付スヘシ其尋常小學校ニ併置スルモノハ高等科ヲ置クヘキ部分ヲ朱線ニテ區別スヘシ

一 生徒概數

カノ部 學務

一學級數  
一修業年限  
一經費豫算

各費目ノ別ヲ内譯ニスヘシ但併置ノトキハ更ニ經費總額中ニ就キ高等科ノ爲メニ増加スヘキ金額ヲ概算シテ區分スヘシ

一町村若クハ町村學校組合ノ戶數

組合ノ分ハ各町村ヲ内譯ニ記スヘシ以下各項同シ

一同土地價

一同上學齡人員<sup>男</sup>

一同上尋常小學校生徒數<sup>女</sup>

○長野縣訓令第十五號

本年四月一日以後小學校舎ヲ新築又ハ増築セントスルトキハ町村立學校ハ町村長ニ於テ私立學校ハ設立者ニ於テ該圖面並校地ノ摸樣等ヲ詳記シ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

但明治二十一年ニ訓令第三十七號ハ本令實施ノ日ヨリ廢止ス

明治二十五年二月五日

長野縣知事 淺田徳則

郡 役 所  
町村 役 場

○長野縣訓令第十八號

今般小學校令施行期限相定メ候處現在ノ小學校長及訓導ハ該學校ノ存續中ハ從來ノ儘勤續スヘキ義ト心得ヘシ

明治二十五年二月五日

長野縣知事 淺田徳則

郡 役 所  
町村 役 場

○長野縣訓令第十九號

町村立小學校教員恩給基金收納規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十五年二月九日

長野縣知事 淺田徳則

町村立小學校教員恩給基金收納規則

第一條 町村立小學校教員恩給料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ町村ヨリ納ムヘキ金員ハ毎月正教員ヨリ納付シタル實收額ニ據ルヘシ

第二條 町村立小學校教員恩給料及遺族扶助料法第十四條第三項ニ依リ町村立小學校正教員ヨリ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノ時町村收入役ニ於テ之ヲ引去ルヘシ

カノ部 學務

廿五年七月  
三十日  
第百十五號  
ヲ以テ檢  
マテテ檢  
其月二十  
マテトア  
日ト收ム

第三條 第一條第二條ノ金員ハ左ノ四期ニ區分シ每期翌月十五日マテニ納付スヘキモノトス  
 第一期 四月 五月  
 第二期 六月 七月 八月  
 第三期 九月 十月 十一月  
 第四期 十二月 一月 二月  
 第四條 郡長ハ第一條第二條ノ金額ヲ測定シ納期十日以前第一號書式ノ納入合書ヲ町村長ニ發ス  
 第五條 町村長ハ前條ノ納入合書ヲ受ケタルトキハ之ニ現金ヲ添ヘ縣稅爲換方ヘ納付シ縣稅爲換方ヨリ得タル領收證ニ第二號書式ノ仕譯書ヲ添ヘ郡出納吏ニ送付スヘシ  
 第六條 郡出納吏前條ノ納付ヲ受ケタルトキハ縣稅爲換方ノ發シタル領收證ヲ檢シ之ニ捺印シテ別符ヲ切離シ領收證ヲ町村長ニ交付スヘシ  
 第七條 郡出納吏ハ町村長ノ仕譯書ヲ取纏メ第三號書式ノ報告書ヲ製シ縣稅爲換方收入對照表ヲ添ヘ收支命令將ノ檢印ヲ得テ翌月五日マテニ報告スヘシ  
 第八條 町村長及郡出納吏ハ第四號書式ノ帳簿ヲ製シ前各條ノ金圓收支ヲ登記スヘシ  
 第九條 町村長ハ既收金ニ對シ誤納アルコトヲ發見シタルトキハ後期納金ノ内ヨリ差引其金額及事由ヲ詳記シ郡長ヲ經由シテ縣知事ニ報告スヘシ  
 第一號書式  
 納入合書

用紙適官 縦五寸五分 横四寸四分 寸ノモノ三枚接綴  
 括弧内動字

第「何」號	「何」期年	「何」郡	「何」町村長	「何」某	納
出納吏官氏名	「何」郡	「何」町村長	「何」某	「官	「名」
町村立小學校教員恩給基金	「何」郡	「何」町村長	「何」某	「官	「名」

一金「何」程

取扱  
主任印

但正教員及町村納ノ分

右「何」年「何」月「何」日限リ「何地」縣稅爲換方ヘ納入スヘシ  
 明治何年「何」月「何」日 「納入合書發行者官氏名」印

元帳  
劃印

縣稅爲換方印

甲第「何」號 「何」期年 「何」郡 「何」町村長 「何」某 納

出納吏官氏名 町村立小學校教員恩給基金 「官」 「名」



<p>但正教員及町村納ノ分</p> <p>右正ニ領收候也</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>縣稅爲 換方印</p> <p>出納吏 檢出納吏印</p> <p>「出納吏官氏名 印」</p>		<p>乙第「何」號</p> <p>「何」年 分度</p> <p>「何」郡「何」町村長「何某」納</p>	<p>出納吏官氏名 振</p> <p>町村立小學校教員恩給 基金</p> <p>「官 衛 名」</p>
<p>一金「何程」</p> <p>縣稅爲 換方印</p>		<p>但正教員及町村納ノ分</p> <p>一金「何程」</p> <p>縣稅爲 換方印</p>	
<p>明治何年何月何日何地「何地」縣稅爲換方へ納付</p> <p>出納吏 檢出納吏印</p>			

第二號書式

明治何年第何期分何月ヨリマテ町村立小學校教員恩給基金納入仕譯書

一金何程 正教員俸給百分一ニ當ル金額何町村納入ノ分

一金何程 全 教員各自ヨリ納入ノ分

内

金何程 何學校訓導何某納

俱月俸何程

金何程 何學校訓導何某納

但月俸何程ノ處何々(任免病領引等ニテ係給額ニ異動)

合金何程 但月俸何程ノ處何々(ヲ生シケルハ其旨記スヘシ)

右之通納入仕候也

第三號書式

長野縣氏名宛

町村長 氏 名 印

年 月 日

第三號書式

小學校教員恩給基金收入報告書

檢郡印長

但郡内何小學校外幾校教員恩給基金

右調査候處相違無之仕譯書相添此段報告候也

明治何年第何期分

カノ部  
學務

年月日	摘要	調定済額			収入済額			収入未済額		
		圓	錢	匁	圓	錢	匁	圓	錢	匁
何何	何期分納入令書發布	5	00	0				5	00	0
何	領收証第何號ヨリ第何號迄				4	00	0	1	00	0
何	領收証第何號				1	00	0	0		

備考  
本簿ハ統括及各町村別ニ區分スルモノトス

四百九十五

年月日  
本廳出納吏  
長野縣官氏名宛

出納吏  
何郡書記 氏 名 印

四百九十四

カノ部 學務

四百九十七

四號乙

何年度  
恩給基金收入簿

何  
何郡  
何町村役場

四號甲

何年度

恩給基金收入簿

何郡役所

四百九十六



○長野縣訓令第二十號

郡 役 所  
町 村 役 場

今般縣令第十號ヲ以テ小學校設備規則相定候處右ハ大綱ヲ規定セルモノニテ其細目ノ如キハ土地ノ情況ニ應ジ適宜施設セシムル旨意ニ有之其設備固ヨリ完全ヲ望ムト雖トモ亦宜シク町村經濟ノ狀ヲ考ヘ別冊小學校設備心得ヲ酌酌シ適當ノ施設ヲ爲スヘシ

明治二十五年二月十日

長野縣知事 淺田德則

小學校設備心得

第一條 校地ハ日當リ好ク且成ルヘク開豁乾燥ナル土地ヲ擇フヘシ

校地ハ喧鬧ニシテ授業ニ妨ケアル場所、危險ナル場所、風俗ニ害アル場所、停滯セル池水其他凡テ惡臭アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所ニ接近セス且周圍ニ樹木ヲ植ウルヲ可トス

第二條 校舍ニハ

天皇陛下及

皇后陛下ノ御影(御影拜殿)並教育ニ關スル勅語ノ謄本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヘシ

前項ノ場所ハ講堂ノ正面ニ一室ヲ設クルカ若クハ校舍中適當ノ所ヲ擇ヒ清淨ナル櫃等ニ納メテ奉置スヘシ

第三條 校舍ハ平屋造ナルヲ可トス若シ二階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ置クヘシ

校舍ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リ將來ノ増築ニ便宜ナル計畫ヲ爲

シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クヘシ  
校舍ノ方位ハ可成東南若クハ南方ニ面シ且通風採光等ニ注意スヘシ

第四條 各教室ハ多級ノ學校ニ在リテハ長方形單級ノ學校ニ在リテハ正方形ナルヲ可ナリトス其大サハ其内ニ入ルヘキ机並腰掛ノ數大サ及排置方ニ應ジテ之ヲ定メ教師臺及黑板等ヲ据付クヘキ餘地ヲ除キ生徒四人ニ付凡ソ一坪ヨリ小ナラサルヲ可トス

各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生徒ヲ容ルヘヨリ大ナラサルヲ可トス  
教室ノ大小ハ學級ノ編制ニヨリ變更ヲ要スルコトアルヘキモノナレハ學校ニ依リテハ取外シ得ラルヘキ仕切ヲ設ケ置クヲ可トス

教室ニハ天井ノ隅若クハ天井ニ接シタル壁ニ空氣抽キヲ附シ且床面ニ接シタル壁ニ掃出シ口ヲ附スルヲ可トス

教室採光ノ窗外ニハ多少ノ空地アルヲ要ス但窗外ニ建物アルハ平屋ナレハ可成三間以上ニ階造ナレハ可成六間以上ノ距離ヲテシムヘシ

第五條 校舍ニハ生徒ノ帽傘雨衣履物等ヲ置クヘキ場所ヲ設クルヲ可トス

校舍ニハ成ルヘク講堂生徒扣席及物置等ヲ備フヘシ

講堂ニハ教室ノ間仕切ヲ取外シテ充用スルモ妨ナシ

生徒扣席ハ可成男女ヲ區別スヘシ

生徒扣席ハ都合ニ依リ体操室ヲ以テ之ニ充ツルモ妨ナシ

唱歌ノ科目ヲ設クル學校ニ於テハ該教室ヲ成ルヘク他ノ教室ト離隔セシムヘシ

裁縫ノ科目ヲ設クル學校ニシテ男女ヲ區別シ教授セサル場合ニ於テハ該科目ノ爲メ成ルヘク特

別ノ教室ヲ備フヘシ該教室ニハ最多ク光線ヲ受クル場所ヲ撰フヘシ  
 手工又ハ工科ヲ設クル學校ノ校舍ハ工作ノ實地練習ノ爲メ特別ノ教室ヲ備フルヲ可トス大ナル  
 學校ノ校舍ハ圖書標本等ヲ置クカ爲メ特別ノ場所ヲ備フルヲ可トス  
 第六條 校舍中生徒ノ出入口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ出入口ノ内ニハ土間ヲ設ケ多數ノ兒童ヲ雜  
 沓セズシテ速ニ出入シ易カラシメ且土拭ノ爲メ格子床等ヲ備フルヲ可トス  
 教室ノ出入口ハ生徒二列ニ并ヒテ出入スルニ差支ナキ幅(四尺以上)ニナシ且戸ハ引戸等開閉ニ  
 便利ニシテ破壊シ易カラサレ構造ニナスヘシ  
 教室等出入口ノ敷居面ハ牀面ト同様ナルヲ可トス  
 第七條 教室及廊下等ノ壁ニハ牀面ヨリ凡ソ三尺ノ所マテニ腰羽目ヲ附スヘシ  
 教室ノ壁色ハ鼠色草色等反照ノ少キモノヲ撰フヘシ  
 校舍外部ノ壁ニハ可成簾子下ヲ見テ附シテ澁塗トナシ柱間ニハ十分ニ筋違ヲ差合ハセ通シ貫ハ  
 柱ノ内面ヘ決リ打ニスヘク又眞壁ナルトキハ柱ノ外面ヘ同ク決リ打ニスヘク市街等人家稠密ノ  
 地ニ在ルモノハ堅牢ナル土壁トナスヲ可トス  
 第八條 校舍ノ屋根ハ瓦葺ヲ可トスレモ土地ニ依リ瓦ノ保マサル場所等ニ於テハ火災ニ罹リ易カ  
 ラサル材料ヲ以テ葺クヘシ  
 軒出ハ二尺以上ヲ通例トス否ヲサルトキハ窓ノ上邊ニ霧除ケ庇ヲ設クヘシ  
 第九條 校舍ノ牀ハ成ルヘク二重張若クハ核判若クハ相決リ等ニシテ床下ヨリ風ノ吹き入ラサル  
 様ニナスヘシ  
 校舍ノ牀下ニハ空氣抽チ附スヘシ

階梯ハ多數ノ生徒ヲ容ル、學校ニ於テハ成ルヘク每棟二個以上ヲ設ケ其勾配ハ水平線ト三十五  
 度以下トシ直行或ハ彎曲ナラス踊場付二重梯子ニ爲シ欄干ヲ設クヘシ  
 階梯ノ幅ハ凡ソ四尺以上ニシテ其階段ノ板幅ハ八寸ニ下ラス各段ノ高サハ五寸乃至六寸ヲル  
 ヘシ  
 廊下ハ凡ソ六尺以上ニシテ外部ニ面スル所ニハ欄干ヲ附スヘシ  
 第十條 教室天井ノ高サハ牀面ヨリ九尺以上ナルヲ要ス尤モ其高サヲ得難キ場合ニ於テハ屋根裏  
 二階裏ヲ露ハシ別ニ天井ヲ設ケサルモ可ナリ  
 教室ノ天井ハ板張りヲ可トス但二階下教室ノ天井ニハ二階床ト天井トノ間ニ糊糊等ヲ容ル、ヲ  
 可トス  
 第十一條 梁ハ梁間四間以上(柱ノ間)ナルトキハ西洋小屋組ヲ可トスレモ梁間四間以下ナルトキ  
 ハ通常ノ小屋組トナスモ妨ケナシ  
 第十二條 外面ノ窓ハ牀上二尺七寸以上三尺以下ノ所ヨリ高四尺五寸以上ニ達シ且位置ハ教室ノ  
 全面ヲ照シ得ヘキ所ヲ撰ヒ其障子ハ成ルヘク硝子張ニテ左右ニ引分ケ得ヘキ者ヲ可トス  
 採光通風ノ爲メ中廊下ニ面スル方ニモ窓ヲ設クルヲ可トス  
 窓ヲ設クルニハ豫メ机腰掛ノ排列ニ注意シ光線ハ生徒ノ左方ヨリ來ル様ニ構造シ窓ノ面積ハ合  
 計シテ教室内牀ノ面積五分ノ一以上トシ生徒ノ左方ニ窓ヲ設クルコト能ハサル場合ニ於テモ生  
 徒又ハ教師ノ面前ニ之ヲ設ケスシテ生徒ノ右方ニ設クヘシ  
 日光ノ射入スル窓ニハ教室ノ光量ヲ加減スル爲メ窓掛等ヲ設クヘシ  
 第十三條 体操室ハ校舍ニ傍フテ之ヲ備フルヲ可トスレトモ他ノ學科教授ノ妨ケトナラサル様適

宜教室、離隔スヘシ

体操室ノ構造ハ長方形ニシテ大サハ教師席ヲ除キ一坪ニ付生徒二人以下ノ割合トシ正面ニ方六尺ノ教師臺ヲ設ケ壁ハ板壁トシ牀ハ板張トシ三方ノ板壁ノ中央ニ無双窓ヲ付シ其上邊ニハ空氣抽窓下邊ニハ掃出シ口ヲ一間オキニ付シ且体操器械ヲ列置スヘキ裝置ヲナスヘシ  
運動場ハ生徒一人ニ付凡二坪ニシテ男女ノ區域ヲ別ニシ砂利等ヲ敷キ平坦ニシテ且乾燥ナラシメ夏日光ヲ遮ル爲ニ落葉樹ヲ植ヘ場中或ハ其近傍ニ危險ノ場所アレハ堅固ナル塙垣ヲ設ケヘシ

土地ノ情况ニ依リテハ別ニ体操室ヲ建設セス運動場ヲ以テ之ニ充ツルモ亦可ナリトス

第十四條 農業練習場ハ成ルヘク學校接近ノ地ニ於テ之ヲ設ケヘシ尤モ便宜ニ依リ學校近傍ノ田圃所有者ト特約シテ之ヲ借用スルモ妨ケナシ

第十五條 校舍ニハ堀井戸又ハ水道等ニ依リテ善良ナル飲料水ヲ供給スヘシ其場所ハ便所塵芥溜等ト三間以上遠サカラシムルヲ要ス

第十六條 便所ハ校外北方ノ地ヲ選ヒ男女ヲ區別シテ之ヲ設ケ通風ヲ好クシ臭氣ノ鬱滞ヲ防キ校舍ヨリ便所マテノ距離ハ三間以上ニシテ其通路ニハ庇アル廊下ヲ設ケルヲ可トス

但西南等ニ方ヲ便所ヲ設ケサルヲ得サルトキハ其近傍ニ常綠樹ヲ栽エ日光ヲ遮リ臭氣ノ蒸散ヲ防クヘシ

第十七條 學校長若クハ首席教員ノ住居ヲ設ケルトキハ成ルヘク校舍ニ傍ラナ可トスレトモ教室ト適宜離隔シ教授ノ妨害トナラサル様ニスヘシ  
學校長若クハ首席教員ノ住居ニハ茶園ヲ附スルヲ可トス

第十八條 校具ハ教科用圖書參考用圖書教授用器械器具其他ノ備付品及日用品等學校ノ種類學級ノ編制兒童ノ數等ニ應ジテ之ヲ備フヘシ

第十九條 生徒用ノ机腰掛ノ高低ハ兒童身體ノ長短ニ準スヘキモノニシテ腰掛ノ高サハ兒童ノ脛ノ長サト一様ナルヘク而シテ後方ニ傾キタル椅背アルモノヲ可トス又机ノ高サハ腰掛ノ上ヨリ兒童全身六分ノ一ノ距離アルモノニシテ一人用若クハ二人用ニ止ムヘシ都テ机腰掛ノ用材ハ堅質ナルモノヲ用ユヘシ今其尺度ノ標準ヲ示スコト左ノ如シ

年 別	机			腰			椅背ノ高
	高	長	巾	高	長	巾	
六歳ヨリ八歳迄ノ兒童ニ供用スルモノ	一、六〇	三、四〇	一、〇五	〇、九〇	三、四〇	〇、七〇	〇、九二
八歳ヨリ十歳迄ノ兒童ニ供用スルモノ	一、八〇	三、六〇	一、二五	〇、九八	三、六〇	〇、八〇	〇、九七
十歳ヨリ十二歳迄ノ兒童ニ供用スルモノ	二、〇〇	三、八〇	一、三五	一、一〇	三、八〇	〇、九〇	一、〇五
十二歳ヨリ十四歳迄ノ兒童ニ供用スルモノ	二、二〇	四、〇〇	一、三五	一、二〇	四、〇〇	一、〇〇	一、一四

第二十條 暖室ノ方法ハ暖爐火鉢等學校ノ情况ニ依リテ便宜之ヲ定ムヘシ但火災ノ豫防ハ勿論火氣ノ爲メ生徒ノ健康ヲ害セサル様注意スヘシ

第二十一條 黑板ハ塗壁ナルトキハ高サ三尺三寸以上横九尺以上ニシテ五六度ノ傾アルヲ可トス木材ヲ用フルトキハ良材ヲ撰ヒ矧キ目ヲ密ニシテ時々黒色ヲ塗抹シ褪色セサラシムヘシ

第二十二條 凡ソ校具ヲ構造スルニハ質素堅牢ニシテ實用ヲ旨トシ保存ニ便ナルヲ務ムヘシ又校具

ノ排置ニ關シテハ常ニ其場所ヲ定メ置キ番號等ヲ附シテ整理スルヲ要ス

○長野縣訓令第二十一號

郡 役 所  
町 村 役 場

那視學職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

長野縣知事 淺田德則

明治二十五年二月十三日

那視學職務規程

第一條 那視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケ左ノ要項ニ依リ郡内ノ教育事務ヲ監督スヘシ

- 一 學校ノ設備
- 二 學校ノ風紀
- 三 學級編制教員配置ノ方法
- 四 教授及管理
- 五 兒童ノ就學
- 六 學校ニ關スル資産ノ管理及收支
- 七 町村教育費ノ收支

- 八 學事ニ關スル諸帳簿ノ整理
  - 九 家庭又ハ其他ニ於ケル尋常小學校ノ教授
  - 十 幼稚園圖書館盲啞學校其他各種學校
  - 十一 其他教育ニ關スル一切ノ事項
- 第二條 那視學ハ每年少シモ三回以上巡回シ毎回巡視功程書ヲ作り郡長ニ差出スヘシ
- 第三條 那視學ハ教育上一切ノ事ニ注意シ其利害得失ニ就キ意見アルトキハ郡長ニ具申スヘシ

○長野縣訓令第三十號

郡 役 所

今般縣令第二十二號ヲ以テ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校設置

廢止規則相定候ニ付テハ右設置ニ關スル書而進達ノ節ハ詳細ナル意見書ヲ添付スヘシ

明治二十五年三月五日

長野縣知事 淺田德則

○長野縣訓令第三十八號

郡 役 所  
町 村 役 場  
小 學 校

今般縣令第二十八號ヲ以テ小學校教則並每週教授時間相定メ候處教科用圖書ハ當分ノ内明治二十一年三縣令第三十四號小學校教科用圖書表ニ依リ適宜各教科目ニ配當シテ之ヲ用フヘシ



明治二十五年三月十八日

長野縣知事 淺田徳則

○長野縣訓令第五十二號

郡 役 所

町 村 役 場

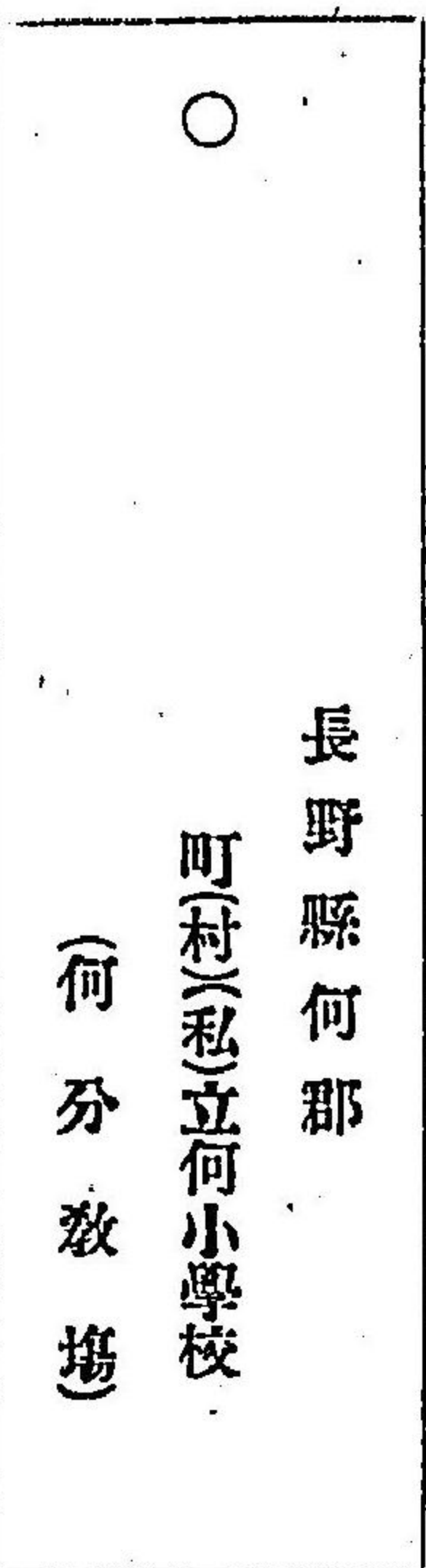
町村立私立小學校名ハ高等尋常ノ區別ニ依リ何々高等小學校、何々尋常小學校、何々尋常小學校ト稱シ標札並印章ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

但明治廿五年二月訓令第十六號ハ廢止ス

長野縣知事 淺田徳則

明治廿五年四月二日

標 札  
1尺11ヤ



方一寸四分

方六分

方六分

校 印	長野縣何郡町(私)立何小學校	町村立小學校長印	長野縣何郡何小學校長印	町村立小學校訓導印	長野縣何郡何小學校訓導印
-----	----------------	----------	-------------	-----------	--------------

明治二十五年三月十八日

長野縣知事 淺田徳則

○長野縣訓令第六十二號

郡 役 所

町 村 役 場

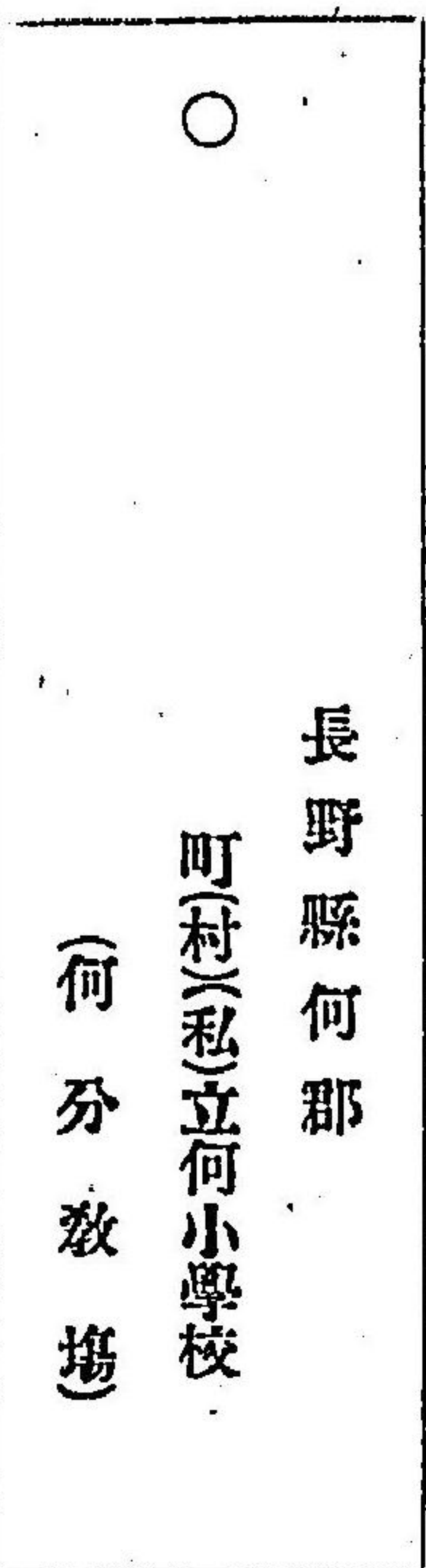
明治廿五年ニ本縣訓令第十九號町村立小學校教員恩給基金收納規則ニ關スル翌年度收入豫算ハ左ノ表式ニヨリ毎年八月三十一日限リ報告スベシ

但本年度ノ豫算ハ本年五月二十日限報告スベシ

長野縣知事 淺田徳則

明治廿五年四月廿九日

標 札  
1尺11ヤ



方一寸四分

方六分

方六分

校 印	長野縣何郡町(私)立何小學校	町村立小學校長印	長野縣何郡何小學校長印	町村立小學校訓導印	長野縣何郡何小學校訓導印
-----	----------------	----------	-------------	-----------	--------------

○長野縣訓令第六十二號

郡 役 所

明治廿五年ニ本縣訓令第十九號町村立小學校教員恩給基金收納規則ニ關スル翌年度收入豫算ハ左ノ表式ニヨリ毎年八月三十一日限リ報告スベシ

但本年度ノ豫算ハ本年五月二十日限報告スベシ

長野縣知事 淺田徳則

明治廿五年四月廿九日

明治何年度小學校教員恩給基金收入豫算表

收 入 區 別	本 年 度 豫 算 額	前 年 度 豫 算 額	比 較	
			増 減	率
町村立小學校教員納金				
町 村 納 金				
合 計				

備考(月給何圓幾人月給何圓幾人等ノ算出法ヲ記スベシ)

○長野縣訓令第百十七號

尋常師範學校

其校生徒學費支給規則別冊之通相定メ明治廿六年度ヨリ施行ス

明治廿五年八月一日

尋常師範學校生徒學費支給規則

長野縣知事 淺田徳則

第一條 生徒ノ學費ハ食物被服及雜費ノ三種目トス  
 第二條 食物ハ主トシテ衛生上ニ注意シ之ヲ賄フヘシ  
 但生徒ヲシテ自炊セシムルハ定額ノ食費ヲ給與スヘシ  
 第三條 被服ハ左表ニ依テ之ヲ給シ若シ其期限内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交付スルヲ要スルハ其費用ハ本人ヨリ徴收スヘシ

品目	給與年月	給與年月				計	
		第一 年	第二 年	第三 年	第四 年		
冬衣袴	滿一年	二		一	一	四	
夏衣袴	滿一年		二		一	四	
冬シャツ袴下	滿十ヶ月			一		五	
夏シャツ袴下	滿十ヶ月		二		一	五	
外套(頭巾付)	滿四年	一				一	
帽子(日覆付)	滿二年	一				二	
靴	滿六ヶ月	二				二	
脚絆	滿二年	一				二	
靴	下半年ヶ月	每月二足ツ、	全	上	全	上	九六

第四條 雜費ハ日用品、修理、浴湯、每週手當、藥餌等ノ費用ニシテ其區別ハ左項ニ依ルヘシ

第一項 日用品ハ左ノ如シ

- 一 墨 一ヶ年 二挺 一インキ 一ヶ年 一壺
- 一 石筆 一ヶ年 二本 一鉛筆 一ヶ月 二本
- 一 筆 一ヶ月 五本 一ペン 一ヶ月 一本
- 一 ペン軸 入學ノ時 一本 一筆記用紙 一ヶ月 二百枚
- 一 西洋紙 一ヶ月 十枚 一書學用紙 一ヶ月 五枚
- 一 習字及作文用紙 一ヶ月 廿枚 一英字習字本 初年生 三冊

- 第二項 修理ハ被服ノ洗濯及靴ノ修履トス
- 第三項 浴湯ハ寄宿舎内ニ浴室ヲ設ク其回数ハ季候ノ寒暖ニ依テ適宜之ヲ定ム
- 第四項 每週手當ハ毎土曜日に於テ其在學ノ生徒一人ニ付金拾錢ヲ給ス
- 第五項 藥餌ハ發病ノ生徒ニ療養ヲ命シタルトキニ限リ其費用ヲ給ス
- 第五條 女生徒ノ被服ハ第三條ノ物品中帽子脚絆外套ヲ除キ其他ノ現價ヲ計算シ之ニ相當スル服地若クハ金員ヲ給與シ其調製ハ各自ニ任スヘシ



